

資産運用会社概要レポート: 日本 2026

日本における資産運用会社残高上位 60 社を比較

モーニングスター

2026 年 9 月 1 日

目次

- 2 主なポイント
- 3 はじめに
- 5 上位ランキング
- 15 運用会社ファクトシート
- 46 付録

元利 大輔
モーニングスター・ジャパン
マネジャー・リサーチ部長
+81 3 4510-5492
daisuke.motori@morningstar.com

橋本 直子
モーニングスター・ジャパン
マネジャー・リサーチ部
シニア・アナリスト
+81 3 4520-2193
naoko.hashimoto@morningstar.com

Bridget B. Hughes, CFA
Senior Principal, Parent Research
+1 312 696-6231
bridget.hughes@morningstar.com

Alyssa Stankiewicz
Principal, Parent Research
+1 312 244-8932
alyssa.stankiewicz@morningstar.com

Maciej Kowara, Ph.D.
Principal, Manager Research
+1 312 244-7464
maciej.kowara@morningstar.com

重要事項

Morningstar のアナリストの行為は、倫理規程/職業行為規範ポリシー、個人の証券等取引（またはこれに準ずる）ポリシーおよび投資調査ポリシーによって規定されています。利益相反に関する詳細については、以下をご覧ください。
global.morningstar.com/equitydisclosures

概要

モーニングスターでは、米国や欧州などで資産運用会社概要レポートを定期的に発行している。このレポートは、各地域におけるオープンエンド型ファンドと ETF の運用資産残高上位の資産運用会社を、投資家が評価する際に活用できるものである。本レポートでは、日本における運用資産残高上位 60 社の運用会社を取り上げている。

本レポートには、モーニングスターのデータ、レーティング、および分析が盛り込まれている。主要なものとしては、モーニングスター・メダリスト・レーティングを構成する 3 つの評価軸の 1 つである、モーニングスター運用会社評価である。運用会社評価は、資産運用会社が投資家の最善の利益のために、投資家の資金をどれだけ適切に運用しているかについて、モーニングスターのアナリストの見解を示すものである。これには、企業の投資文化、ビジネス慣行、報酬体系、また運用費用を決める際の理念などを分析した結果が含まれる。本レポートに掲載されている資産運用会社の約半数は、モーニングスターのアナリストによってカバーされており、レポートにはそれぞれの運用会社評価が表示されている。アナリストがカバーしていない運用会社については、定量的な手法を用いて評価が付与されている。

本レポートは大きく 2 つのセクションに分かれている。最初のセクションでは、市場シェアやモーニングスター・メダリスト・レーティングなど、さまざまな指標における上位の運用会社を紹介する。次のセクションでは、モーニングスターのアナリストがカバーする運用会社 31 社について、各社のファクトシートを掲載する。

ファクトシートには、60 社中における各社の順位が示されている。これらの順位、および本レポート内のデータは、特段の断りがない限り、2026 年 6 月 30 日時点の数値を用いている。順位は、優れているものから劣っているものへの順に示されている。ただし、運用資産残高や資金フローのように、グループ内で最大から最小の順に示される場合もある。

表示されるデータ項目の算出に関する詳細については、付録を参照されたい。

なお、本レポートでは運用会社名を識別可能な範囲で簡略化して表記している場合がある。また、外資系運用会社については、グローバルで使用されている名称を記載している場合があることをご了承いただきたい。

主なポイント

- ▶ 日本の投資信託市場は引き続き拡大している。日本籍公募追加型株式投資信託への純資金流入額は 2026 年 6 月まで 10 ヶ月連続で月間 1 兆円を超え、運用資産残高は 2026 年 5 月に 200 兆円を突破した。堅調な株式市場と円安がその背景にある。
- ▶ 大手金融機関グループ傘下の日系資産運用会社は、強固な国内販売網を通じて引き続き大きな市場を有している。一方で、外資系資産運用会社も、海外運用戦略に関する専門性を活かし、外部委託契約の形式も使いながら存在感を高めている。
- ▶ 政府による参入障壁の緩和策にもかかわらず、新規参入の資産運用会社は大きな市場シェアを獲得できていない。これは、銀行や証券会社の販売チャネルが引き続き強い影響力を持ち、新規参入者がその販売網を容易に活用できないことを反映している。
- ▶ 低コストのインデックス・ファンドは大幅な成長を遂げており、日本籍の追加型株式投資信託（ETF を除く）に占める割合は、2016 年 6 月の約 12% から 2026 年 6 月には 41% へ上昇した。
- ▶ 野村アセットマネジメントは、引き続き運用資産残高ベースで国内最大の資産運用会社である。同社の運用資産残高の多くはパッシブ戦略で構成されており、これは日本銀行による長年にわたる ETF 購入プログラムの影響を強く受けたものである。
- ▶ 前年と同様に、運用資産残高上位 3 社である野村アセットマネジメント、三菱 UFI アセットマネジメント、大和アセットマネジメントが上位 60 社の残高の半分強を占めている。この集中度は米国市場と概ね同水準である。
- ▶ ETF は銀行チャネルで販売できないことが成長の制約となっており、日本の個人投資家向けの ETF 市場は依然として小規模で、また、その大半はインデックス運用戦略である。
- ▶ 本レポートで取り上げる 60 社のうち、モーニングスター運用会社評価で「高（High）」を獲得している運用会社は、キャピタル・グループ、J.P.モルガン・アセット・マネジメント、スパークス・アセット・マネジメントの 3 社のみである。スパークス・アセット・マネジメントやコモنز投信（「平均以上」（Above Average）の評価）のような比較的小規模な運用会社も良い評価を得ており、運用資産規模の大きさが運用会社評価に比例するものではない。つまり、モーニングスターでは運用資産規模ではなく受託者責任の遂行を重視していることを示している。
- ▶ フィデリティ、野村アセットマネジメント、三井住友トラスト・アセットマネジメントは、上位 10 社の中で最も高い平均モーニングスター・レーティングを獲得している。また、低コストのパッシブ運用会社に加え、あおぞら投信など一部のアクティブ運用会社も際立った評価を得ている。

はじめに

日本の投資信託市場は、拡大を続けている。新 NISA 制度開始から 3 年目となる 2026 年も、公募追加型株式投資信託への資金流入は高水準を維持しており、純資金流入額は 2026 年 6 月まで 10 ヶ月連続で 1 兆円を超えた。株式市場の堅調な推移や円安による海外資産の評価額の押し上げも加わり、運用資産残高は 2026 年 5 月に 200 兆円を突破した。個人投資家による長期的な資産形成は広まりつつあり、資産運用会社に求められる役割は一層重みを増している。

日本の投資信託市場では、大手金融機関グループ傘下の日系資産運用会社が、グループ内の銀行・証券会社の強固な販売網を活用することで運用資産残高を拡大してきた。一方、外資系資産運用会社は、日系運用会社にはない海外資産戦略の運用力を強みに、日本での存在感を高めている。外資系資産運用会社の展開には、自社で日本の販売会社を開拓するケースに加え、日系運用会社からの外部委託を通じた形も少なくない。なお、外部委託された運用資産残高や資金フローは、実際に運用を行う外資系運用会社ではなく、委託元の運用会社に帰属する形で集計されている。そのため、外資系運用会社の実質的な市場シェアは、本レポートで示す数値よりも高い可能性がある点に留意されたい。

足元では、政府による資産運用立国の取り組みのもと、資産運用業への新規参入促進や規制緩和が進められており、独立系・新興系の運用会社にとっての参入障壁は以前より低くなっている。しかし、新規参入者が上位の運用資産残高ランキングに食い込むようなケースは、これまでのところ見られない。この背景には、日本における投資信託の販売・流通モデルの特性がある。日本では、投資信託の販売の大部分が引き続き銀行・証券会社経由で行われており、これらの販売チャネルへのアクセスが弱い独立系・新興系の運用会社にとって、日本市場でのシェア拡大は容易ではない。ファンドを作る面での規制は緩和されつつあるが、より多くの運用会社が投資家のために切磋琢磨する環境を整えるには、ファンドの流通・販売面での変革も課題として残されている。

過去 10 年にわたる最大の構造変化は、インデックス・ファンドの急速な拡大である。日本籍の公募追加型株式投資信託（ETF 除く）におけるインデックス・ファンドの残高シェアは、2016 年 6 月末の約 12% から 2026 年 6 月末には 41% に達した。株式型に限れば、インデックス・ファンドのシェアは 50% 近くまで高まっている。低コストの株式インデックス・ファンドである三菱 UFJ アセットマネジメントの「**eMAXIS Slim 全世界株式（オール・カントリー）**」および「**eMAXIS Slim 米国株式（S&P500）**」は、新 NISA つみたて投資枠を中心に個人投資家から継続的に資金を集め、いずれも運用資産残高が 10 兆円を突破した。他方で、AI 関連や半導体などの人気のテーマ・セクター型ファンドへの資金流入も再び目立ち始めている。プロダクト・ガバナンス

スの強化を掲げ、従来散見された販売・マーケティング主導の商品開発から、投資家目線の運用主導の商品開発へと軸足を移したと説明する運用会社が近年増えている。しかし、テーマ・セクター型ファンドの新規設定が続いている実態を踏まえると、このような説明が実際の商品開発の姿勢にどの程度反映されているのかは、今後の動向を注視する必要がある。また、テーマ性・ストーリー性が強いファンドは投資家が短期間で売却する傾向も見られ、資産運用会社には、商品開発だけでなく、販売会社等を通じた継続的な情報提供のあり方も問われている。

パッシブ運用の定着とコスト競争の激化を背景に、アクティブ運用に活路を見出そうとする資産運用会社も少なくない。その一つの方角性が、新たな投資機会の提供である。公募投資信託における未上場株式等の組入れや、オルタナティブ資産における3層構造のファンド（ファンド・オブ・ファンド・オブ・ファンズ）の解禁などを追い風に、プライベート資産に投資を行うファンドを開発する動きが見られる。もう一つの方角性は、透明性の向上によりアクティブ運用への信頼を高める動きである。複数の運用会社では、これまで開示が限定的であったファンドマネージャー名などの運用体制に関する情報を、自主的に公表し始めている。現時点では、ファンドマネージャー名の開示は各社で異なる段階にあることから、本レポートでは運用人材に関する統計は記載していない。運用人材に関する情報は各社の取り組みの進展とともに、将来のレポートで反映していきたいと考えている。

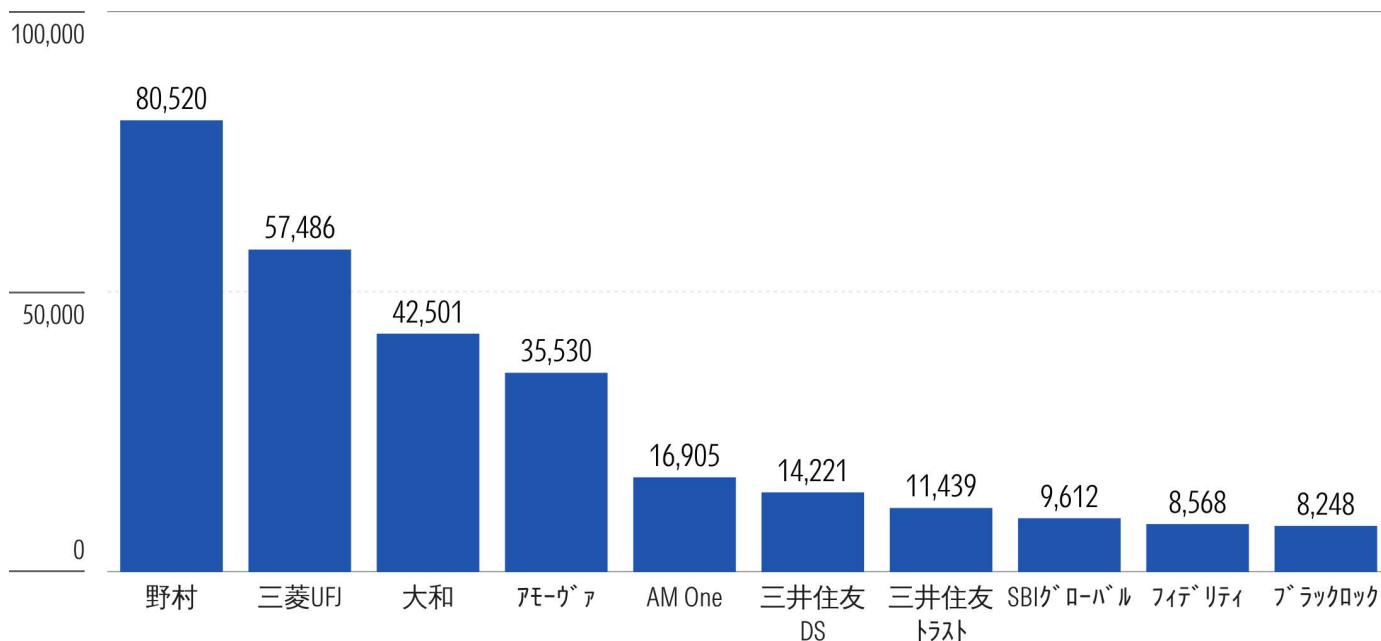
運用会社を取り巻く環境が変化の中で、モーニングスターの運用会社評価は、環境変化に左右されず妥当性を保つ恒久的な要因を重視し続けている。運用会社が運用人材を採用し、育成し、定着させる力は極めて重要であり、キーパーソン・リスクや後継者計画に関する取り組みも重要である。また、運用会社のファンド・ラインアップ、ファンドの新規設定と償還を含む商品開発への取り組み方、長期的な視点で投資家重視の姿勢を保っているか、運用者に対する報酬体系が投資家との利益一致を促す設計となっているかも、重要な評価事項である。加えて、成功率やモーニングスター・レーティングで測定されるリスク調整後リターン、および各ファンドに対するモーニングスター・アナリストの定性評価の分布も、運用会社評価に反映されている。本レポートは、包括的な運用会社評価を提供するため、ファクトシートにてこれらの指標を表示する。

上位ランキング

野村アセットマネジメントが首位を維持、上位運用会社ではパッシブ運用が中心

日本のファンド業界における公募追加型投資信託および ETF の運用資産残高上位 60 社を見ると、野村アセットマネジメントが引き続き首位となった。上位には大手金融機関グループ傘下の資産運用会社が並び、総じてパッシブ運用資産の比率が高い傾向が見られる。

図表 1 運用資産残高上位 10 社 (単位: 10 億円)



出所: Morningstar Research. 2026 年 6 月 30 日時点、日本籍公募追加型投信と上場投資信託 (ETF) を対象、短期金融資産のみのファンドは除いている。

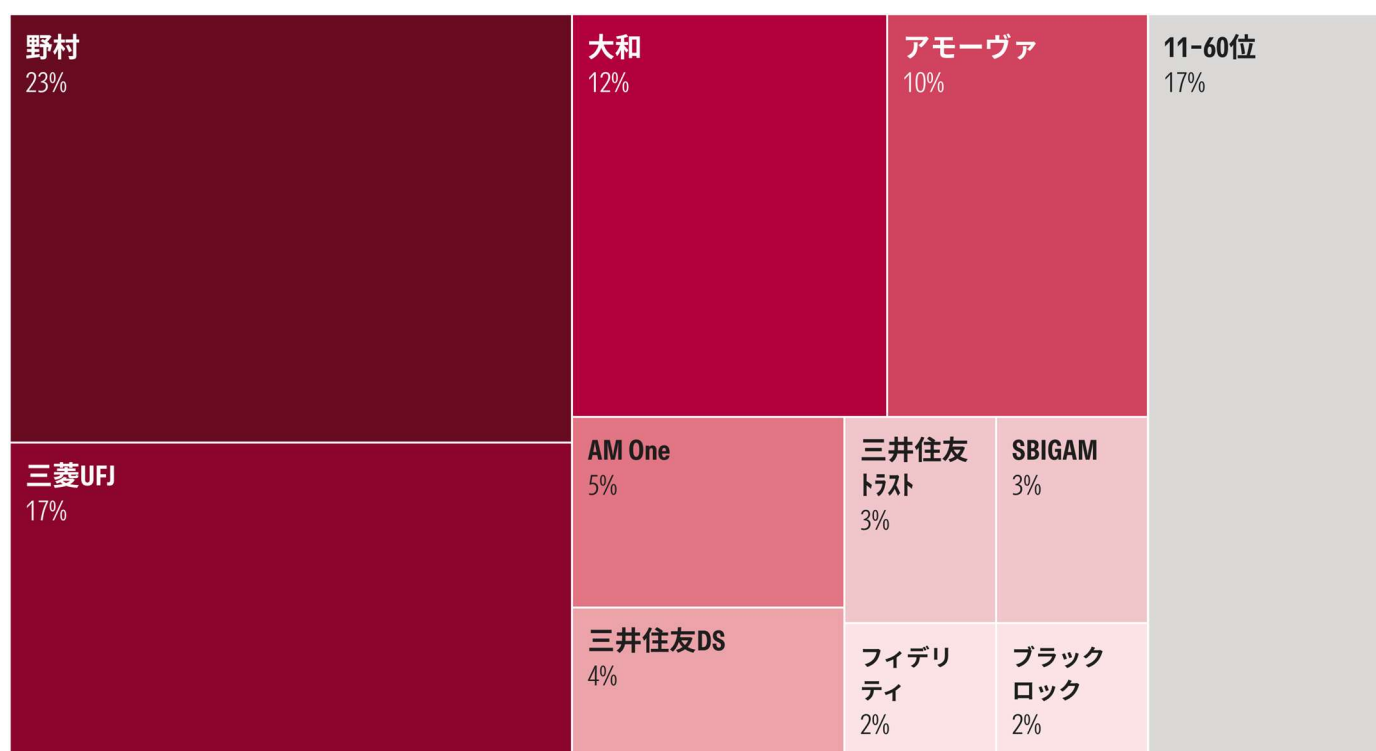
残高上位の運用会社におけるパッシブ運用資産の比率の高さには、長年にわたる日本銀行による ETF 買入れの影響も大きい。野村アセットマネジメント、大和アセットマネジメント、アモーヴァ・アセットマネジメントなどでは、日本銀行が現在も保有する大量の国内株式 ETF が運用資産残高の相当部分を占めている。また、新 NISA 開始以降、低コストの株式インデックス・ファンドへの資金流入が続いていることも、一部の大手運用会社のパッシブ運用資産の拡大を後押ししている。三菱 UFJ アセットマネジメントのほか、今年のレポートから SBI グループ傘下の運用会社を集約している SBI グローバルアセットマネジメントなどはその代表例である。

一方、外資系資産運用会社が大手金融機関グループ傘下の日系運用会社と同規模の運用資産残高を獲得することは容易ではない。大手日系運用会社はグループ内に強固な販売網を有しているが、外資系運用会社にはそのような国内販売網へのアクセスが限られるためである。実際、ランキング上位 10 社に入った外資系資産運用会社はブラックロックとフィデリティのみであり、このうち主にアクティブ運用を手掛ける運用会社はフィデリティのみであった。

高い市場集中度が続く日本のファンド市場

日本のファンド市場における集中度は引き続き高く、一部の大手運用会社が運用資産残高の大部分を占めている。ここ数年、上位運用会社の顔ぶれや市場構造に大きな変化は見られない。野村アセットマネジメントが市場全体の運用資産残高の約 4 分の 1 を占め首位を維持し、三菱 UFJ アセットマネジメント、大和アセットマネジメントがこれに続く。上位 3 社の運用資産残高を合計すると、公募投資信託および ETF 市場全体の半分以上を超えている。この構造は、バンガード、ブラックロック、フィデリティ¹ の 3 社で総運用資産残高の約半分以上を占める米国市場とも共通する。

図表 2 市場集中度



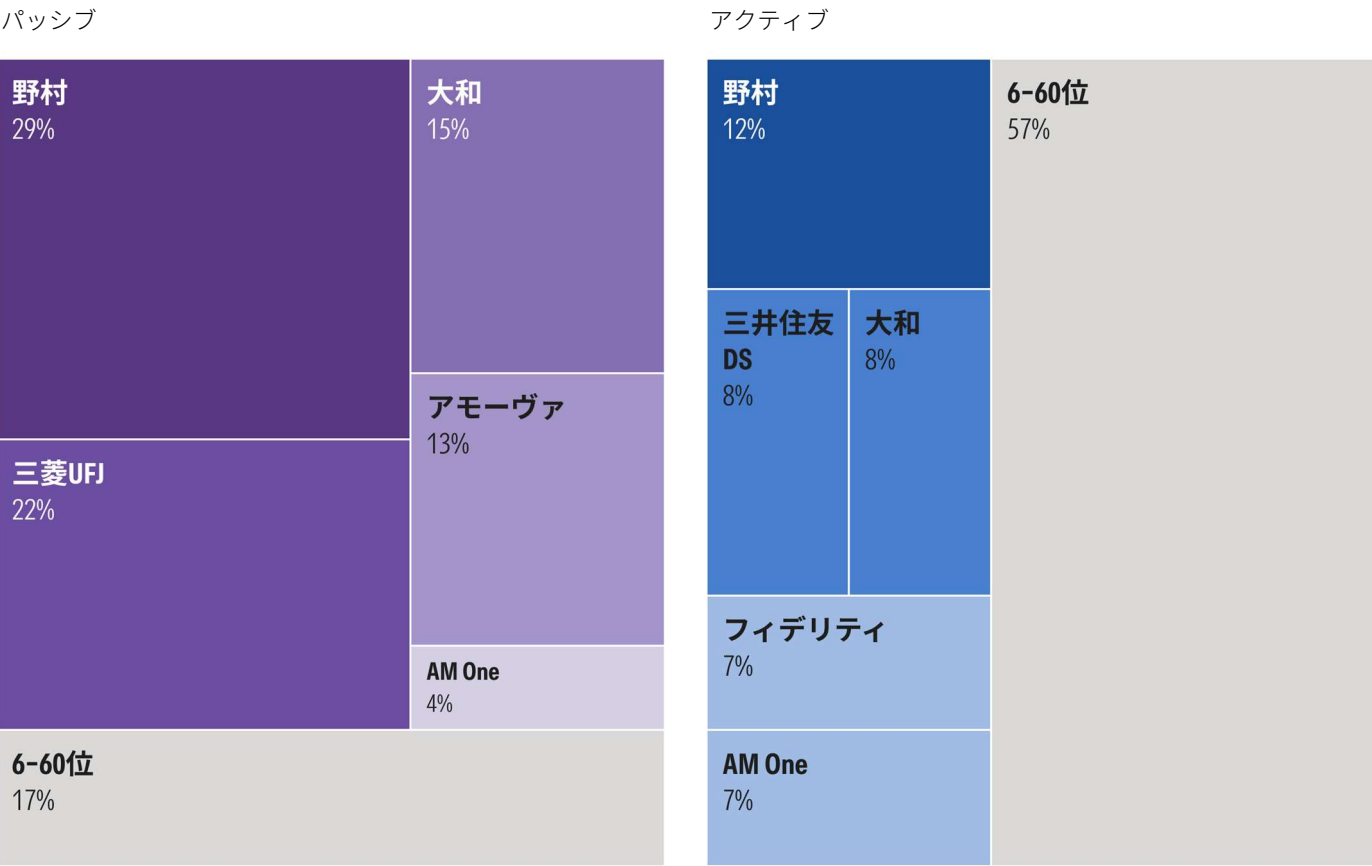
出所: Morningstar Research. 2026 年 6 月 30 日時点、日本籍公募追加型投信と上場投資信託 (ETF) を対象、短期金融資産のみのファンドは除いている。

¹米国のフィデリティ・インベストメンツと日本のフィデリティ投信が属するフィデリティ・インターナショナルは独立した別組織である。

パッシブ運用では集中度がさらに高く、上位 4 社が市場全体のパッシブ運用資産の約 8 割を占めている。2010 年代から 2020 年代初頭にかけて実施された日本銀行による ETF 購入が大手運用会社の資産成長を後押ししたことに加え、近年は新 NISA を通じた個人投資家の資金流入もパッシブ運用資産の拡大に寄与している。特に三菱 UFJ アセットマネジメントは、「eMAXIS Slim」シリーズへの継続的な資金流入を背景にパッシブ運用資産を伸ばしている。

一方、アクティブ運用はパッシブ運用と比べて市場の分散度が高い。アクティブ運用資産残高に占める上位 5 社の割合は約 4 割にとどまっており、より幅広い運用会社が一定の存在感を維持している。パッシブ運用では一部の大手運用会社への集中が進んでいる一方で、アクティブ運用ではより多様な運用会社が競争している状況がうかがえる。

図表 3 市場集中度: アクティブ・パッシブ別

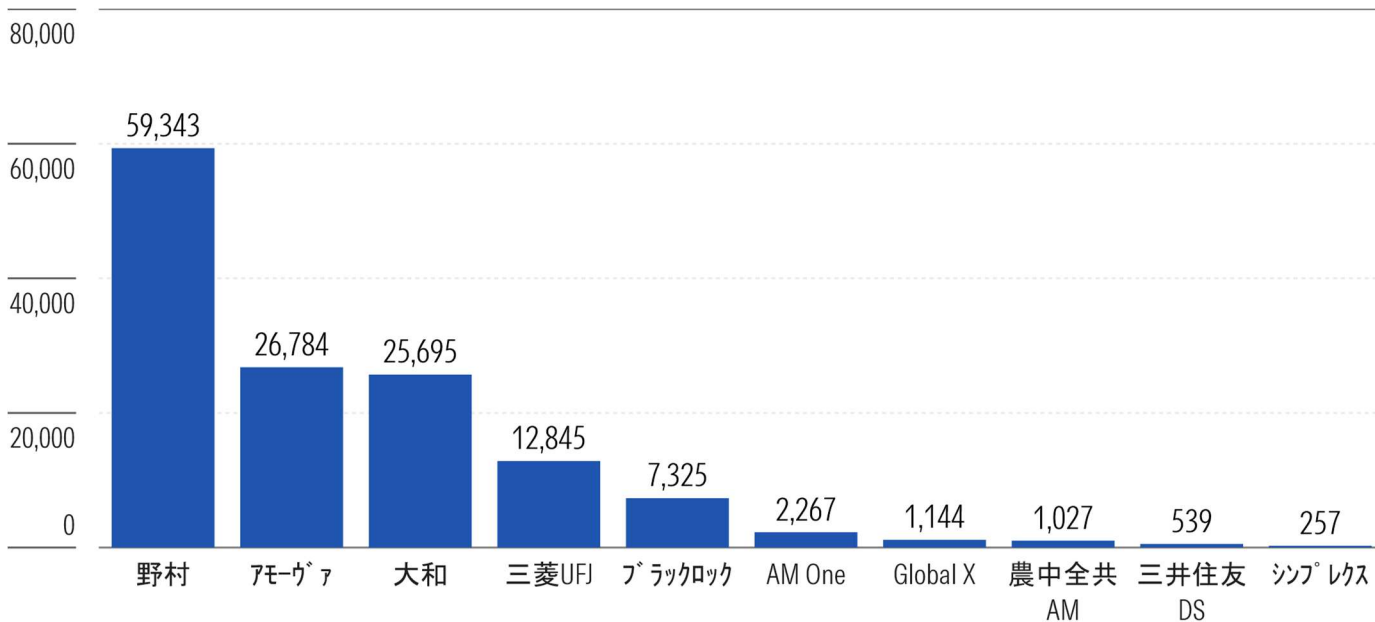


出所: Morningstar Research. 2026 年 6 月 30 日時点、日本籍公募追加型投信と上場投資信託（ETF）を対象、短期金融資産のみのファンドは除いている。

ETF 市場

日本の ETF 市場は、過去の日本銀行による ETF 買入れの影響もあり、引き続き少数の大手運用会社が資産の大半を占める構造となっている。2023 年にはアクティブ ETF が解禁され、新規商品の設定も見られるが、市場全体に占める存在感は依然として限定的である。日本では ETF を銀行チャネルで購入することができず、証券会社においても投資信託ほど積極的に販売されていないことから、市場拡大のペースは緩やかであり、需要は引き続きパッシブ ETF に集中している。

図表 4 ETF 運用資産残高上位 10 社 (単位: 10 億円)

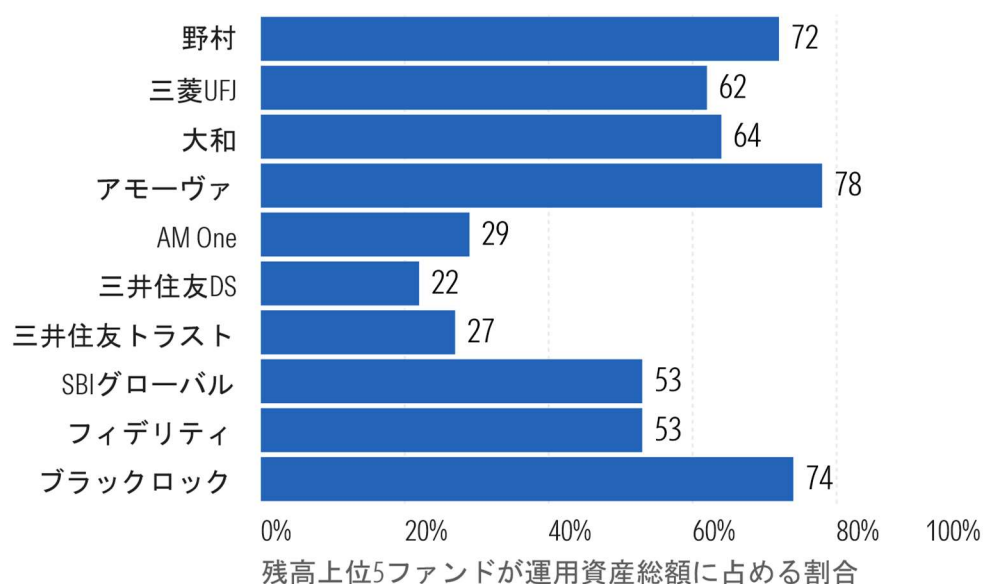


出所: Morningstar Research. 2026 年 6 月 30 日時点、上場投資信託 (ETF) を対象。

ラインアップ集中度

日本の運用資産残高上位 10 社の大半は、引き続き特定のファンドへ運用資産残高が集中している。上位 10 社のうち 7 社では、運用資産残高の 50%超が上位 5 ファンドに集中している。特に日銀が保有する ETF を運用する運用会社は総じて、上位 5 ファンドが総運用資産残高に占める割合が高い。例えば、野村アセットマネジメントは業界最多となる 670 本超のファンドを提供するにもかかわらず、運用資産残高の約 70%が上位 5 ファンドに集中しており、そのうち 3 本は ETF である。

対照的に、三井住友 DS アセットマネジメント、三井住友トラスト・アセットマネジメント、アセットマネジメント One の集中度は 22%から 29%である。いずれも 200 本以上のファンドを有する運用会社であり、これらの集中度は相当な水準ではあるが、他の大手運用会社と比較すると集中度は低い。

図表 5 残高上位 10 社における上位 5 ファンドへの集中度

出所: Morningstar Research. 2026 年 6 月 30 日時点、日本籍公募追加型投信と上場投資信託 (ETF) を対象、短期金融資産のみのファンドは除いている。

高い運用会社評価を獲得した運用会社は、優れたスチュワードシップと投資家重視の姿勢を示す

モーニングスターのマネジャーリサーチ部門のアナリストは、本レポートで取り上げる 60 社のうち 31 社に運用会社評価を付与している。運用会社評価は、各ファンドのモーニングスター・メダリスト・レーティングを構成する重要な要素の一つである。評価にあたっては、投資文化、人材の育成・定着、後継者計画、リスク管理、商品開発、ガバナンス、運用費用に対する考え方など、幅広い定性的要素が考慮される。

本レポートの対象企業では、キャピタル・グループ、J.P.モルガン・アセット、スパークス・アセットの 3 社が最上位の「高 (High)」の評価を獲得している。また、野村アセットマネジメントや三井住友 DS アセットマネジメントを含む 10 社が「平均以上 (Above Average)」の評価を受けている。これらの運用会社は、規模や運用スタイル、商品構成に違いがあるものの、いずれも長期的な投資家利益を重視する姿勢を共有している。加えて、確立された投資文化や明確なガバナンス体制、規律ある商品開発プロセス、そして運用担当者のインセンティブを投資家利益と整合させる報酬制度などが共通して見られる。

なお、運用資産残高の大きさが運用会社評価の高さに比例するわけではない。例えば、スパークス・アセット・マネジメントやコモンズ投信は運用資産残高では比較的小規模であるものの、高い評価を獲得している。これは、モーニングスターの運用会社評価が運用資産規模や短期的な運用成績ではなく、スチュワードシップの質や投資家本位の取り組みを重視していることを示している。

なお、運用会社に対するモーニングスターの評価は、各社のグローバルな事業全体を対象として行われている。そのため、市場規模の大きい地域ほど評価に与える影響は大きくなる。一方、本レポートに掲載している成功率や運用費用水準などの指標は、日本で提供される商品の特性を反映したものであり、運用会社全体のグローバルな商品ラインアップを必ずしも代表するものではない。特に外資系運用会社の場合、この点に留意されたい。

図表 6 運用会社評価が「高 (High)」または「平均以上 (Above Average)」の運用会社一覧

運用会社	運用会社 評価	運 用 資 産 残 高 (10 億円)	株式運用資産 残高割合	メダリスト・ ファンド割合	5 年	10 年		カテゴリ内 運用費用 水準	
					成功率	リスク 調整後 成功率	成功率		リスク 調整後 成功率
キャピタル・ グループ	高	3,715	80%	93%	33%	42%	50%	56%	30
JP モルガン	高	911	72%	52%	13%	12%	10%	10%	53
スパークス	高	607	100%	23%	11%	12%	33%	27%	69
野村	平均以上	80,520	88%	45%	44%	43%	41%	40%	47
三井住友 DS	平均以上	14,221	74%	22%	37%	35%	26%	26%	49
フィデリティ	平均以上	8,568	86%	40%	55%	57%	38%	40%	55
ブラックロック	平均以上	8,248	89%	44%	46%	40%	39%	28%	44
ピクテ	平均以上	3,960	49%	9%	38%	26%	21%	13%	47
T ロウ・プライス	平均以上	2,114	86%	53%	38%	14%			42
ステート・S	平均以上	498	81%	74%	56%	59%	53%	60%	42
シュローダー	平均以上	182	89%	22%	31%	20%	29%	23%	67
マニュライフ	平均以上	157	17%	0%	24%	17%	8%	0%	60
コモンズ投信	平均以上	117	100%	0%	33%	33%	33%	33%	40

出所: Morningstar Research. 2026 年 6 月 30 日時点、日本籍公募追加型投信と上場投資信託 (ETF) を対象、短期金融資産のみのファンドは除いている。

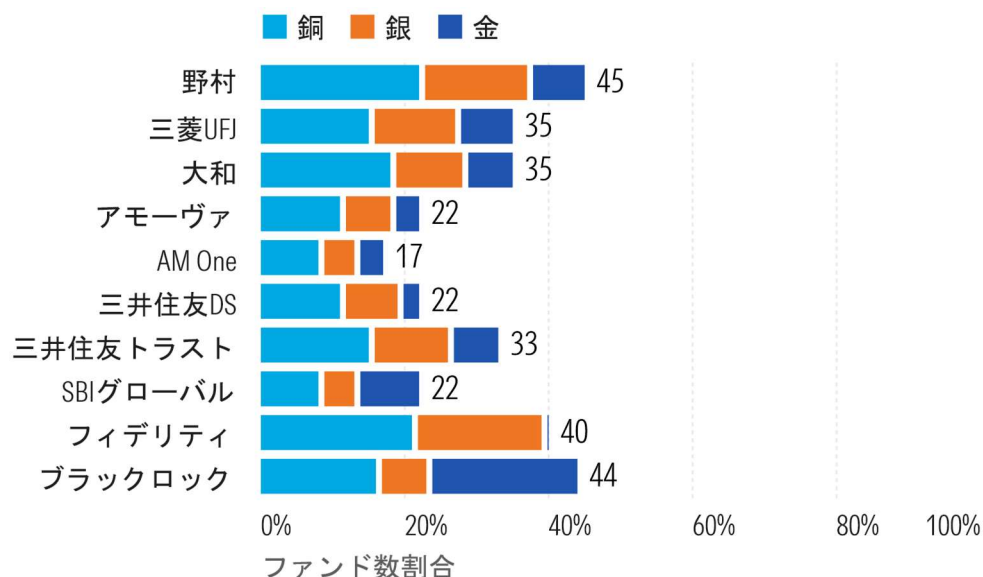
モーニングスター・メダリスト・レーティングの分布は運用会社間で大きな差

モーニングスターでは、マネジャー・リサーチ部門による評価に基づき、各戦略が運用費用控除後で同カテゴリの競合ファンドを上回る成果を上げる可能性についての見通しを示す「モーニングスター・メダリスト・レーティング」を付与している。図表 7 は、各運用会社のファンドのうち、メダリスト・レーティングで高い評価（金（Gold）、銀（Silver）、銅（Bronze））を獲得しているファンドの割合を示している。

日本の運用資産残高上位 10 社では、平均して約 3 分の 1 のファンドが金、銀、銅の評価を獲得している。ただし、その割合には運用会社ごとに大きな差が見られる。野村アセットマネジメントとブラックロックは、それぞれ 45% および 44% と最も高い割合を示しており、将来見通しに基づく評価が良好なファンドを数多く有していることを反映している。一方、他の大手運用会社では金、銀、銅の評価を獲得しているファンドの割合が相対的に低い。これは、運用資産残高の規模の大きさが必ずしも高いメダリスト・レーティングにつながるわけではないことを示している。

また、高評価ファンドの内訳にも運用会社ごとの差が見られる。ブラックロックは、低コストのパッシブ運用商品を中心とするラインアップを背景に、「金」の評価を獲得しているファンドの割合が最も高い。一方、フィデリティは「銀」や「銅」の評価を獲得しているファンドの割合が比較的高い。

図表 7 残高上位 10 社におけるメダリスト・レーティングの金、銀、銅ファンドの割合



出所: Morningstar Research. 2026 年 6 月 30 日時点、日本籍公募追加型投信と上場投資信託 (ETF) を対象、短期金融資産のみのファンドは除いている。

残高上位 10 社のうち 3 社がモーニングスター・レーティングでも上位に

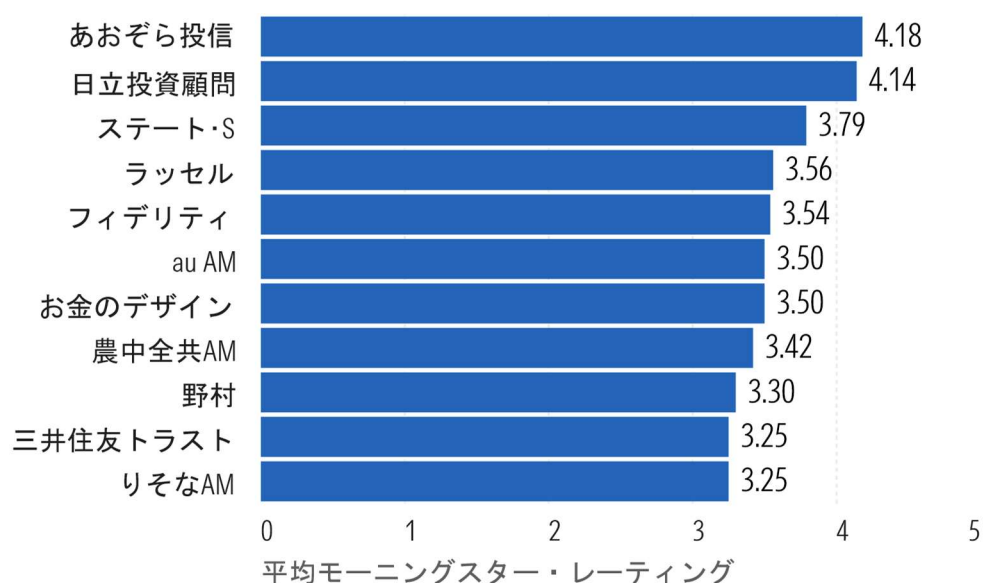
モーニングスター・レーティングは、モーニングスター・カテゴリ内のファンドと比較して、運用費用控除後かつリスク調整後ベースで、ファンドがどの程度優れたパフォーマンスを示したかを、1つ星から5つ星の範囲で示したものである。この指標は最低3年間のリターンに基づき算出され、ファンドの運用期間が長期化するにつれて、5年および10年の実績を重みづけする。

残高上位 10 社のうち、モーニングスター・レーティングの平均で上位に位置したのは、フィデリティ、野村アセットマネジメント、三井住友トラスト・アセットマネジメントの3社である。フィデリティは大手運用会社の中で最も高い平均評価を獲得しており、株式、バランス、債券戦略を含む幅広い戦略における堅調な運用実績を反映している。

市場全体で見ると、運用費用の低いインデックス・ファンドを主に提供する運用会社が低い平均スター・レーティングを示す傾向が引き続き見られる。その代表例であるステート・ストリートは、日本におけるラインアップの大半をパッシブ運用が占めており、低コストのインデックス・ファンドが平均評価を押し上げている。これは、運用費用が長期的な運用実績と密接に関係するというモーニングスターのグローバル調査とも整合的である。

一方、厳選した運用戦略に注力するアクティブ運用会社も高い評価を得ている。図表 8 は、日本籍ファンドの平均モーニングスター・レーティングに基づく上位運用会社を示している。あおぞら投信は、本レポート対象会社の中で最も高い平均モーニングスター・レーティングを獲得している。これは、同社の運用資産の大部分が米国ディメンショナルとの提携を通じて運用されており、ディメンショナルの体系的かつルールに基づくアクティブ運用戦略が、競争力のある運用費用のもとで安定したリスク調整後リターンを提供してきたことによるものである。

図表 8 平均モーニングスター・レーティング上位 11 社



出所: Morningstar Research. 2026 年 6 月 30 日時点、日本籍公募追加型投信と上場投資信託 (ETF) を対象、短期金融資産のみのファンドは除いている。

2026 年日本における運用資産残高上位 60 社

図表 9 は、日本における運用資産残高上位 60 社の資産運用会社のリストである。モーニングスターのアナリストは国内外で、このうち 31 社を運用会社グループ・レベルで評価している。アナリストが評価する運用会社については、本レポートの一部として、モーニングスター運用会社ファクトシートが作成されている。アナリスト評価対象外の 26 社の運用会社は、アルゴリズムにより算出された運用会社評価が付与されており、これらは「Q」で示されている。残りの 3 社については、モーニングスター・メダリスト・レーティングの付与対象となるファンドがなかったため、運用会社評価の対象外となった。

図表 9a 日本の資産運用会社 60 社（残高 1-20 位）

運用会社	運用会社評価	運用資産残高 (単位: 10 億円)	メダリスト ファンド数 %	モーニングスター・ レーティング平均
野村アセットマネジメント	平均以上	80,520	45	3.30
三菱 UFJ アセットマネジメント	平均	57,486	34	3.08
大和アセットマネジメント	平均	42,501	35	3.18
アモーヴァ・アセットマネジメント	平均	35,530	22	3.04
アセットマネジメント One	平均	16,905	17	2.90
三井住友 DS アセットマネジメント	平均以上	14,221	22	3.09
三井住友トラスト・アセットマネジメント	平均	11,439	33	3.25
SBI グローバルアセットマネジメント	平均	9,612	21	2.85
フィデリティ・インターナショナル	平均以上	8,568	40	3.54
ブラックロック	平均以上	8,248	44	3.01
楽天投信投資顧問	平均 ^Q	7,376	54	3.14
ニッセイアセットマネジメント	平均 ^Q	6,260	27	3.05
アライアンス・バーンスタイン	平均	5,549	0	2.54
インベスコ	平均	5,393	14	3.23
ピクテ	平均以上	3,960	9	2.78
キャピタル・グループ	高	3,715	93	2.96
ゴールドマン・サックス・アセット	平均	3,502	20	3.12
りそなアセットマネジメント	平均 ^Q	2,240	35	3.25
ティー・ロウ・プライス	平均以上	2,114	53	2.79
東京海上アセットマネジメント	平均以下 ^Q	2,103	4	2.89

出所: Morningstar Research. 2026 年 6 月 30 日時点、日本籍公募追加型投信と上場投資信託 (ETF) を対象、短期金融資産のみのファンドは除いている。

図表 9b 日本の資産運用会社 60 社 (残高 21-60 位)

運用会社	運用会社評価	運用資産残高 (単位: 10 億円)	メダリスト ファンド数 %	モーニングスター・ レーティング平均
農林中金全連アセットマネジメント	平均 ⁰	1,501	53	3.42
セゾン投信	平均以上 ⁰	1,207	0	2.33
ミレーアセット (Global X)	平均以下	1,144	6	2.50
アムンディ	平均	1,015	13	3.11
JP モルガン・アセット・マネジメント	高	911	52	2.68
朝日ライフ アセットマネジメント	平均以下 ⁰	853	0	2.37
イーストスプリング・インベストメンツ	平均	709	11	3.00
しんきんアセットマネジメント投信	平均 ⁰	701	15	2.45
いちよしアセットマネジメント	平均 ⁰	684	0	2.14
HSBC アセットマネジメント	平均	642	5	2.44
スパークス・アセット・マネジメント	高	607	23	2.62
あおぞら投信	平均以下 ⁰	561	17	4.18
ゆうちょアセットマネジメント	高 ⁰	558	71	3.00
明治安田アセットマネジメント	平均 ⁰	533	14	2.94
SOMPO アセットマネジメント	平均以下 ⁰	530	6	3.00
さわかみ投信	平均 ⁰	517	0	1.00
ステート・ストリート・インベストメン	平均以上	498	74	3.79
フランクリン・テンブルトン	平均	434	4	2.64
UBS アセット・マネジメント	平均	410	3	2.94
日立投資顧問	高 ⁰	299	100	4.14
シンプレクス・アセット・マネジメント	平均 ⁰	299	17	2.33
BNY・インベストメンツ	平均	227	40	2.70
マネックス・アセットマネジメント	平均以下 ⁰	212	0	3.17
ドイチェ・アセット・マネジメント	平均	202	3	3.00
シュローダー	平均以上	182	22	2.94
メットライフ・インベストメント・マネ	平均	159	0	2.94
マニュライフ	平均以上	157	0	2.67
au アセットマネジメント	平均以上 ⁰	155	20	3.50
スカイオーシャン・アセットマネジメント	平均 ⁰	145	20	2.86
ラッセル・インベストメンツ	平均 ⁰	123	0	3.56
お金のデザイン	平均以上 ⁰	118	50	3.50
コモンズ投信	平均以上	117	0	2.67
カレラアセットマネジメント	平均 ⁰	100	80	3.23
ちばぎんアセットマネジメント	平均以下 ⁰	99	0	2.67
T&D アセットマネジメント	低 ⁰	96	0	3.00
ワイエムアセットマネジメント	平均 ⁰	62	0	3.00
キャピタルアセットマネジメント		55		1.00
鎌倉投信		55		
fundnote		41		
中銀アセットマネジメント	平均 ⁰	39	0	3.00

出所: Morningstar Research. 2026 年 6 月 30 日時点、日本籍公募追加型投信と上場投資信託 (ETF) を対象、短期金融資産のみのファンドは除いている。

次ページ以降はモーニングスター運用会社ファクトシートである。○

野村アセットマネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価		平均以上		純資金流入額		純資金流出率		
評価日	4/2/2026	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	
アナリスト	橋本 直子	日本	80,520	1 / 60	870.8	8 / 60	1.6	33 / 60

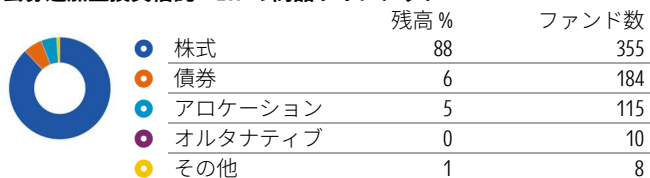
モーニングスター運用会社分析コメント

経営陣交代と買収事業の統合には不確実性が残るものの、これらは野村アセットマネジメント (NAM) のグローバル展開を後押しするものでもある。同社の運用会社評価は「平均以上」を維持する。2026 年 4 月 1 日付で、CEO の小池広靖氏は NAM の会長に就任すると共に、野村ホールディングス (HD) のインベストメント・マネジメント部門長として、グループ全体の資産運用戦略を統括する。後任には、JP モルガン・アセット・マネジメントで約 10 年間、日本の CEO を務めた大越昇一氏が就任する。社外からの登用は、グループ内人材を登用する CEO 人事の慣行からの変化を示す。

野村 HD は、2025 年 12 月 1 日、マッコーリー・グループの米国および欧州のパブリック・アセットマネジメント事業の取得を完了した。本買収は、商品提供力や顧客基盤の拡充が見込まれる一方、両事業の重複は限定的で、統合に伴う組織・文化面での摩擦も比較的小さいとみられる。NAM は、ファンドの質や運用費用を評価し、改善策を示すファンド・レビュー・レポートを公表するほか、代表的な運用戦略を中心とした運用者に関する情報も開示し、透明性を高めている。

ファンド・マネジャーの報酬は最長 5 年のファンド・パフォーマンスに連動させ、投資家利益との一致を図る。また、質を重視して 2030 年までにファンド数を半減する方針だが、ファンドの整理は投資家に一定の影響を及ぼす可能性があり、マッコーリーの資産運用事業の買収の影響も今後注視する必要がある。同社は日本に大きな運用チームを有し、グローバル株式チームを拡充している。専門外の資産クラスでは外部のサブアドバイザーを活用している。同社全体の 5 年および 10 年間のサクセス・レシオ (カテゴリ平均を上回ったファンドの割合) は、概ね 50-60% で推移している。これらの取組は前向きに評価できるが、ファンド本数半減の実行、マッコーリー資産運用事業の統合、新 CEO 下での経営は引き続き見極める必要がある。ただし、小池氏が会長として引き続き関与することで、戦略の継続性は確保されると考えている。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	72	33 / 60

	残高 (10 億円)
NEXT FUNDS TOPIX 連動型上場投信	34,184
NEXT FUNDS 日経 225 連動型上場投信	18,837
NEXT FUNDS JPX 日経 400 連動型上場投信	2,336
野村外国株式 IF・MSCI-KOKUSAI(DC 向け)	1,401
野村世界業種別(世界半導体株投資)	1,007

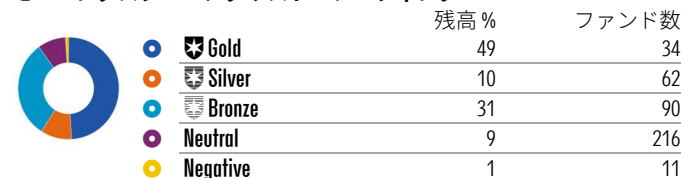
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	3 / 20 / 60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	7 / 51 / 60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	3 / 13 / 60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	6 / 40 / 60
投信: 平均運用期間 (年)	14.6
ETF: 平均運用期間 (年)	11.4

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	28	17 / 60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金、銀、銅ファンド	90	6 / 60
本数 - 金、銀、銅ファンド	45	11 / 60

パフォーマンス

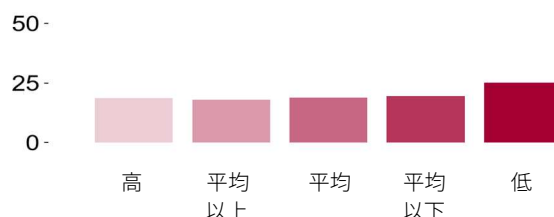
モーニングスター・レーティング平均	3.3	順位
		9 / 60



	%	順位
成功率 (3 年)	44	27 / 60
成功率 (5 年)	44	18 / 60
成功率 (10 年)	41	9 / 60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	47	順位
		23 / 60



三菱 UFJ アセットマネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均	純資金流入額			純資金流入率		
評価日	9/4/2024	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
アナリスト	橋本 直子	日本	57,486	2 / 60	7851.3	1 / 60	22.0
							9 / 60

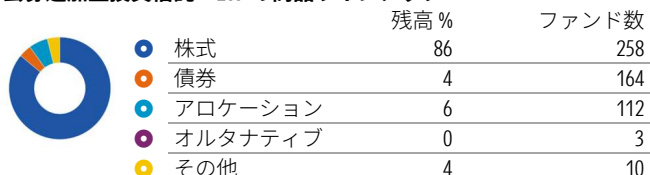
モーニングスター運用会社分析コメント

三菱 UFJ アセット (MUAM) は、高い競争力を持つインデックス・ファンドのラインアップを構築し、コーポレート・ガバナンスとプロダクト・ガバナンスの面で進展を遂げてきた。もっとも同社の変革は現在進行中であり、インデックス・ファンド以外の分野における専門性にはまだ発展途上の部分も見受けられるため、同社の運用会社の評価を「平均」とする。

MUAM は三菱 UFJ フィナンシャル・グループの完全子会社である。2024 年 4 月に三菱 UFJ 信託銀行の子会社から三菱 UFJ フィナンシャル・グループへ移行し、経営の独立性とコーポレート・ガバナンスを強化した。具体的な成果には社外取締役で構成されるプロダクト・ガバナンス等に関する諮問委員会を設置しこれまで以上に監督的な視点を強めることで、経営の透明性を向上させることが含まれる。CEO の横川氏は、三菱 UFJ 信託銀行での長年の資産運用ビジネスの経験を活かし、2021 年より MUAM を率いている。横川氏のリーダーシップのもと、MUAM は運用担当者の報酬体系の見直しやパフォーマンスの低いファンドへの取組など、着実に成果を上げている。

同社はインデックス・ファンドでの大きな成功を通じ、グループ外での市場シェアと運用資産を拡大し、その結果資金フローの安定性が増している。横川氏は MUAM をマルチ・ブティック型の総合的な運用会社とする理想像を描いているが、現在のアクティブ運用力を踏まえると、この理想像とはまだ差があるとモーニングスターでは考えている。同社は運用人材を拡充し、運用担当者の裁量権を拡大する仕組みを導入することでインハウスの運用力とファンドのラインアップの強化を進めている。全体像は明らかだが、こうした変革の効果が完全に表れるには一定の時間が必要とされるだろう。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	62	41 / 60

	残高 (10 億円)
eMAXIS S 全世界株式(オール・カントリー)	12,744
eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	12,276
MAXIS トピックス上場投信	4,833
MAXIS 日経 225 上場投信	4,298
純金上場信託(現物国内保管型)	1,516

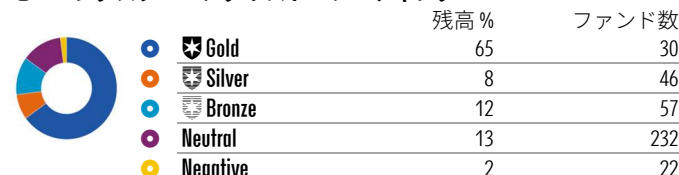
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	4 / 22 / 60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	6 / 49 / 60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	3 / 12 / 60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	7 / 47 / 60
投信: 平均運用期間 (年)	14.5
ETF: 平均運用期間 (年)	7.7

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	18	35 / 60

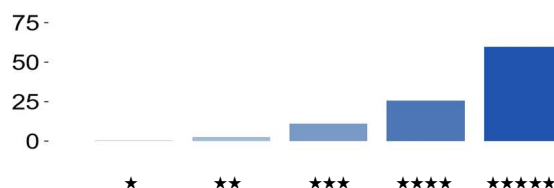
モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	85	7 / 60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	34	17 / 60

パフォーマンス

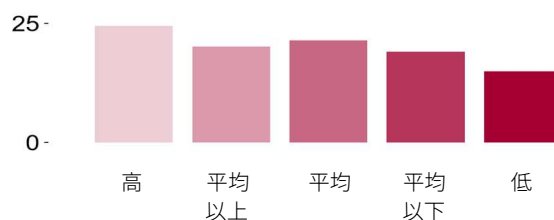
	順位
モーニングスター・レーティング平均	3.1 / 20 / 60



	%	順位
成功率 (3 年)	43	29 / 60
成功率 (5 年)	39	23 / 60
成功率 (10 年)	24	30 / 60

運用費用水準

	順位
運用費用水準平均 - カテゴリ内	54 / 37 / 60



大和アセットマネジメント

		ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)			純資金流入額		純資金流入率	
運用会社評価	平均				直近 1 年		直近 1 年	
評価日	3/11/2025	運用資産残高		順位				
アナリスト	Morningstar Manager Research	日本	42,501	3 /60	1354.6	3 /60	4.6	28 /60

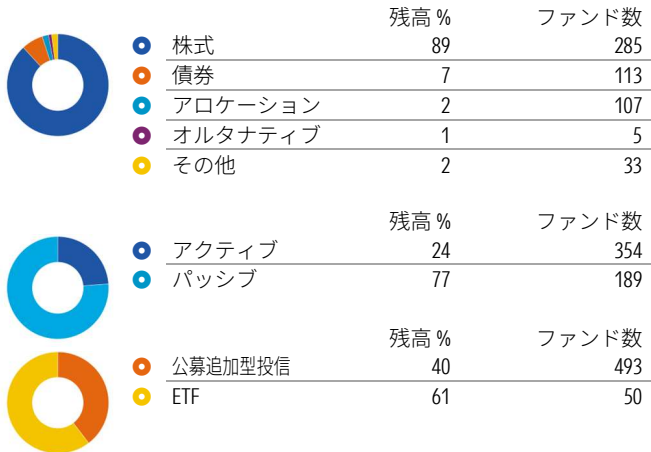
モーニングスター運用会社分析コメント

大和アセットは、大和証券グループ傘下の大手資産運用会社である。残高の大きいインデックス・ファンドにおける運用費用における競争力を誇る一方で、アクティブ・ファンドの運用力強化は途上にある。同社はこれまで経営陣や運用チーム内での入れ替わりが比較的多く、2025 年 4 月からは新社長の佐野氏が就任している。新体制下での経営陣と運用体制の安定性は引き続き注視すべきであり、同社の運用会社評価を「平均」とする。

同社は 2024 年 12 月時点で約 33 兆円の運用資産残高を有しており、確固たる歴史と、規模のメリットと強力な販売ネットワークを誇る。歴史的に、同社の強みはリテール・ビジネスに偏っていたが、2024 年 5 月に発表された、かんぽ生命保険との資本業務提携を通じ、機関投資家および海外事業の強化を今後目指す。アクティブ運用戦略においては、日本株式や債券は自社の専門知識を活用し社内で運用する一方、海外の資産クラスについては、専門的な運用ノウハウを持つ外部委託先と適切に提携している。また、ETF にも大きなプレゼンスを持ち、残高の大きいパッシブ戦略の運用費用には競争力がある。一方で長期的な資産形成という観点から見ると、同社のラインアップには疑問の余地がある商品も含まれている。

小松前社長、および金森 CIO のもと、同社は報酬水準の引き上げや、より組織的な運用アプローチを導入し運用を高度化するなど、注目すべき取り組みを行ってきた。しかし、経営陣の入れ替わりが引き続きあることは、これらの取り組みが今後も継続するか疑問を投げかけている。小松氏の退任と、佐野氏の新社長就任は 3 年ごとに経営陣が交代する従来の慣例に沿ったものである。また、チームの改編に加え、運用チーム内の人員の入れ替わりも過去においては高かったことを踏まえ、人材が今後も定着するかを見極める余地があるとモーニングスターでは考える。新体制のもとで、同社の運用戦略のパフォーマンスと、会社の方向性を引き続き注視する。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド		
残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	64	37 /60

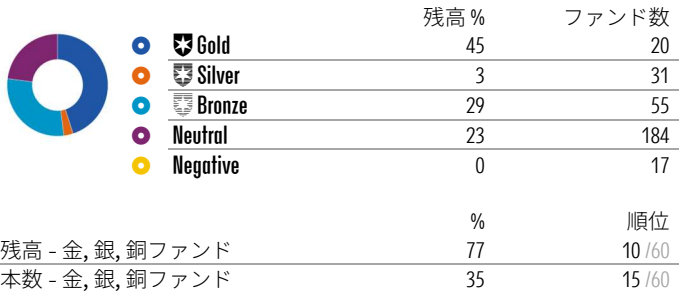
	残高 (10 億円)
iFreeETF TOPIX(年 1 回決算型)	15,482
iFreeETF 日経 225(年 1 回決算型)	8,437
iFreeNEXT FANG+インデックス	1,260
ダイワファンドラップ 日本株式セレクト	1,092
ダイワファンドラップ 日本債券セレクト	843

商品ラインアップの変化		順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	4	23 /60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	10	53 /60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	5	22 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	7	47 /60
投信: 平均運用期間 (年)	12.5	
ETF: 平均運用期間 (年)	6.0	

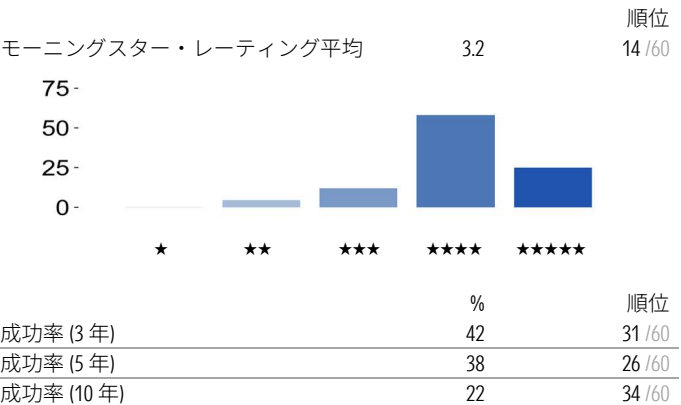
サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	28	18 /60

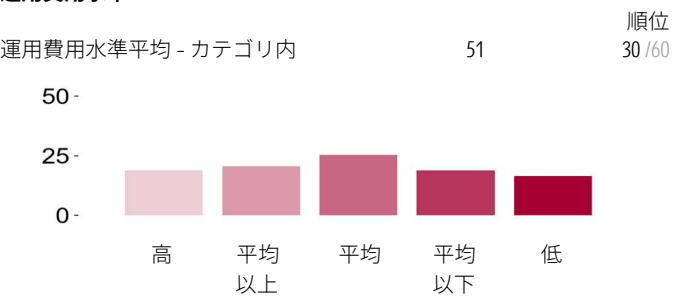
モーニングスター・メダリスト・レーティング



パフォーマンス



運用費用水準



アモーヴァ・アセットマネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均	純資金流出入額				純資金流出入率		
評価日	7/30/2026	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	
アナリスト	シャルマ モヒト	日本	35,530	4 /60	-578.1	59 /60	-2.3	38 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

アモーヴァ・アセットマネジメント（旧日興アセットマネジメント）はグローバルな野心を持つ日本の資産運用会社である。運用能力の拡大および商品開発における規律性の向上は前向きだが、統合・執行リスクと経営体制がなお移行過程にあることから、運用会社評価は「平均」とする。

代表取締役社長兼 CEO のステファニー・ドゥルーズ氏は、有機的・無機的手段による運用資産の拡大を目指している。2026 年 6 月にはマレーシアの AHAM アセットマネジメントの買収を完了し、持ち分比率を 20.0% から 97.7% へ引き上げた。本買収により、イスラム投資、補完的な ETF の運用能力およびデジタル・ウェルスの販売チャネルへのアクセスを獲得し、アジア全域をカバーするプラットフォームへの進化を後押しする。また、ティケオー・キャピタルとの提携を経て、アジア向けプライベート資産戦略を開発する合併会社を 2026 年 4 月にシンガポールで設立した。アーク・インベストメントとの提携は、同社のキーパーソン・リスクとリスク管理への懸念から、引き続き注視が必要である。

同社は日本株式を強みとする一方で、債券分野は弱点である。専門外の分野では外部運用会社を活用し、近年の商品開発は選択的となっている。2025 年には、低コスト・パッシブファンド「Tracers」シリーズで複数のファンドを新たに設定したほか、ブラックストーンとラザードが運用するオルタナティブ戦略を導入した。ただし、同社は投資家の需要を捉えるために比較的息の短いテーマを利用してきた経緯があり、これが急速な活況と落ち込みを繰り返す需要サイクルや運用商品の入れ替わりを招いてきたため、成長計画に関しては引き続き注視する。

他の多くの日本の資産運用会社と同様、同社では長年、経営陣の入れ替わりが目立つ。直近では 2025 年 4 月付でマーク・E・ストックル氏が社外取締役から最高投資責任者（CIO）に就任し、約 3 年で退任した前任の楊氏の後任となった。一方、運用チームへの混乱はこれまで限定的である。経営陣はポートフォリオ・マネジャーの自主性を尊重し、過度に干渉することなく、各自の投資プロセスとスタイルを認めている。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ

	残高 %	ファンド数
株式	93	167
債券	2	66
アロケーション	4	49
オルタナティブ	0	4
その他	1	14

	残高 %	ファンド数
アクティブ	17	213
パッシブ	83	87

	残高 %	ファンド数
公募追加型投信	25	261
ETF	75	39

残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	78	25 /60

	残高 (10 億円)
上場インデックスファンド TOPIX	16,069
上場インデックスファンド 225	9,226
グローバル・ロボティクス株式 F(年 2 回決算)	855
グローバル・ロボティクス株式 F(1 年決算型)	774
上場インデックスファンド JPX 日経 400	626

商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	5 /24 /60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	2 /31 /60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	4 /18 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	4 /26 /60
投信: 平均運用期間 (年)	16.6
ETF: 平均運用期間 (年)	10.1

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	22	27 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング

	残高 %	ファンド数
Gold	49	7
Silver	4	14
Bronze	30	21
Neutral	10	108
Negative	7	37

	%	順位
残高 - 金、銀、銅ファンド	83	8 /60
本数 - 金、銀、銅ファンド	22	21 /60

パフォーマンス

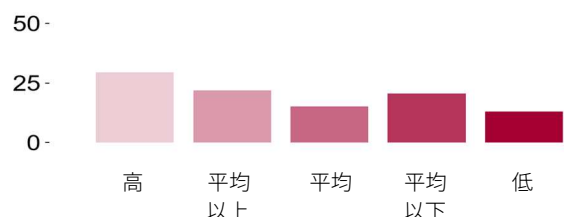
モーニングスター・レーティング平均	順位
3.0	22 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	46	23 /60
成功率 (5 年)	43	19 /60
成功率 (10 年)	27	25 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	順位
57	42 /60



アセットマネジメント One

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均	純資金流入額			純資金流出率			
評価日	4/21/2025	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	
アナリスト	Morningstar Manager Research	日本	16,905	5 /60	88.5	19 /60	0.7	36 /60

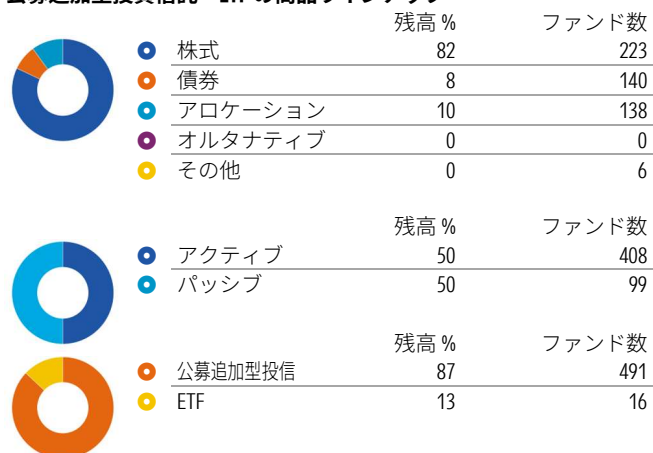
モーニングスター運用会社分析コメント

統合により日本最大級の資産運用会社となったアセットマネジメント One に「平均」の評価を付与する。

同社は 2016 年にみずほ FG 傘下の資産運用会社 3 社とみずほ信託銀行の資産運用部門の統合により発足した運用会社で、みずほ FG と第一生命 HD を株主に持つ。統合を経て数年経つ現在では、投資文化は上手く融合されており、組織変更があったにもかかわらず運用チームの離職率は低い。大手金融機関傘下の運用会社であることから、規模のメリットと膨大な顧客基盤を享受し運用会社として経営の安定性を確保している一方、顧客のあらゆるニーズに応えようとする営業寄りの姿勢が、幅広い商品のラインアップから散見される。同社は近年杉原 CEO と丸山 CIO の下、ポートフォリオ・マネジャー (PM) がより運用業務に集中できるよう運用組織の再編や、PM を中長期のパフォーマンスを重視して評価するなど、モーニングスターが高く評価する施策を打ち出してきた。同社が更に良い運用会社となることを期待しつつも、他の日本の大手資産運用会社と同様、過去の経営陣の入れ替わりは激しかった。

同社は 2025 年 5 月より運用本部長の交代を予定しており、丸山氏が退任し現在運用本部共同部長を務める村松氏が後任となる。丸山氏は 2022 年にフィデリティ投信から同社に入社してから 3 年しか経過していないことを考慮すると、今回の退任はやや予想外であるものの、十分な移行期間が設けられていることから、スムーズな引き継ぎが行われると見込まれる。また、今回の人事は妥当であると考えている。村松氏の昇格は社内からであることに加え、2016 年の統合時に責任者の一人として統合を推進し、同社の沿革を熟知している杉原氏も引き続き取締役社長に留まることから、同社の戦略的方向性に大きな変化は見込まれないと考える。モーニングスターでは今後の村松氏の新体制下での運用部門の展開を引き続き注視する。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	29	58 /60

	残高 (10 億円)
たわらノーロード 先進国株式	1,317
グローバル ESG ハイクオリティ成長株式(H 無)	951
グローバル・ハイクオリティ成長株式 F(H 無)	906
One ETF トビックス	856
DIAM 外国株式インデックスファンド	790

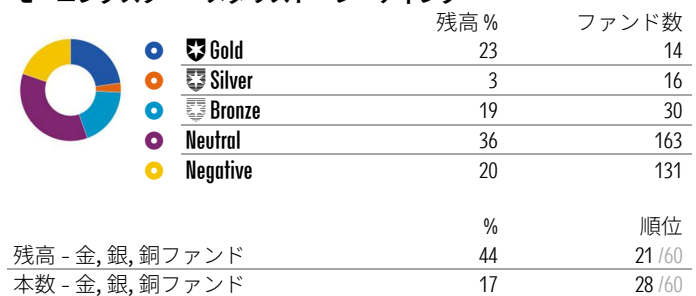
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (% 1 年)	6 /30
投信・ETF 償還率 (% 1 年)	5 /44
投信・ETF 新規設定率 (% 5 年)	4 /16
投信・ETF 償還率 (% 5 年)	6 /40
投信: 平均運用期間 (年)	15.3
ETF: 平均運用期間 (年)	5.5

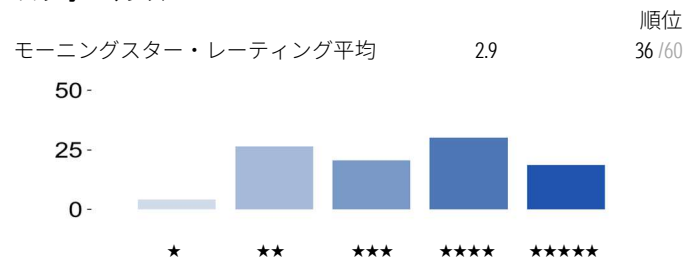
サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	24	25 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング

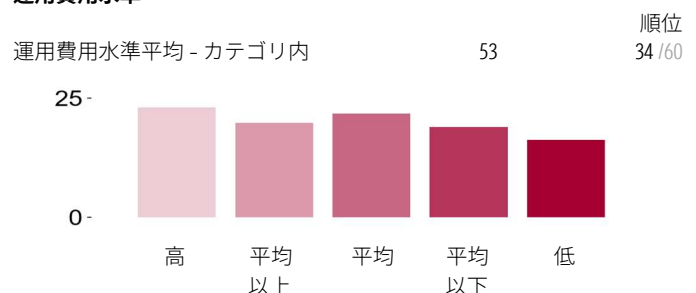


パフォーマンス



	%	順位
成功率 (3 年)	39	33 /60
成功率 (5 年)	30	36 /60
成功率 (10 年)	23	31 /60

運用費用水準



三井住友 DS アセットマネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均以上	評価日	アナリスト	橋本 直子	日本	運用資産残高		純資金流出入額		純資金流出入率	
						直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
		2/13/2025				14,221	6 / 60	1308.6	4 / 60	13.3	15 / 60

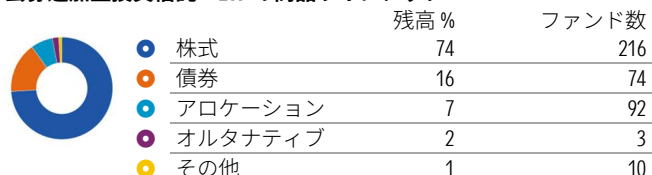
モーニングスター運用会社分析コメント

三井住友 DS アセット (SMDAM) は、運用会社としての独立性を高め、アクティブ運用における確かな実力とバランスの取れた商品ラインナップを有することから、運用会社評価を「平均以上」とする。同社は三井住友 FG の子会社で、2019 年に三井住友アセットマネジメントと大和住銀投信投資顧問の合併による設立以来、機関投資家と個人投資家への影響力を順調に拡大している。

同社は、2025 年 4 月に経営陣の交代により、旧 CEO の猿田氏が会長に就任し、荻原氏が新 CEO となった。モーニングスターでは、CEO 交代は円滑に行われ、同社の独立性と猿田氏の下で進めてきた戦略が後退する可能性は低いと考えている。荻原氏は野村 AM で 30 年以上の投資経験を積んだ後、SMDAM で猿田氏の下、2 年間副社長としての経験を有し、同社を率いる十分な能力を備えている。2023 年 4 月に社外から荻原氏を招聘したことに続き、今回同氏が新 CEO となることは、同社の独立性の維持に関する懸念を払拭するものである。また、猿田氏が会長として引き続き同社に留まることにより、戦略の継続性が保たれ、取り組み中の課題も解消されることが期待される。

同社は日本株運用力の強化と他分野における運用能力をじっくりと拡充させつつ、同社の運用力では補えない領域については外部委託を適切に活用している。同社の商品開発への取り組みは、販売優先ではなく長期的な視点で行われており、モーニングスターではこの点を評価している。一方、ポートフォリオ・マネジャーの変動報酬については短期的なパフォーマンスを重視したものではなく、評価期間を長期化することにより、投資家との利害の一致をより深めることができると考えている。なお、同社のキャパシティ管理が合理的であることは、運用残高の急激な増加に伴い、複数の中小型株ファンドで実施された新規受付停止の実績からも明らかであり、同社が商品品質の維持と投資家の利益保護を重視していることを示している。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	22	60 / 60

	残高 (10 億円)
日興 FW・日本債券ファンド	711
ニュートン・パワー・イノベーション F(H 無)	693
グローバル AI ファンド	666
三井住友・DC 外国株式インデックスファンド S	656
三井住友・DC つみたて NISA・全海外株 IF	460

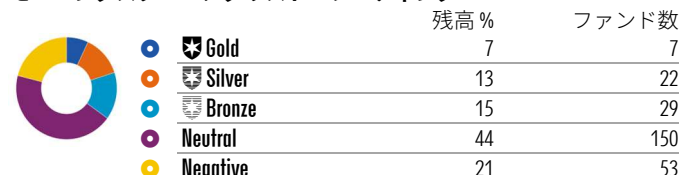
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	5 / 26
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	4 / 40
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	5 / 22
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	7 / 46
投信: 平均運用期間 (年)	11.9
ETF: 平均運用期間 (年)	6.6

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	22	26 / 60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	35	24 / 60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	22	21 / 60

パフォーマンス

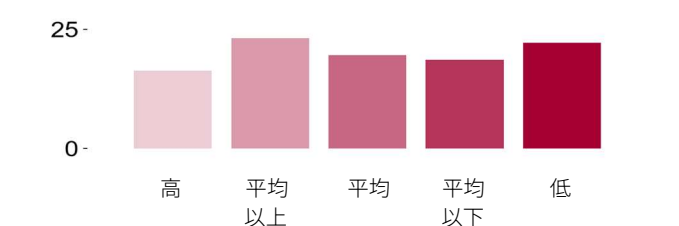
モーニングスター・レーティング平均	3.1	順位
		19 / 60



	%	順位
成功率 (3 年)	42	30 / 60
成功率 (5 年)	37	28 / 60
成功率 (10 年)	26	27 / 60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	49	順位
		28 / 60



三井住友トラスト・アセットマネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均	評価日	アナリスト	橋本 直子	日本	運用資産残高		純資金流入額		純資金流出率	
						運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
		7/11/2025				11,439	7 /60	354.9	14 /60	4.3	29 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

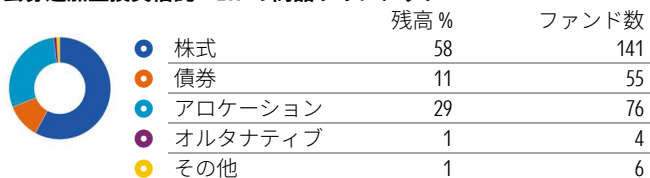
三井住友トラスト・アセットは、運用力向上に積極的に取り組んでいる点は評価できるものの、経営層人事に関する親会社の影響力や、運用商品ラインナップのばらつきは留意が必要である。同社の運用会社評価を「平均」とする。

同社は三井住友トラスト・グループの子会社である。2018 年 10 月には、同グループの三井住友信託銀行の運用部門を戦略的に同社に統合し、債券運用やパッシブ運用を含め同社の運用力は強化された。

同社は経営陣の交代期を迎えており、2025 年 10 月に現 CEO の菱田氏が退任し、小林氏が新 CEO に就任する。モーニングスターではこの交代が円滑に進むとみており、同社の戦略方針が大きく後退する可能性は低いと考えている。小林氏は 2004 年に旧住友信託銀行（現三井住友信託銀行）に入社し、長年にわたり資産運用に関連する業務等を担当した後、2018 年の統合以降、同社の経営企画部長を務めてきた。新たな役割におけるリーダーシップは今後の注視点であるものの、今回の承継プロセスは秩序立っており、戦略の継続性が維持されることを裏付けている。

同社は、2024 年 12 月までの過去 5 年間でポートフォリオ・マネージャーを約 20%増員し、離職率を低水準に抑えており、同社の運用人材が安定して増加していることを示している。また、自己資金で試験的に運用し実績を積み上げた後に運用商品を一般向けに販売することで販売網を拡大しており、モーニングスターではこの取り組みを高く評価している。また、同社はアクティブ ETF をはじめ、コスト効率の高い ETF を提供している。一方で、同社の残高上位には、投資家がパフォーマンスを後追いしがちなテーマ型ファンドが残高上位に位置しており、長期パフォーマンスに焦点を当てた運用商品ラインナップの構築は進行中と見ている。グループの一員として残高目標の達成も追求しながら、同社が運用会社としての独立性を維持し、投資家の長期的な利益に貢献する取り組みを継続することができるか、今後も注視していく。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	27	59 /60

	残高 (10 億円)
次世代通信関連 世界株式戦略ファンド	898
半導体関連 世界株式戦略ファンド	607
世界経済インデックスファンド	585
外国株式 SMTB セレクション(SMA 専用)	554
国内株式 SMTB セレクション(SMA 専用)	441

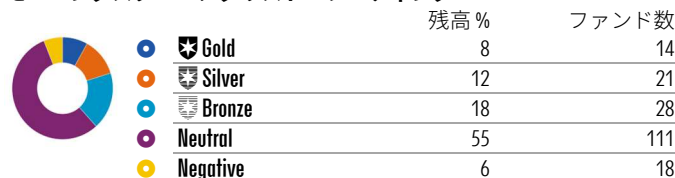
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	5 /27 /60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	2 /34 /60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	5 /20 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	4 /27 /60
投信: 平均運用期間 (年)	12.2
ETF: 平均運用期間 (年)	2.7

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	19	34 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	39	22 /60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	33	18 /60

パフォーマンス

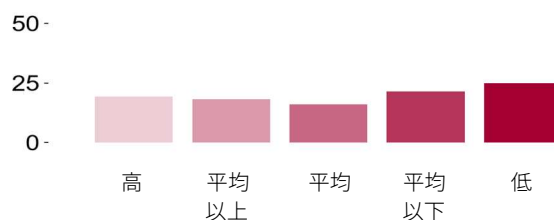
モーニングスター・レーティング平均	3.2	順位
		10 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	47	21 /60
成功率 (5 年)	50	16 /60
成功率 (10 年)	39	11 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	47	順位
		23 /60



SBI グローバルアセットマネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均	純資金流入額			純資金流出率			
評価日	4/15/2026	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	
アナリスト	橋本 直子	日本	9,612	8 /60	898.6	7 /60	14.4	14 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

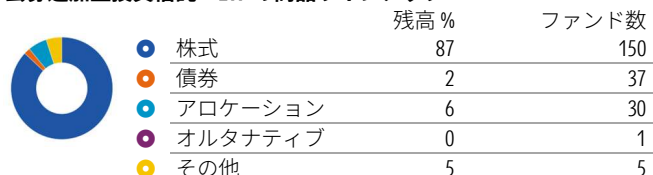
SBI グループの子会社である SBI グローバルアセットマネジメント (SBIGAM) は、複数の運用子会社を傘下に持つ体制への移行により提供機能が拡充する一方、組織運営は複雑化している。同社の運用会社評価は「平均」とする。

同社は 2025 年後半に複数の運用会社を傘下に持つ体制 (いわゆるマルチ・アフィリエイト型) に移行し、中核運用会社の SBI アセットマネジメント (SBIAM) に加え、SBI 岡三アセットマネジメントおよびレオス・キャピタルワークスを傘下に加えた。これにより、低コストのパッシブおよびアクティブ戦略から、対面販売を中心とする従来型の戦略まで、幅広い商品を提供している。主な差別化要因は、SBI グループのオンライン証券プラットフォームを活用した販売モデルである。コスト意識が高く選別志向も強い投資家層に直接アクセスできることが、運用コスト競争力や投資成果を重視する姿勢につながっている。SBIAM は積極的な信託報酬の引き下げを通じて低コスト商品の規模を拡大し、レオスも投資家重視の価格体系を維持している。一方、対面販売やテーマ型戦略への依存度が残る SBI 岡三のコスト競争力は限定的である。

経営面では、朝倉智也 CEO の役割拡大を含む体制の変化が進む。レオスでの経営と運用の分離など、ガバナンス強化は評価されるものの、意思決定の集約と傘下各社の運用の独立性をいかに両立させるかが今後の課題となる。また、ミドル・バックオフィス機能を中心とする業務統合が効果的に進めば、規模拡大への対応力と業務効率の向上も期待される。

一方、傘下各社では改善に向けた取り組みが進むものの、個別の課題も残る。例えば、SBI 岡三 AM では、販売チャネルの拡大や商品ラインナップの多様化に初期的な進展が見られる一方、商品構成は依然としてテーマ型戦略やセクター特化型戦略に偏っており、今後のさらなる多様化を注視する必要がある。総じて、SBIGAM は良好な立ち位置にあるが、体制構築の途上にある。長期的な成功には、傘下各社の専門性と運用の独立性を維持しつつ、オンライン証券プラットフォームの強みを投資家利益の向上へ結びつけることが重要となる。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	53	45 /60

	残高 (10 億円)
SBI・V・S&P500 インデックス・ファンド	2,997
ひふみプラス	755
SBI・V・全米株式インデックス・ファンド	435
SBI・全世界株式インデックス・ファンド	431
ROBOPRO ファンド	429

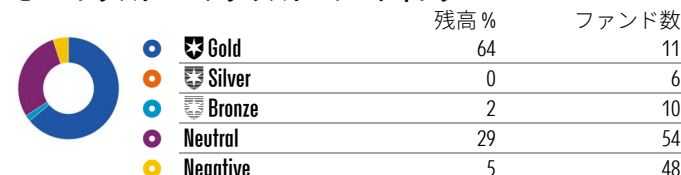
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	8 /36
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	7 /50
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	12 /43
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	7 /51
投信: 平均運用期間 (年)	8.9
ETF: 平均運用期間 (年)	1.7

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	26	22 /60

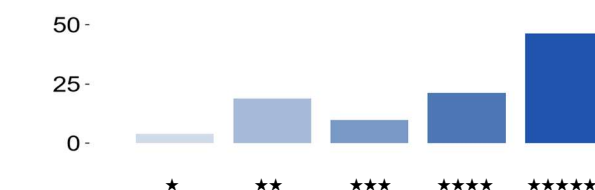
モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	66	16 /60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	21	24 /60

パフォーマンス

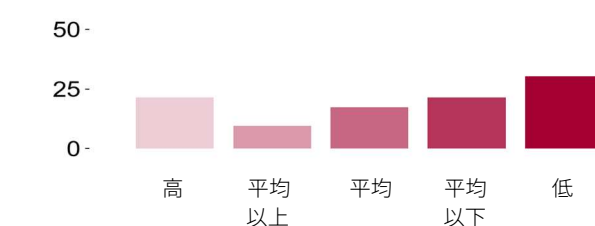
モーニングスター・レーティング平均	順位
2.9	39 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	26	51 /60
成功率 (5 年)	22	45 /60
成功率 (10 年)	16	40 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	順位
44	17 /60



フィデリティ・インターナショナル

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均以上	評価日	アナリスト	日本	純資金流出入額		純資金流出入率	
					直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
運用会社評価	平均以上	7/11/2025	Giovanni Cafaro	日本	8,568	9 / 60	1064.2	6 / 60
純資金流出入額							17.8	11 / 60

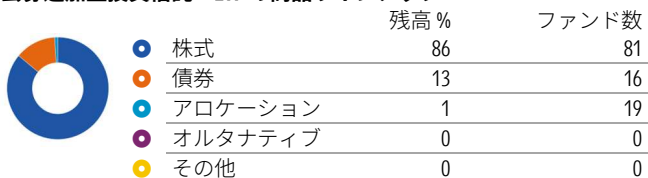
モーニングスター運用会社分析コメント

フィデリティ・インターナショナル (FIL) は、近年大幅な組織再編を進めている一方、顧客利益重視の姿勢を維持しているため、運用会社の評価を「平均以上」とする。

2024 年以降、経営陣および運用部門において主要ポジションにおける人事異動が相次いでいる。2024 年 3 月には Keith Metters 氏が CEO に就任し、前 CEO の Anne Richards 氏は副会長として残留。同年 6 月にはグローバル共同 CIO の Andrew McCaffery 氏が退任し、株式部門を統括する共同 CIO として Niamh Brodie-Machura 氏が着任した。Brodie-Machura 氏は株式部門を統括し、カナダ責任者である Andrew Wells 氏（債券、マルチアセット、プライベート資産の CIO 業務を兼務）と共に運用部門を率いる。さらに 2025 年 9 月には AXA IM のグローバル債券責任者 Marion Le Morhedec 氏が債券部門のグローバル CIO として加わり、2025 年 3 月に退任した Steve Ellis 氏の後任となる。こうした変化は、2024-25 年にかけて実施されたコスト抑制策と重なり、運用チームの縮小や離職率の上昇を招いており、運用力への影響は引き続き注視が必要である。ただし、世界各拠点に約 300 名のポートフォリオ・マネジャーとアナリストを擁し、同社の強みである独自のファンダメンタル重視のリサーチ体制は、引き続き健在である。

戦略的な取り組みは適切であり、米国の Fidelity Investments の Johnson 家や FIL の従業員が大口株主として参加する同社の所有構造により、長期的な視点が保たれている。同社はプライベートクレジットの運用能力を拡充するとともに、アクティブ ETF を含む商品構成の多様化を進めている。カナダ事業は成長エンジンとして、国内 RIA 市場で強固な地位を維持。資産クラス間の報酬体系には依然差異があるものの、投資家利益との整合性を高める方向で改善が進んでいる。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	53	45 / 60

	残高 (10 億円)
グローブ・オポチュニティ D(毎月・予・H 無)	1,213
世界割安成長株投信 B(為替ヘッジなし)	1,007
US リート・ファンド B(為替ヘッジなし)	814
フィデリティ・日本成長株・ファンド	759
US ハイ・イールド F(毎月)B(為替ヘッジなし)	749

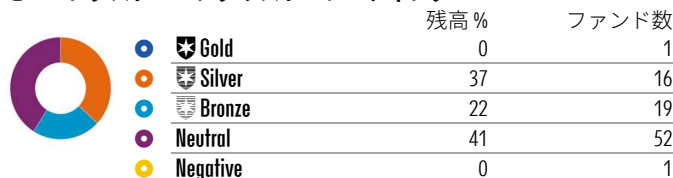
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	8 / 34 / 60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	6 / 45 / 60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	6 / 30 / 60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	5 / 34 / 60
投信: 平均運用期間 (年)	13.0
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	26	21 / 60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



残高 - 金, 銀, 銅ファンド	%	順位
	59	17 / 60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド		
	40	13 / 60

パフォーマンス

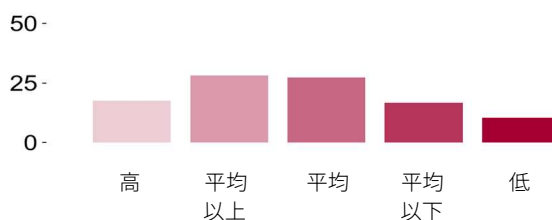
モーニングスター・レーティング平均	3.5	順位
		5 / 60



	%	順位
成功率 (3 年)	51	12 / 60
成功率 (5 年)	55	9 / 60
成功率 (10 年)	38	13 / 60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	55	順位
		40 / 60



ブラックロック

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均以上	評価日	アナリスト	日本	純資金流出入額		純資金流出入率	
					直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
運用会社評価	平均以上	1/10/2025	Jason Kephart	日本	8,248	10 /60	91.7	18 /60
純資金流出入額							1.6	33 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

ブラックロックは、幅広い分野に対応できる資産運用会社としての水準を押し上げている。2024 年には、インフラやクレジット、オルタナティブファンドのデータ運用能力を獲得するため積極的にプライベート資産を買収し、その商品・サービスの幅は他社に比べても群を抜いている。これらの買収が、2009 年の Barclays Global Investors 買収（現在の象徴的な ETF ブランドである iShares を含む）と同様に、投資家にとって変革的かつ有益なものになるかは今後の注目点である。引き続き同社の運用会社評価を「平均以上」とする。

同社には、楽観的に評価できる根拠がある。CEO の Larry Fink 氏は、規模拡大を狙うのではなく、ブラックロックが提供できるサービスの幅を広げることに重点を置いた買収実績で突出している。同社は、金融アドバイザー向けの人気のモデルポートフォリオを通じて、ダイレクト・インデックスなどの自社商品を低コストでパッケージ化し、投資家の成果向上に大きく寄与してきた。投資判断に多くの時間を割けない投資家にとっては、同社のターゲットデート戦略や、以前の主力だったグローバル・アロケーション戦略といったマルチアセットの選択肢は、いずれもモーニングスター・カテゴリーの中で有力な選択肢となっている。

自らポートフォリオを構築したい投資家にとっては、低コストの iShares ETF を中心とした基盤となる ETF や、充実した伝統的債券戦略のラインアップが利用できる。一方で、債券チームでは近年、特に欧州のシニアリーダーを中心に想定以上の人事異動が続いているものの、債券部門の最高投資責任者 Rick Rieder 氏が、層の厚いポートフォリオ・マネジャーやアナリスト陣から人材を育成してきた確かな実績は、引き続き強い信頼感をもたらしている。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ

	残高 %	ファンド数
株式	89	53
債券	7	41
アロケーション	2	15
オルタナティブ	0	0
その他	2	6

	残高 %	ファンド数
アクティブ	8	46
パッシブ	92	69

	残高 %	ファンド数
公募追加型投信	11	59
ETF	89	56

残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	74	29 /60

	残高 (10 億円)
i シェアーズ・コア TOPIX ETF	2,880
i シェアーズ・コア 日経 225 ETF	2,111
i シェアーズ JPX 日経 400 ETF	585
i シェアーズ・コア リート ETF	373
i シェアーズ S&P 500 米国株 ETF	182

商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	14 /45
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	4 /41
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	9 /37
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	4 /24
投信: 平均運用期間 (年)	12.7
ETF: 平均運用期間 (年)	4.8

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	16	37 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング

	残高 %	ファンド数
Gold	61	14
Silver	1	5
Bronze	31	11
Neutral	8	37
Negative	0	1

	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	92	4 /60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	44	12 /60

パフォーマンス

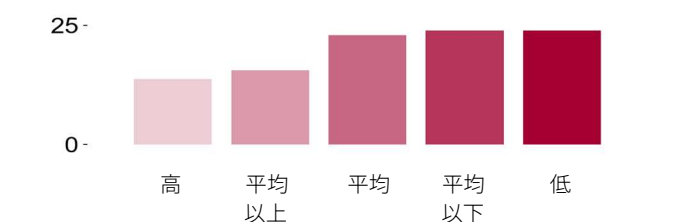
モーニングスター・レーティング平均	3.0	順位
		23 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	48	20 /60
成功率 (5 年)	46	17 /60
成功率 (10 年)	39	12 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリー内	44	順位
		17 /60



アライアンス・バーンスタイン

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価		平均	純資金流入額			純資金流出率		
評価日	5/13/2026		運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
アナリスト	Jason Kephart	日本	5,549	13 /60	-585.6	60 /60	-10.2	51 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

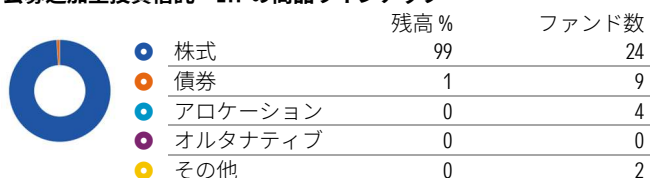
アライアンス・バーンスタイン (AB) は、投資家ごとのニーズに応じた運用サービスの拡充を通じて差別化を図っている。同社の運用会社評価は「平均」を維持する。

同社はテクノロジーへの投資を積極化しており、特に投資家の税務状況に応じてポートフォリオを調整し、税引き後リターンを最大化を目指すツールの開発に注力している。この取り組みは、地方債を中心とするセパレート・マネージド・アカウント (SMA) やダイレクト・インデックス運用で特に顕著である。こうした投資により、地方債 SMA への資金投入が迅速化したほか、株式・債券双方のタックスロス・ハーベスティング機能が向上し、ポートフォリオの運用効率が高まっている。2020 年以降、リテール向け SMA は同社の米国運用資産残高に占める比率がほぼ倍増し、2025 年末時点で約 12% に達した。これは、税務効率を意識した運用サービスの重要性が高まっていることを示している。パーソナライズ化の進展は投資家にとってより良い成果につながる可能性がある一方、それが同社全体の運用プロセスの改善にどの程度寄与するかは、現時点では明確ではない。

AB は運用チーム全体で人工知能 (AI) を活用し、従来数日を要した一部の作業を数時間に短縮するなど、リサーチと業務の効率化を進めている。ただし、競合他社と同様、現時点で確認できる効果は主に効率面にとどまり、投資判断への影響を評価することは難しい。また、競争力のあるリターンの実現に苦戦してきた新興国株式部門では、運用プロセスの改善に向けて定量ツールの活用を拡大している。2022 年 7 月に Sammy Suzuki 氏が同部門の責任者に就任して以降、運用成果は概ね改善しているが、評価期間はまだ短い。

AB の過半出資者であるエクイタブルとコアブリッジの合併は 2026 年末までに完了する見通しで、保険関連およびセパレート・アカウントのマンデート 1,000 億米ドルが加わる可能性がある。AB の CEO である Seth Bernstein 氏が拡大後の資産運用事業を統括する予定だが、統合リスクや役割・機能の重複は今後注視が必要である。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	95	9 / 60

残高 (10 億円)

AB 米国成長株投信 D 毎月(H 無)予想分配金提示	3,089
AB 米国成長株投信 B(H 無)	1,810
AB 米国成長株投信 C 毎月(H 有)予想分配金提示	186
AB 米国成長株投信 B(野村 SMA・EW 向け)	104
AB 米国成長株投信 A(H 有)	97

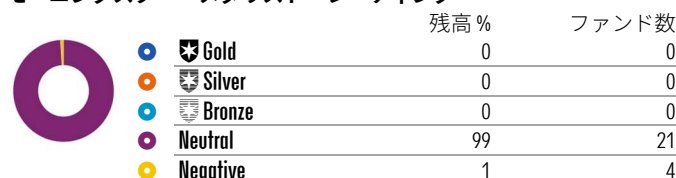
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	43 / 60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	48 / 60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	47 / 60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	24 / 60
投信: 平均運用期間 (年)	10.8
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	32	10 / 60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	0	44 / 60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	0	44 / 60

パフォーマンス

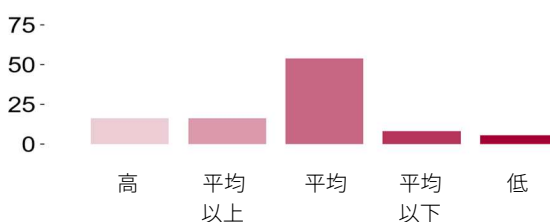
モーニングスター・レーティング平均	2.5	順位
		49 / 60



	%	順位
成功率 (3 年)	28	50 / 60
成功率 (5 年)	9	56 / 60
成功率 (10 年)	53	5 / 60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	57	順位
		42 / 60



インベスコ

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価		平均	純資金流入額			純資金流入率		
評価日	12/23/2024		運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
アナリスト	Alyssa Stankiewicz	日本	5,393	14 /60	2012.5	2 /60	64.8	4 /60

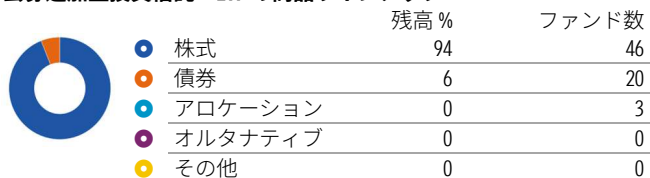
モーニングスター運用会社分析コメント

インベスコでは新経営陣による改革が進んでおり、運用会社評価は「平均」を維持する。

2023 年半ば、Andrew Schlossberg 氏が長年 CEO を務めた Marty Flanagan 氏の後任に就任した。Schlossberg 氏は就任から 18 ヶ月の間に経営幹部チームを再編し、一部の機能を改善・強化した。運用部門では、同社で長い経験を持つ Stephanie Butcher 氏と Tony Wong 氏が共同ヘッドを務め、Butcher 氏が株式とマルチアセット、Wong 氏が債券とプライベート市場を担当している。さらに、2019 年に買収した Oppenheimer Funds との統合が進み、2024 年には Sergey Davalchenko 氏が国際株式部門の責任者として加わった。加えて、投資リスク、オペレーション、プロダクト、人事などの主要機能でも、インベスコに新たに加わった人材がリーダーに就任しており、変革の規模とスピードに関しては依然として不確実性が残る。

同社の資産構成も近年大きく変化している。2024 年 11 月時点で、ファンド・オブ・ファンズを除く運用資産の約 3 分の 2 をパッシブ戦略が占めており、3 年前の半分未満から大幅に増加している。特に、Invesco QQQ Trust は資金流入と市場上昇を背景に 3,000 億米ドルを超える規模に拡大している。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	93	12 /60

	残高 (10 億円)
世界厳選株式オープン(毎月決算型)	3,960
世界厳選株式オープン(年 1 回決算型)	554
先進国株式インデックス・OP(ラップ)	247
先進国債券インデックス・OP(ラップ)	148
国内債券インデックス・オープン(ラップ向け)	88

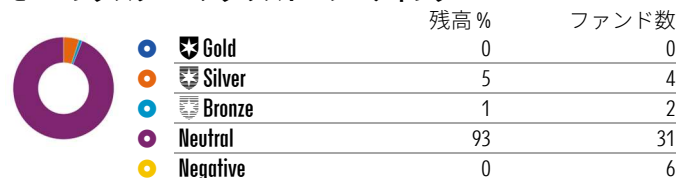
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	3 /21 /60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	3 /37 /60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	6 /26 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	5 /35 /60
投信: 平均運用期間 (年)	9.7
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	12	40 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	7	35 /60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	14	32 /60

パフォーマンス

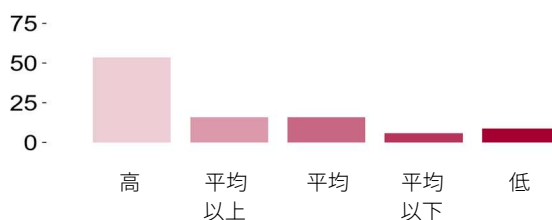
モーニングスター・レーティング平均	3.2	順位
		12 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	54	10 /60
成功率 (5 年)	51	11 /60
成功率 (10 年)	18	39 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	70	順位
		58 /60



ピクテ

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

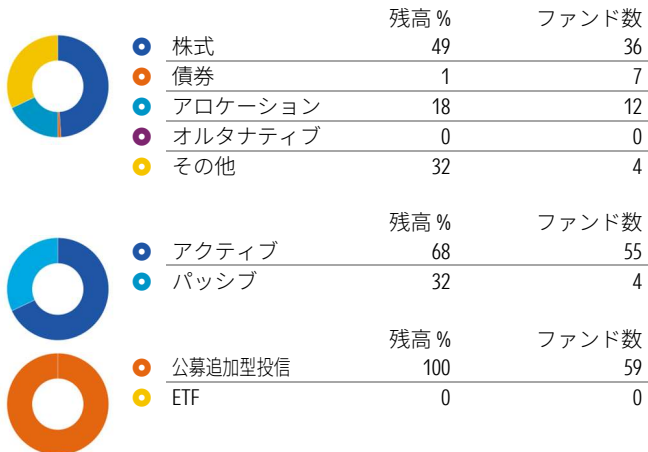
運用会社評価	平均以上	評価日	アナリスト	日本	純資金流出入額		純資金流出入率	
					直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
		12/11/2025	Natalia Wolfstetter		運用資産残高	順位	運用資産残高	順位
					3,960	15 /60	827.8	9 /60
							32.5	5 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

ピクテ・アセット・マネジメントは、スイスのプライベートバンクである Pictet & Cie の安定したオーナーシップを背景に堅実な運用基盤を維持している。経営陣の交代は比較的まれだが、2024 年には共同 CEO が就任するなど、変化は時として起こり得る。同社は幅広い資産クラスを手掛けつつ、新興国投資とテーマ型ファンドを中核領域とする。特にテーマ型は株式資産の大半を占め、同社は 2000 年代にテーマ投資の先駆者としての地位を確立した。同社の長期的な視点、慎重な運用規模管理、規律ある投資プロセスは、短期的なトレンドを追いがちなテーマ型ファンドにおけるリスクを軽減している。

新規戦略の立ち上げは慎重で、必要なリソースも備えているものの、必ずしも全領域が強みを発揮しているわけではない。同社は、マルチブティック体制により運用者に高い裁量を与えられており、運用チームは長年にわたり高い安定性を維持してきた。ただし、2018 年には新興国債券および同社の大型戦略を運用するテーマ型株式の運用チームで大規模な離任が発生し、2023 年初頭にもテーマ株式チームで相次ぐ人員変動があった。近年はオルタナティブ領域でも平均を上回る離職率が見られるが、チーム全体の経験値が高いため、キーパーソンリスクは一定程度抑えられている。同社は、一部領域、特に近年パフォーマンスの低迷や資金流出が見られるテーマ型運用においても、リソース拡充を続けている。報酬制度についても改善が進んでいる。2023 年以降、運用スタッフの変動報酬は最大 5 年間のパフォーマンスに連動する形となり、2021 年にはファンドシェアへのボーナスの自主的な繰り延べ制度が導入され、対象社員の約 3 分の 2 がこれを利用している。これらの取り組みは、ファンド投資家との長期的な利害一致を強化するものであり、長期的な戦略的焦点と歴史的な安定性を考慮すると、同社の運用会社評価は「平均以上」に相応しいと考える。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	70	34 /60

	残高 (10 億円)
ピクテ・グローバル・インカム株式 F(毎月)	1,090
ピクテ・ゴールド(為替ヘッジなし)	1,012
ピクテ・ゴールド・リスクプレミアム・ファンド	253
ピクテ・プレミアム・アセット・アロケーション F	212
ピクテ・ゴールド(為替ヘッジあり)	203

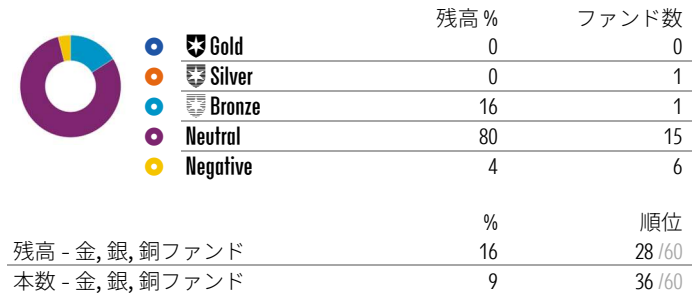
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	0 /1 /60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	0 /1 /60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	4 /18 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	6 /45 /60
投信: 平均運用期間 (年)	11.4
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

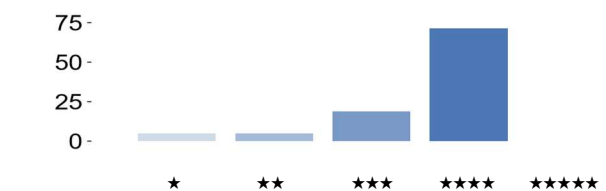
	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	60	2 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



パフォーマンス

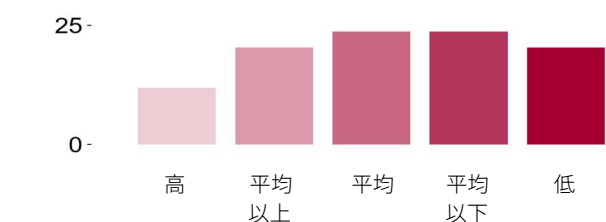
モーニングスター・レーティング平均	順位
2.8	41 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	39	32 /60
成功率 (5 年)	38	25 /60
成功率 (10 年)	21	37 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	順位
47	23 /60



キャピタル・グループ

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	高	評価日	6/30/2026	アナリスト	Stephen Welch	日本	純資金流出入額		純資金流出入率	
							運用資産残高	順位	直近 1 年	順位
							3,715	16 /60	423.5	12 /60
									16.1	13 /60

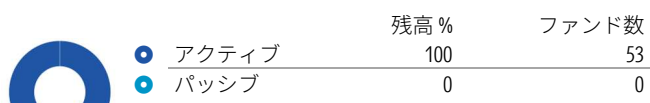
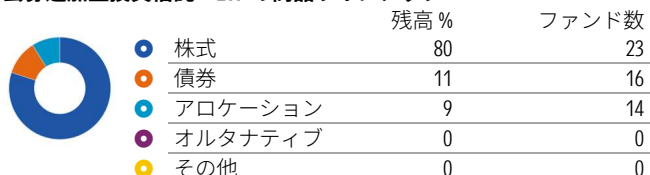
モーニングスター運用会社分析コメント

キャピタル・グループは、長年培ってきた強みを土台に提供力を拡充しており、同業他社の中でも際立った存在である。同社の運用会社評価は「高」とする。

アメリカン・ファンズを展開するキャピタル・グループは、1931 年の創業以来、運用力を着実に拡充し、現在では 3 兆米ドル超を運用する世界有数の資産運用会社となっている。長期志向の複数マネジャー制によるグローバル株式運用での成功を土台に、債券およびマルチアセットでも強固な運用体制を築き、それぞれ 5,000 億米ドル超を運用している。2026 年 1 月には、現在 5 つある独立したリサーチ組織の定期的な見直しの一環として、株式運用グループの体制を変更した。この見直しに伴い、大半の株式戦略で少なくとも 1 名のポートフォリオ・マネジャーの交代が生じた。同社によれば、今回の変更により、3 つの株式運用グループ間で人材などのリソース配分がより均衡し、各グループにおけるリーダーシップ登用の機会も一段と整合的になるという。上場資産と非上場資産を組み合わせる動きが広がる中、同社はプライベート市場大手の KKR と共同で、2 本のセミリキッド型ファンドを設定した。これらのファンドでも、同社の特徴である複数マネジャー制を採用しており、ファンド内の運用を複数に分け、キャピタル・グループと KKR それぞれの運用者が独立して担当する。キャピタル・グループは今後、ターゲットデット型商品やモデルポートフォリオ、上場株式と非上場株式を組み合わせた株式ファンドを通じて、KKR との提携をさらに深める方針である。

一方で、同社はアクティブ運用を重視しながらも、投資家のパッシブ運用へのニーズを踏まえ、バンガード、ブラックロック、シュワブなど、インデックス運用で実績のある大手各社と、アクティブ運用とパッシブ運用を組み合わせたモデルポートフォリオで提携している。また、近年のアクティブ ETF 拡大の流れにも対応し、同社は世界で 25 本超のアクティブ ETF を設定している。その多くは独自戦略だが、一部は既存のアメリカン・ファンズに近い内容となっている。歴史と規模を有する同社にとって一連の取り組みは大きな変化だが、キャピタル・グループには長年にわたり投資家に良好な成果を提供してきた実績がある。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	65	36 /60

	残高 (10 億円)
キャピタル世界株式ファンド	1,146
キャピタル世界株式ファンド年 2 回決算(分配重視)	509
キャピタル世界株式ファンド(DC 年金つみたて専用)	291
インベストメント・カンパニー・アメリカ ICA	289
キャピタル世界株式ファンド NF	168

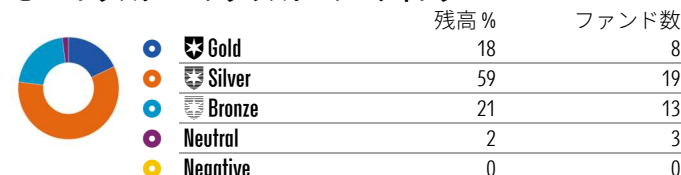
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	37 /60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	32 /60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	55 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	17 /60
投信: 平均運用期間 (年)	6.1
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	9	42 /60

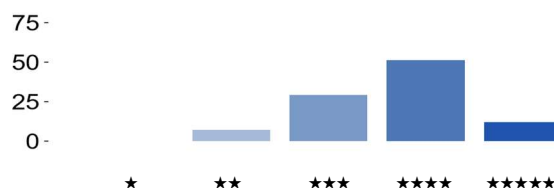
モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	98	3 /60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	93	2 /60

パフォーマンス

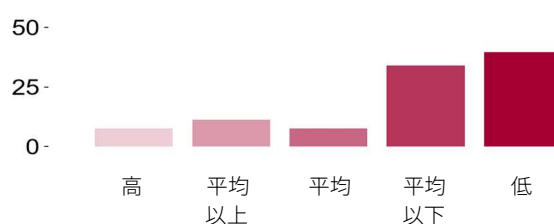
	順位
モーニングスター・レーティング平均	3.0
	31 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	39	34 /60
成功率 (5 年)	33	31 /60
成功率 (10 年)	50	7 /60

運用費用水準

	順位
運用費用水準平均 - カテゴリ内	30
	5 /60



ゴールドマン・サックス・アセット

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均	純資金流出入額			純資金流出入率			
評価日	4/8/2026	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	
アナリスト	Tom Murphy	日本	3,502	17 /60	-259.4	58 /60	-9.1	49 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

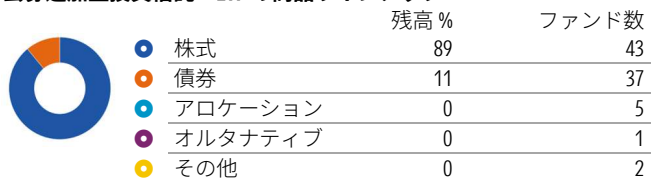
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント (GSAM) は、経営陣の交代や運用チームの入れ替わりに引き続き課題を抱えており、運用会社評価を「平均」とする。

ゴールドマン・サックスの投資銀行部門のベテランである Marc Nachmann 氏は、2022 年に資産運用と富裕層向けの事業をアセット&ウェルス・マネジメント部門として統合した際に、同部門のグローバル・ヘッドに就任した。この事業部門再編は、GSAM が NN IP の買収を完了し、欧州における事業範囲を拡大するとともに、サステナブル投資の運用能力を強化してから 1 年も経たないうちに行われた。

一連の再編後の数年間で、同社では大幅な人員の入れ替わりが生じた。資産運用部門の元共同責任者らは、同役職に就いて約 2 年という短期間で離職した。また債券、マルチアセット、株式、リスク管理の各チームでもリーダークラスの離職があり、アナリストの退職・採用も一定程度続いている。同社は債券運用部門の主要ポジションで人材を採用したものの、こうした変化の規模とペースは組織の安定性を損なっている。

Nachmann 氏のリーダーシップの下、同社は販売網の拡大と運用能力の向上を目指している。ただし、これらの取り組みは初期段階にあり、成果はまだ実証されていない。2025 年には T. Rowe Price と戦略的提携を開始し、退職・ウェルス顧客向けに上場資産と非上場資産を組み合わせた投資ソリューションの共同開発に着手した。また、ターゲット・アウトカム戦略の ETF における事業基盤を強化するため、Innovator Capital Management の買収計画を発表した。クオントツ株式運用と米国地方債運用に明るい兆しがあることを除けば、同社の運用能力が際立っているとは言いがたい。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	73	32 /60

	残高 (10 億円)
netWIN GS テクノロジー株式ファンド B(H 無)	1,708
GS フューチャー・テクノロジーL B(H 無)	334
GS ワールド・シフト株式ファンド B(H 無)	203
グローバル・ビッグデータ投資戦略 B(H 無)	161
netWIN GS テクノロジー株式ファンド A(H 有)	154

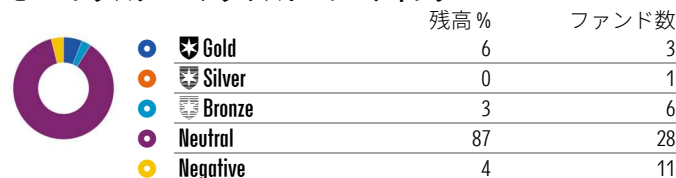
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	10 /41
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	0 /1
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	6 /29
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	4 /27
投信: 平均運用期間 (年)	12.4
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	41	6 /60

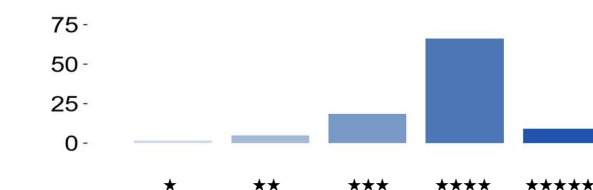
モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	9	34 /60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	20	25 /60

パフォーマンス

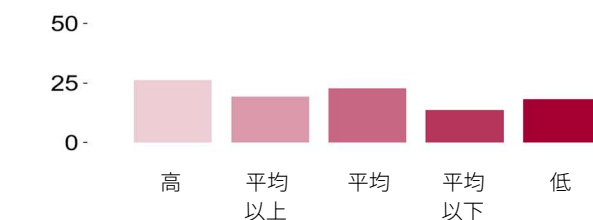
モーニングスター・レーティング平均	順位
3.1	17 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	51	13 /60
成功率 (5 年)	30	37 /60
成功率 (10 年)	27	26 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	順位
54	37 /60



ティー・ロウ・プライス

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均以上	評価日	アナリスト	Adam Sabban	日本	運用資産残高		純資金流入額		純資金流出率	
						運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
		5/29/2026				2,114	19 /60	160.0	17 /60	11.0	18 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

ティー・ロウ・プライスは、多くの魅力を備えるものの、運用力と組織の安定性に対する見方が低下したことから、運用会社評価を「高」から「平均以上」へ1段階引き下げる。

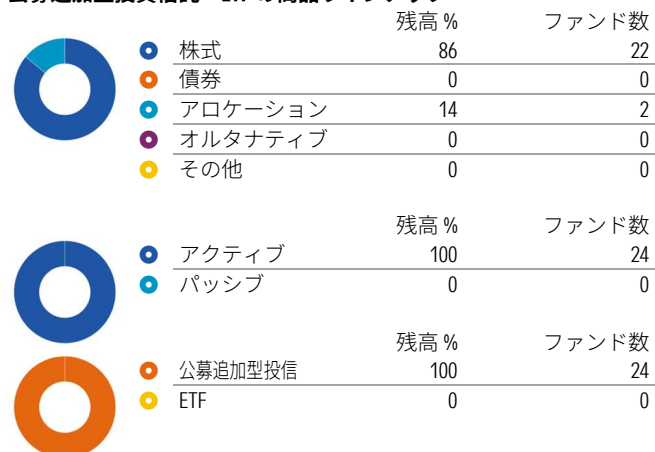
同社はパフォーマンスの低迷と運用担当者の離職増加に直面している。特に、小型・中型株戦略を中心に運用キャパシティを拡大するため、2022年に設けられた運用組織である T. Rowe Price Investment Management では、運用成績に課題が見られる。アクティブ株式部門では、大規模ではないものの継続的な資金流出が事業への圧力となり、運用担当者の削減を含むコスト削減策を講じる一方、新たな成長領域の開拓も迫られている。

透明性の高いアクティブ ETF への参入では出遅れたが、株式ファンドに偏った事業構成の多様化に向け、2025年にはゴールドマン・サックスと協業し、同社のプライベート資産運用の知見を活用した新たなマルチアセット商品の開発を進めた。これは、2021年の Oak Hill Advisors 買収を通じてプライベートクレジット分野に進出し、同社初のセミリキッド型商品につなげた流れに続くものである。

2022年初以降、退職や運用成績を理由とする交代を含め、30名超のポートフォリオ・マネジャーが離職、または離職予定を表明している。こうした人員変動は、モーニングスターの運用担当者および運用プロセスの評価にも一部表れており、2024年半ばから2026年半ばにかけて、引き下げ件数は引き上げ件数の3倍超となった。この中には、業界最大級のターゲットデート・シリーズに組み入れられた一部の重要戦略の引き下げも含まれる。

こうした課題はあるものの、人材採用力、人材育成、リサーチ文化はいずれも高水準を維持している。競争力の高いマルチアセット運用、充実したアナリスト陣、1兆8,000億米ドルの運用資産規模も強みである。一部の戦略は苦戦しているものの、モーニングスターでは同社の大半の商品を前向きに評価している。競争力のある手数料と投資家本位の姿勢も、引き続き評価できる。

公募追加型投資信託・ETFの商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	75	27 /60

	残高 (10 億円)
米国成長株式ファンド	543
世界厳選成長株式 F B(資産成長型・H 無)	387
キャピタル・アブリシエーション B(H 無)	293
米国オールキャップ株式ファンド	231
世界厳選成長株式ファンド B(野村 SMA・EW)	124

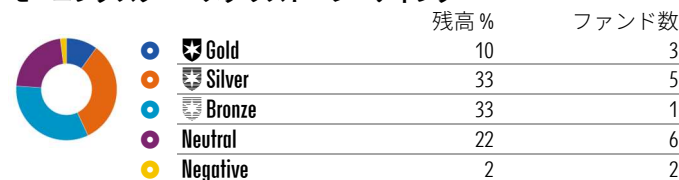
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	52 /60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	1 /60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	58 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	1 /60
投信: 平均運用期間 (年)	
ETF: 平均運用期間 (年)	

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	27	19 /60

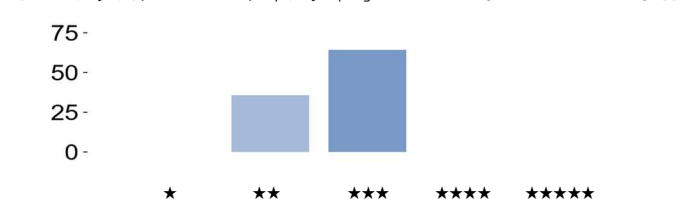
モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	76	11 /60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	53	7 /60

パフォーマンス

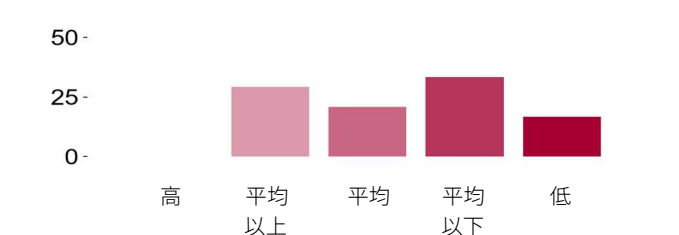
	順位
モーニングスター・レーティング平均	40 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	53	11 /60
成功率 (5 年)	38	27 /60
成功率 (10 年)	N/A	N/A /60

運用費用水準

	順位
運用費用水準平均 - カテゴリ内	12 /60



ミレーアセット (Global X)

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均以下	評価日	アナリスト	純資金流出入額	純資金流出入率	順位
運用会社評価	平均以下	12/16/2025	Nehal Meshram	運用資産残高	順位	直近 1 年
日本	1,144	23 /60	402.6	13 /60	81.1	2 /60

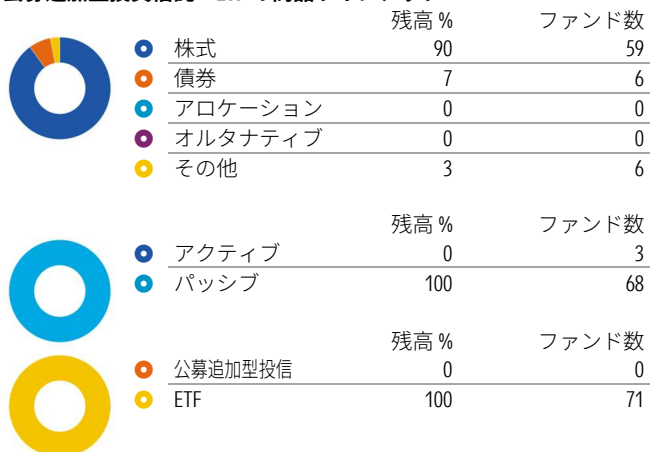
モーニングスター運用会社分析コメント

ミレーアセット・グローバル・インベストメンツは韓国を代表する資産運用会社で、ミレーアセット FG の子会社として、アジア金融市場における主要プレーヤーの一つとなっている。2025 年 6 月時点の運用資産は約 3,060 億米ドルで、アジア太平洋地域では従来型の公募ファンド事業にも強固な事業基盤を有する。特に韓国およびインドの事業は、経験豊富な運用チーム、協調的なリサーチ体制、規律ある商品開発、低い運用者離職率に支えられており、同社の強みとなっている。

一方、米国、カナダ、香港の Global X と韓国の TIGER ETF シリーズからなるグローバル ETF 事業は、グループ運用資産の過半を占めるまで拡大したものの、継続的な課題を抱えている。昨年、複数のテーマ型ファンドを閉鎖し、主力商品に注力する方針を示していたにもかかわらず、話題性や短期的なテーマに依拠した商品を引き続き数多く投入している。これらの新商品には、長期的な投資家利益よりも販売面を重視したとみられるものが多く、商品開発の規律の弱さを示している。こうした戦略が ETF 運用資産に占める比率は小さいものの、商品投入姿勢はスチュワードシップやガバナンスへの懸念を高めている。さらに、Global X での経営陣の入れ替わりや組織文化面での摩擦も、こうした懸念を強めている。

アジア太平洋地域の公募ファンド事業は引き続き明確な強みであるものの、ETF 事業がグループ全体に占める規模は大きく、課題も長期化しているため、その強みを上回る懸念材料となっている。これらを踏まえ、運用会社評価を「平均」から「平均以下」へ引き下げる。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	50	51 /60

	残高 (10 億円)
グローバルリーダーズ-日本株式 ETF	149
US テック・トップ 20 ETF	137
半導体関連-日本株式 ETF	103
S&P500 キャッシュフロー・トップ 100 ETF	98
中小型リーダーズ-日本株式 ETF	81

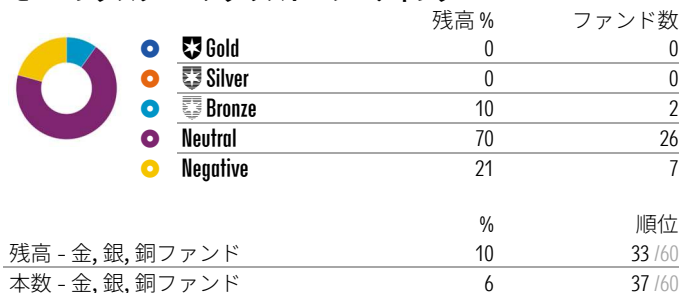
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	32 /56
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	0 /1
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	50 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	0 /1
投信: 平均運用期間 (年)	0.0
ETF: 平均運用期間 (年)	2.7

サステナビリティ

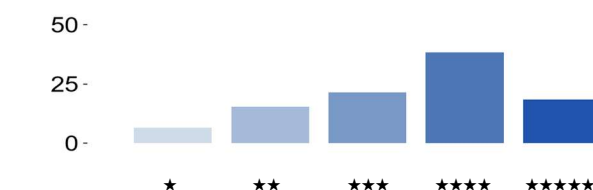
	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	21	28 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



パフォーマンス

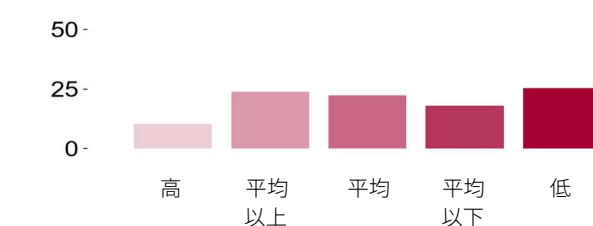
モーニングスター・レーティング平均	順位
2.5	50 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	35	40 /60
成功率 (5 年)	20	46 /60
成功率 (10 年)	N/A	N/A /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	順位
45	20 /60



アムンディ

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均	評価日	アナリスト	Mara Dobrescu	日本	純資金流出入額		純資金流出入率	
						運用資産残高	順位	直近 1 年	順位
		6/2/2025				1,015	24 /60	41.8	24 /60
								5.3	26 /60

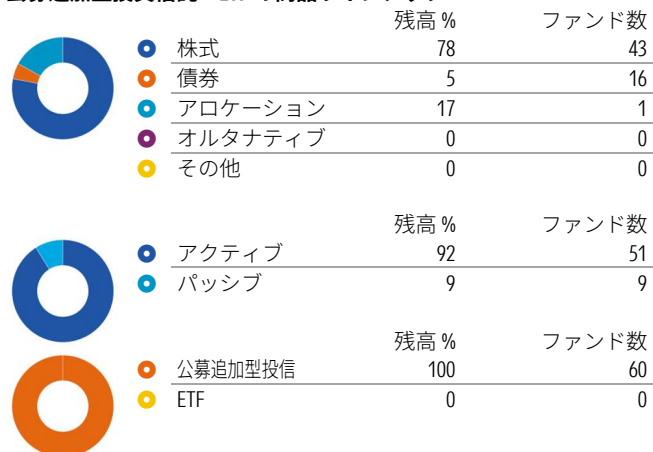
モーニングスター運用会社分析コメント

アムンディは、Victory Capital との提携により米国事業に新たな局面を迎えている。2025 年 4 月、両社は提携を正式に完了し、Amundi は Victory Capital 株の 26% (議決権 4.9%) を取得し、同時に米国子会社 (Pioneer ブランドで運営) が Victory Capital の傘下となった。また、両社は 15 年間の相互販売契約も締結した。この提携により、サポート部門での運営効率化やコスト削減が進められたが、運用チームは大きな影響を受けておらず、安定性が保たれている。Victory Capital はこれまで傘下の運用会社に対して基本的に自主性を尊重する姿勢を示してきたため、Pioneer ブランドの維持や投資判断、リソース配分、プロセスの独立性が維持される見込みである。

今回の提携に先立ち、2021 年に CEO に就任した Valérie Baudson 氏の下では、複数の買収が行われている。2022 年にはパッシブ運用に強みを持つ Lyxor Asset Management を買収し、大きな混乱を伴うことなく統合を完了した。2024 年初頭には、プライベート・エクイティとプライベート・デットを専門とするスイス・チューリッヒ拠点の Alpha Associates を買収した。

一方で、同社は多数のアクティブ・ファンドのラインアップを整理するという課題に直面しており、投資家にとってより明確で高い確信を持てる商品提供を目指しているが、その成果が十分に表れるまでにはなお時間を要している。ポートフォリオ・マネジャーやアナリストの報酬体系は業界標準に沿っているものの、ボーナス算定における長期的リターンへの比重を高めることで、さらなる改善の余地がある。さらに、パッシブ商品の手数料は競争力が高い一方で、アクティブファンドについても、規模の効果を活かして手数料を引き下げる余地があると見ている。同社の運用会社評価は、引き続き「平均」とする。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	58	44 /60

残高 (10 億円)	順位
アムンディ・みらい定期便	167
日興レジェンド・イーグル(資産成長コース)	122
アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンド	118
日興レジェンド・イーグル(毎月決算コース)	103
ワールド・バリュー・アロケーション B(H 無)	83

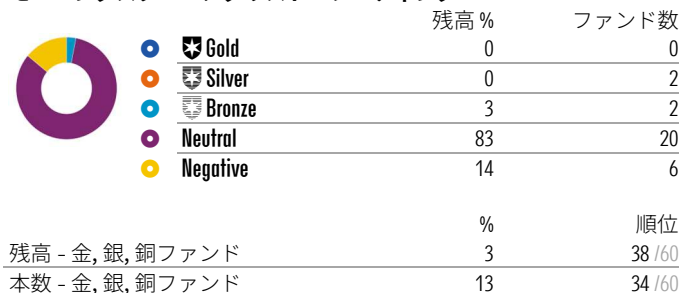
商品ラインアップの変化

商品タイプ	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	6 /28
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	18 /55
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	4 /14
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	10 /53
投信: 平均運用期間 (年)	11.6
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

ESG リスク低・平均以下のファンド	%	順位
	26	20 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



パフォーマンス

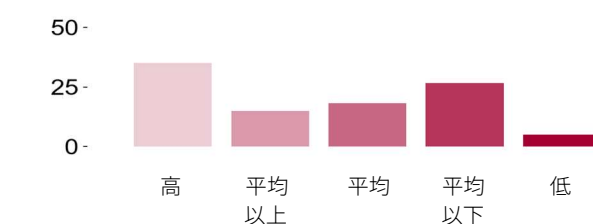
モーニングスター・レーティング平均	順位
3.1	18 /60



成功率 (3 年)	%	順位
	35	40 /60
成功率 (5 年)	%	順位
	34	30 /60
成功率 (10 年)	%	順位
	8	46 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	順位
60	47 /60



JP モルガン・アセット・マネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価		高	純資金流出入額				純資金流出入率	
評価日	5/15/2026	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	
アナリスト	Alyssa Stankiewicz	日本	911	25 /60	-73.7	55 /60	-8.8	47 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

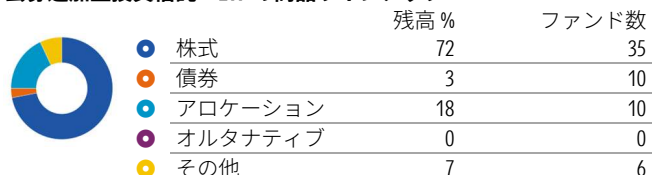
J.P.モルガンは、投資家利益を重視する姿勢を着実に示してきたことから、運用会社評価を「平均以上」から「高」へ引き上げる。同社はマネー・マーケット・ファンドの 1 兆 3,000 億米ドルを含む 4 兆米ドル超を運用し、米国、欧州、アジアで最大級のアクティブ運用会社の一つである。過去 5 年間、一部のマルチアセット戦略は苦戦し、新たな経営陣が運用チームの見直しを進めているものの、株式・債券部門では在籍年数の長いポートフォリオ・マネジャーが再現性の高い運用プロセスを通じて、長期にわたり良好な運用成果を上げている。同社の商品は、長い運用実績を持つポートフォリオの土台となる戦略が中心だが、特色ある商品も展開しており、オプション戦略を取り入れた株式インカム ETF 本は主力商品に成長している。また、アクティブ ETF に早くから取り組み、12 本の公募ファンドを ETF に転換したほか、新たな ETF も設定している。

多様な運用戦略を支えるため、同社はポートフォリオ管理ツールと顧客支援体制に多額の投資を行ってきた。過去 10 年間、高度な分析機能を備えた独自の運用基盤を構築し、運用アナリスト、トレーダー、ポートフォリオ・マネジャーに広く活用されている。顧客重視の姿勢も強みであり、2000 年代初頭から金融アドバイザーへの支援をコンサルティング型へと転換し、商品販売ではなく投資家教育に重点を置く「Guide to the Markets」を提供してきた。

報酬制度も投資家との利害一致を促す。10 年以上前から、運用チームの報酬は 3 年、5 年、10 年の運用実績に連動し、ポートフォリオ・マネジャーには繰延報酬の半分以上を J.P.モルガンの運用商品に投資することを義務付けている。さらに、ポートフォリオ・マネジャーに投資を促す一般的な慣行から一歩踏み込み、顧客対応を担う社員にも同社ファンドへの投資を義務付けている。

一部ファンドではなお費用面の課題が残るものの、シェアクラスの過半は同業他社比で競争力のある手数料水準にある。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	52	49 /60

	残高 (10 億円)
JP モルガン・アメリカ成長株 F(H 無、年 1 回決算)	153
JPM ザ・ジャパン	94
JPM ベスト・インカム(毎月決算型)	91
JP モルガン・アメリカ成長株 F(H 無、毎月決算)予	70
JPM グローバル医療関連株式ファンド	67

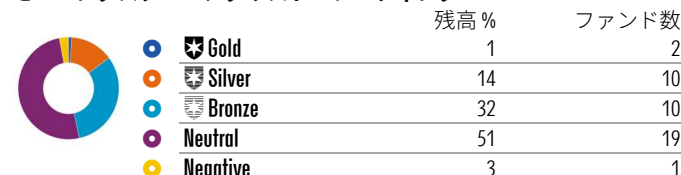
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	17 /49
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	0 /1
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	9 /36
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	11 /55
投信: 平均運用期間 (年)	11.0
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	17	36 /60

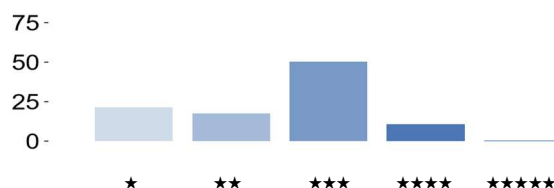
モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金、銀、銅ファンド	46	20 /60
本数 - 金、銀、銅ファンド	52	9 /60

パフォーマンス

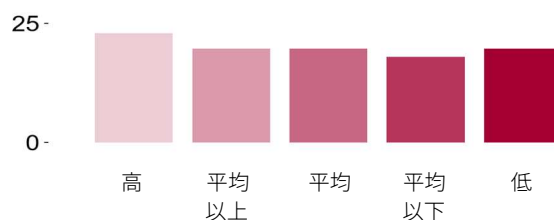
モーニングスター・レーティング平均	2.7	順位
		43 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	28	49 /60
成功率 (5 年)	13	51 /60
成功率 (10 年)	10	44 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	53	順位
		34 /60



イーストスプリング・インベストメンツ

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価		平均		純資金流入額		純資金流出率	
評価日	8/25/2025	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
アナリスト	Claire Liang	日本	709	27 /60	-103.6	56 /60	-12.7

モーニングスター運用会社分析コメント

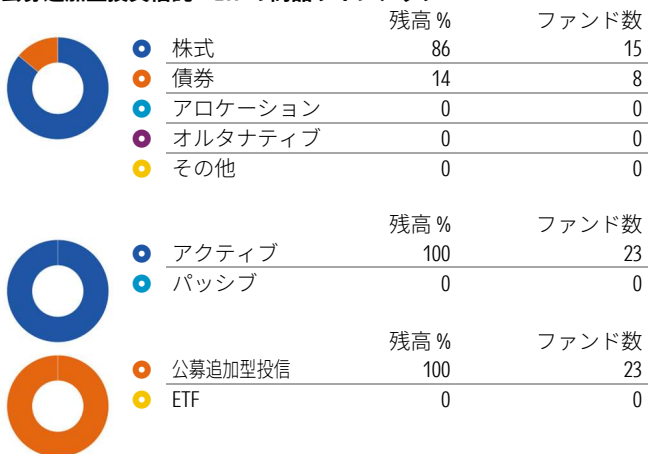
イーストスプリング・インベストメンツは近年、安定した基盤を築きつつあるものの、経営陣の継続的な交代は引き続き注視が必要である。同社の運用会社評価は引き続き「平均」とする。

同社は保険会社 Prudential Plc が全額出資するアジア拠点の資産運用会社であり、2024 年末時点の運用資産 2,580 億米ドルのうち約 58%を Prudential Plc 向けの運用が占めるなど、同社が主要顧客となっている。

2019 年以降、イーストスプリングは経営陣の交代が続いている。直近では、2025 年 7 月 1 日に、Rajeev Mittal 氏が退職した Bill Maldonado 氏の後任として CEO に就任した。Maldonado 氏は 2021 年 8 月に株式部門責任者として入社し、2023 年 9 月に CEO に就任していた。Mittal 氏はアジアおよび欧州で 30 年以上の運用経験を持ち、フィデリティ・インターナショナルのアジア部門責任者やパインブリッジのアジア太平洋地域 CEO を長年務めた実績がある。同氏のアジア市場における豊富な経験は同社の中核戦略にとって追い風となる一方、2024 年 6 月に就任した CIO の Vis Nayar 氏をはじめとする新任経営陣との協働がどの程度機能するかは、今後の見極めが必要である。現時点では、Mittal 氏の方針は前任者のビジョンと一致しており、運用パフォーマンスの向上と既存の能力を活用した成長を目指している。

運用チームの安定性は 2023 年以降改善しており、年間離職率は 2021 年と 2022 年の約 20%から 2023 年以降は約 10%に低下した。同社は、各戦略におけるアルファやトラッキングエラー目標の導入、運用プロセスの強化など、成果重視の企業文化を促進する取り組みを進めている。これにより、株式および債券運用の直近のパフォーマンスにおいて改善が見られている。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	81	22 /60

残高 (10 億円)

イーストスプリング・インド消費関連ファンド	232
イーストスプリング・インド株式オープン	215
イーストスプリング・インド・インフラ株式 F	64
イーストスプリング・インド公益インフラ債券(毎月)	35
イーストスプリング・インド株式 F(3 ヶ月決算型)	30

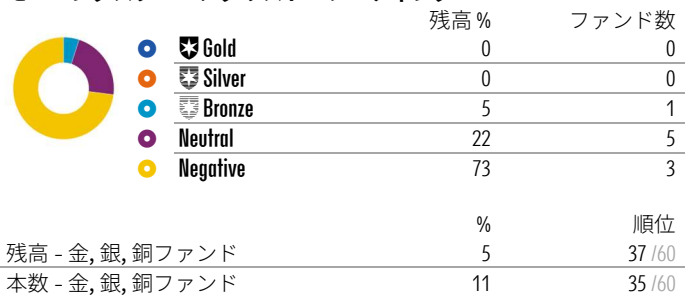
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	9 /40
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	5 /43
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	7 /32
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	7 /49
投信: 平均運用期間 (年)	11.3
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	30	13 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



パフォーマンス

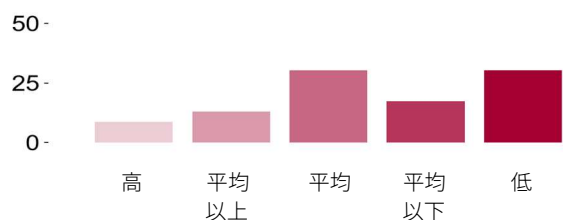
モーニングスター・レーティング平均	3.0	順位
		24 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	50	14 /60
成功率 (5 年)	35	29 /60
成功率 (10 年)	33	15 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	40	順位
		9 /60



HSBC アセットマネジメント

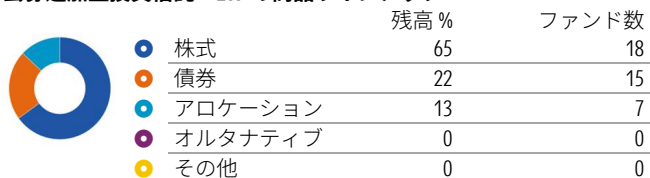
ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均	純資金流入額				純資金流入率		
評価日	10/31/2025	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	
アナリスト	Mara Dobrescu	日本	642	30 /60	-109.9	57 /60	-15.2	55 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

HSBC アセットマネジメントは、改善に向けた取り組みを進めているものの、投資家の長期利益を重視する姿勢をより明確に示す必要がある。2019 年に CEO に就任した、AXA IM や DWS での経験を有する Nicolas Moreau 氏と、2021 年に CIO に昇格した Xavier Baraton 氏は、運用力強化に向けた取り組みを進めている。運用チームの報酬体系を見直し、1 年および 3 年のファンド運用実績に連動させた。これにより、ポートフォリオ・マネジャーと投資家の利害一致は強化されたものの、5 年などの長期指標を加えることで、報酬体系を業界標準により近づけることができると考える。また同社はファンド全体でアクティブ・リスクをより取ることを推進し、ポートフォリオ・マネジャーに確信度の高い投資先への集中投資を促すとともに、過度にベンチマーク依存していた一部戦略を見直している。加えて、同社はかつて広範だった商品ラインアップを整理し、テーマ型投資を含む重点分野に注力する方針を進めている。テーマ型投資は、2022 年に Contrast Capital から加わり、最近 Vis Nayar 氏の後任としてグループの株式 CIO に就任した Pierin Menzli 氏が率いている。過去 3 年間に、同社はメタバース、資源・エネルギー転換、循環型経済など複数のテーマ型戦略を開発してきた。しかし、テーマ型ファンドは投資家が効果的に活用することが難しいとの調査結果もあることから、モーニングスターでは、こうした展開を慎重に見ている。また同社は、パッシブ・アクティブ双方で ETF 事業を拡大しており、欧州では、1 つの運用戦略を公募投資信託と ETF の双方の形態で提供する先行例の一つとなる方針を示している。過去 3 年間の取り組みは前向きだが、運用成績の大幅な改善にはまだつながっておらず、運用会社評価は引き続き「平均」とする。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	64	37 /60

	残高 (10 億円)
HSBC インド・インフラ株式オープン	242
HSBC インド オープン	109
HSBC ワールド・セクション(安定成長コース)	25
HSBC ブラジル オープン	19
グローバル・ターゲット利回り債券 2023-02(限)	18

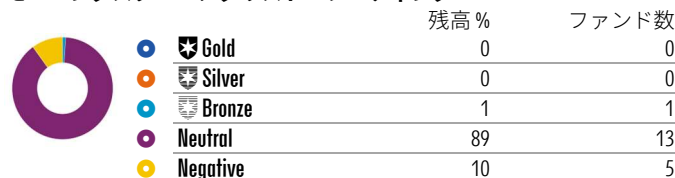
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	14 /46
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	3 /36
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	10 /38
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	5 /35
投信: 平均運用期間 (年)	10.1
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	5	44 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	1	41 /60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	5	39 /60

パフォーマンス

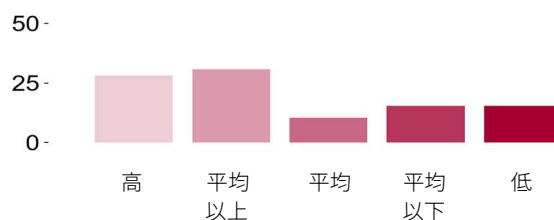
モーニングスター・レーティング平均	順位
2.4	52 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	36	39 /60
成功率 (5 年)	12	52 /60
成功率 (10 年)	21	38 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	順位
59	45 /60



スパークス・アセット・マネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	高	評価日	12/11/2025	アナリスト	柳 珠里	日本	純資金流入額		純資金流出率	
							運用資産残高	順位	直近 1 年	順位
							607	31 /60	-38.0	53 /60
									-7.9	46 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

スパークス・アセット・マネジメントは長期的な視点、運用スタイルの規律、および確固たる運用の専門性を備えている。

スパークス・アセット・マネジメントは、スパークス・グループ傘下であり、日本初の独立系資産運用会社である。同社は 1989 年に経験豊富な投資家である阿部修平氏によって設立された。同社の投資哲学である「マクロはミクロの集積である」は、個別企業調査の積み上げに基づく運用プロセスを支える重要な基盤となっている。また、核となる運用能力（コア・コンピタンス）への一貫した注力と、運用商品ラインアップの拡張に対する慎重な姿勢を組み合わせることで、投資家に長期的な投資成果をもたらすことを重視している。

2025 年 10 月時点で、同社はグループ全体で 2.1 兆円超の資産を運用している。運用資産残高全体の約 7 割を占めるのは、4 つの戦略で構成される日本株式運用である。これらの戦略には、米国や欧州からの資金流入も多く、幅広い投資家層にサービスを提供している。同社は 20 名超の日本株式の投資プロフェッショナルのチームを有し、国内運用会社の中でも日本株式のアクティブ運用に注力する運用会社として際立つ存在である。多くのポートフォリオ・マネジャーは同社で長年キャリアを積んでおり、このような人材の安定性が、厳しい市場環境下でも投資スタイルの一貫性を高い水準で維持する基盤となっている。規律ある運用プロセス、自社で長年蓄積された企業調査のデータベース、そして長年の経験を持つ PM 陣が、同社の優位性を継続的に支えている。

同社の創業者であり、グループ CEO 兼 CIO である阿部氏に関して、長期的な明確な後継計画が示されていない点は、同社の将来的な戦略方向性という観点から懸念材料となる。ただし、同氏の運用面での関与はエンゲージメント戦略など一部に留まるため、この懸念が各運用戦略のポートフォリオ・マネジメントに影響することはない。一方、同社の運用費用水準は、運用体制の充実を反映した結果、国内の同業他社に比べて相対的に高く、これは投資家本位の姿勢を掲げる同社の行動とその両立が容易ではない側面である。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ

	残高 %	ファンド数
株式	100	19
債券	0	0
アロケーション	0	0
オルタナティブ	0	0
その他	0	0

	残高 %	ファンド数
アクティブ	100	19
パッシブ	0	0

	残高 %	ファンド数
公募追加型投信	100	19
ETF	0	0

残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	93	12 /60

	残高 (10 億円)
スパークス・新・国際優良日本株ファンド	314
スパークス・厳選投資ファンド(野村 SMA・EW 向け)	156
スパークス・企業価値創造日本株ファンド	64
スパークス・M&S・ジャパン・ファンド	19
スパークス・厳選投資ファンド(確定拠出年金向け)	12

商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	0
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	0
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	3
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	6
投信: 平均運用期間 (年)	13.4
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	30	13 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング

	残高 %	ファンド数
Gold	0	1
Silver	28	2
Bronze	0	0
Neutral	68	5
Negative	4	5

	%	順位
残高 - 金、銀、銅ファンド	28	25 /60
本数 - 金、銀、銅ファンド	23	20 /60

パフォーマンス

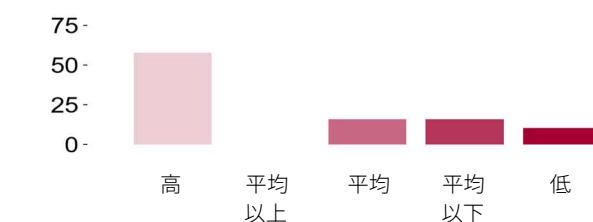
	順位
モーニングスター・レーティング平均	2.6
	48 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	32	45 /60
成功率 (5 年)	11	54 /60
成功率 (10 年)	33	15 /60

運用費用水準

	順位
運用費用水準平均 - カテゴリ内	69
	56 /60



ステート・ストリート・インベストメント・マネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均以上	評価日	7/16/2025	アナリスト	Brendan McCann	日本	純資金流出入額		純資金流出入率	
							直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
運用資産残高						498	59.2	22 / 60	17.6	12 / 60

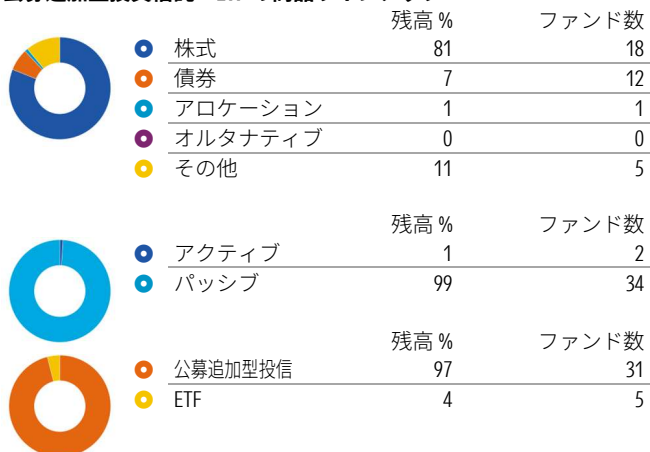
モーニングスター運用会社分析コメント

ステート・ストリート・インベストメント・マネジメントは、未開拓の分野に挑戦する一方で、低コスト商品は依然として競争力が強く、運用会社評価を「平均以上」とする。同社は 2025 年 6 月に、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズから現在の名称にブランドを変更し、新ロゴを導入した。これは他のステート・ストリート商品との一貫性を高め、投資家にとっての明確性を向上させることを目的としており、投資哲学や運用戦略、また経営陣に変更はない。

2022 年に CEO に就任した Yie-Hsin Hung 氏は、商品開発のスピード向上を推進している。2024 年には Anna Paglia 氏を最高ビジネス責任者に、2025 年には Mark Alberici 氏を初のプロダクト・イノベーション担当責任者に任命した。同社は 2024 年末から 2025 年初めにかけて、アポロやギャラクシー・アセット・マネジメントとの提携を通じ、ユニークかつテーマ型の ETF を相次いで立ち上げた。特に、プライベートクレジット ETF は、ETF 構造にプライベート資産を初めて組み込んだ製品であり、流動性制約への対応が注目される。また、ギャラクシーとの協働による ETF はブロックチェーンやデジタル資産に焦点を当てている。

これらの新しい戦略は、同社の運用資産総額 1.7 兆米ドルの大部分を占めるコア ETF に比べ、リスクが高くニッチな分野だが、同社の堅実なキャピタルマーケティング部門とリスク管理チームに支えられている。同社は、短期投資家による急激な資金流入にも対応できる能力に長けており、新たな流動性の課題にも適切に対処できると考えられる。また、同社は引き続き価格競争力を維持しており、全シェアクラスの約 90% が平均以下の経費率となっている。さらに、2023 年第 4 四半期の手数料引き下げにより、2025 年 3 月までに投資家に 6,000 万米ドル超の費用削減効果をもたらしたと同社は試算している。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	78	25 / 60

	残高 (10 億円)
米国株式インデックス・ファンド	212
ステート・ストリート DC 外国株式インデックス OP	56
全世界株式インデックス・ファンド	47
ステート・ストリート外国株式インデックス OP	43
ステート・ストリート・ゴールドファンド(H 有)	33

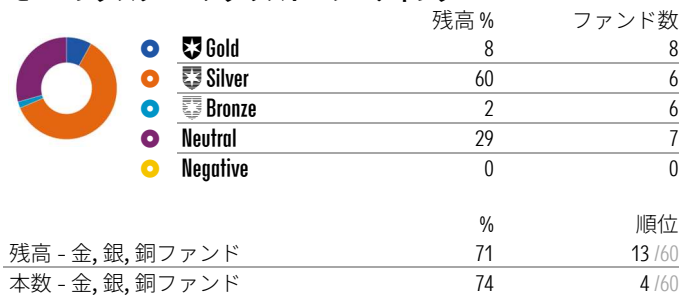
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	23 / 54
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	3 / 39
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	12 / 45
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	4 / 23
投信: 平均運用期間 (年)	9.5
ETF: 平均運用期間 (年)	0.6

サステナビリティ

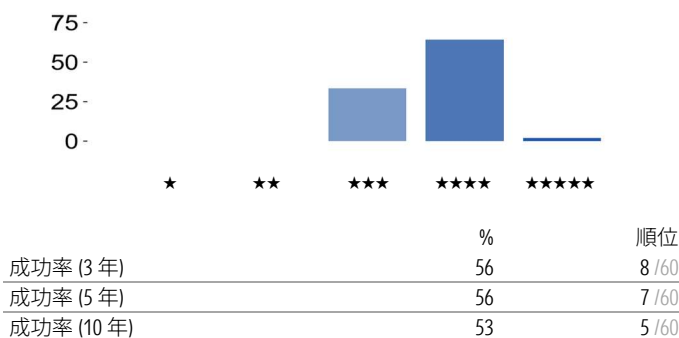
	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	25	23 / 60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



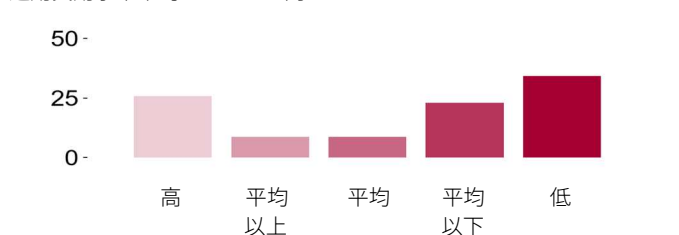
パフォーマンス

モーニングスター・レーティング平均	3.8	順位
		3 / 60



運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	42	順位
		12 / 60



UBS アセット・マネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均	純資金流入額			純資金流出率			
評価日	4/16/2026	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	
アナリスト	Natalia Wolfstetter	日本	410	39 /60	71.1	20 /60	25.0	7 /60

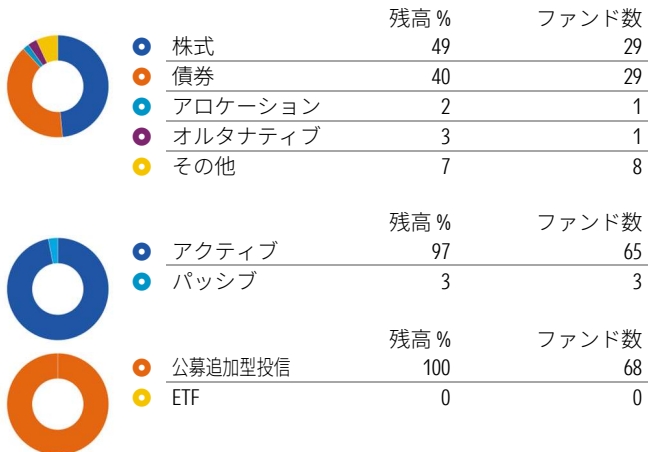
モーニングスター運用会社分析コメント

UBS アセットマネジメントは、2023 年の UBS によるクレディ・スイス買収後、クレディ・スイス AM の統合を進めてきた。政府の主導により実現した大規模買収であり、2つのグローバル事業の統合には経営・業務両面で大きな対応が求められたが、2026 年初時点で統合作業の大半は完了している。

同社は 10 年以上前から構造改革を進めてきており、運営基盤を強化してきた。近年、同社は競争優位をより明確にし、幅広いアクティブ運用での差別化よりも、規模、効率性、販売力を重視している。インデックス運用や ETF、セパレート・アカウントに加え、自社プラットフォームである Unified Global Alternatives を通じた第三者運用会社のオルタナティブ戦略など、拡張性の高い分野に注力している。クレディ・スイス AM との統合により、専門性の高いクレジット戦略を中心に補完的な運用力が加わり、パッシブ運用の規模も拡大した。重複領域では商品ラインアップの整理が進む一方、同社の提供範囲は依然として広く、伝統的資産からオルタナティブ資産まで幅広いアクティブおよびパッシブ戦略を有している。運用成果は総じて堅調だが、総資産の約半分を占めるまで拡大したパッシブ資産に支えられている面が大きい。一部に強みを持つ領域はあるものの、アクティブ戦略の成果にはなおばらつきが残る。投資判断の強化とアクティブ運用体制の競争力向上を狙いとして、2026 年 7 月に新たな共同投資責任者が任命される予定である。報酬制度は概ね業界標準に沿っているが、ボーナスの評価期間は最長 3 年にとどまり、投資家との長期的な利益の一致という点では際立つものではない。

統合後の組織は通常運営に近い段階へ移行しつつあり、これは安心材料である。一方、重複職務の削減、非中核事業からの撤退、運用プラットフォームの継続的な見直しに伴う運用人材の離職や入れ替わり、アクティブ戦略の成果のばらつきは、引き続き注視すべき点である。こうした点を踏まえ、運用会社評価を「平均」に据え置く。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	36	54 / 60

残高 (10 億円)

UBS 世界公共インフラ債券(通貨選択)円(毎月)	37
UBS オーストラリア債券オープン(毎月分配型)	35
FW・UBS・米国株式ファンド	26
FW・UBS・日本株式ファンド	25
UBS グローバル株式厳選投資 B(ダイワ投資一任)	23

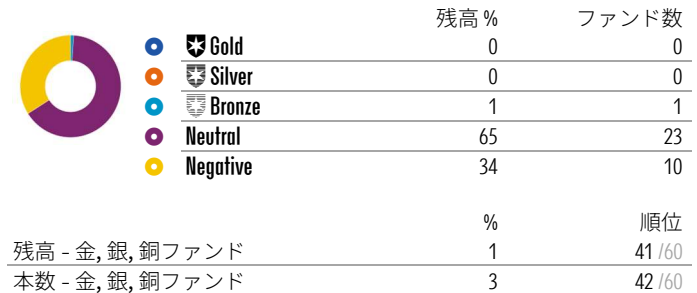
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	0
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	1
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	5
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	4
投信: 平均運用期間 (年)	11.5
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	25	23 / 60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



パフォーマンス

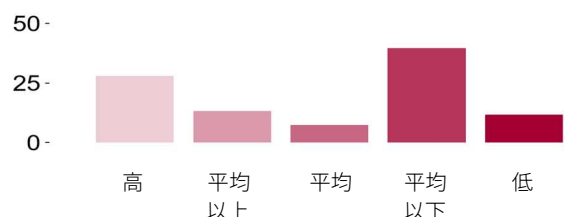
モーニングスター・レーティング平均	2.9	順位
		32 / 60



	%	順位
成功率 (3 年)	36	37 / 60
成功率 (5 年)	24	42 / 60
成功率 (10 年)	31	20 / 60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	53	順位
		34 / 60



BNY・インベストメンツ

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均	評価日	アナリスト	運用資産残高	順位	純資金流入額		純資金流出率	
						直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
日本		2/4/2026	Alyssa Stankiewicz	227	42 /60	-21.1	48 /60	-12.4	53 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

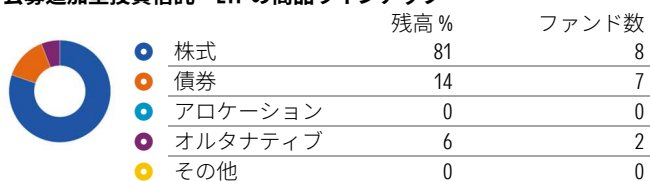
BNY インベストメンツは、複数の運用会社を傘下に持つマルチ・アフィリエイト型モデルの再編が続く中、運用会社評価を引き続き「平均」とする。

2024 年 9 月にトップに就任した Jose Minaya 氏は、運営体制の効率化と傘下運用会社の統合を担っている。この取り組みは前任の Hanneke Smits 氏の下で始まり、2026 年 1 月には、堅調な債券運用会社である Insight の CEO、Raman Srivastava 氏の統括範囲を Newton の株式・マルチアセット運用チームにも広げた。これにより、BNY のアクティブ運用能力のほぼ全てと、マネーマーケットを除く運用資産の過半が Srivastava 氏の下に集約された。同氏は Great-West Lifeco に 7 年間に在籍した後、2025 年春に BNY へ復帰している。

Srivastava 氏が引き継ぐ組織は、近年大きな変化に直面している。2025 年 3 月には Newton の販売・オペレーション機能が BNY Investments に統合された。この再編に伴い、前 CEO の Euan Munro 氏と共同 CIO の Mitesh Sheth 氏が退任し、前 CIO の John Porter 氏が Newton の責任者に就任した。Newton の主力リアルリターン戦略も苦戦しており、継続的な資金流出と低調な運用成績により、運用資産は 10 年前の約 180 億米ドルから 2025 年には 50 億米ドルを下回った。Porter 氏は 2025 年に同戦略の運用チームを大幅に見直し、約 100 名だったチームから運用担当者を約 24 名削減した。Newton では同年、株式部門の副 CIO も退任している。こうした改革が運用チームの安定化、運用成績の改善、顧客維持につながるかはなお不透明である。

これまでのところ、Minaya 氏は他の傘下運用会社には大きな変更を加えていない。Walter Scott は Srivastava 氏の管轄外に残る唯一の完全子会社のアクティブ運用会社で、集中度の高いグローバル株式・外国株式戦略で約 800 億米ドルを運用している。これらの戦略は良好な長期実績を有するものの、近年のモメンタム主導相場では苦戦している。それでも、安定したチームとリサーチ重視のプロセスは評価できる点である。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	75	27 /60

	残高 (10 億円)
モビリティ・イノベーション・ファンド	87
米国製造業株式ファンド	29
インサイト・グローバル・クレジット B(野村 SMA・EW)	20
日本中小型成長株アクティブ・ファンド	19
日本復活成長株ファンド	16

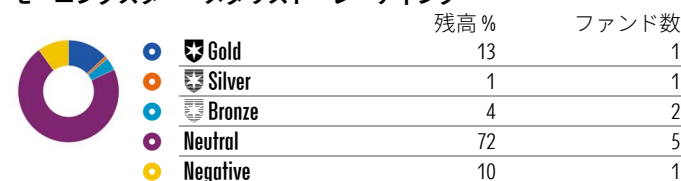
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	5 /24
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	24 /58
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	10 /41
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	12 /57
投信: 平均運用期間 (年)	8.6
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	30	13 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



残高 - 金, 銀, 銅ファンド	%	順位
	18	27 /60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド		
	40	13 /60

パフォーマンス

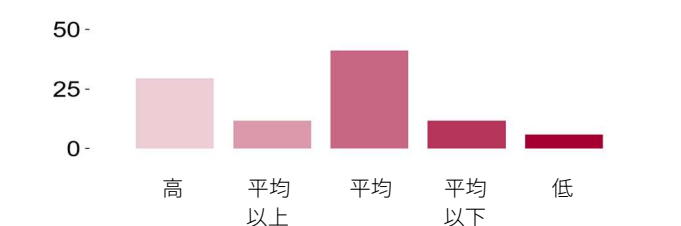
モーニングスター・レーティング平均	2.7	順位
		42 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	45	26 /60
成功率 (5 年)	17	49 /60
成功率 (10 年)	14	42 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	59	順位
		45 /60



ドイチェ・アセット・マネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価		平均	純資金流入額				純資金流出率	
評価日	10/2/2025		運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
アナリスト	Natalia Wolfstetter	日本	202	44 /60	-17.4	46 /60	-9.1	49 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

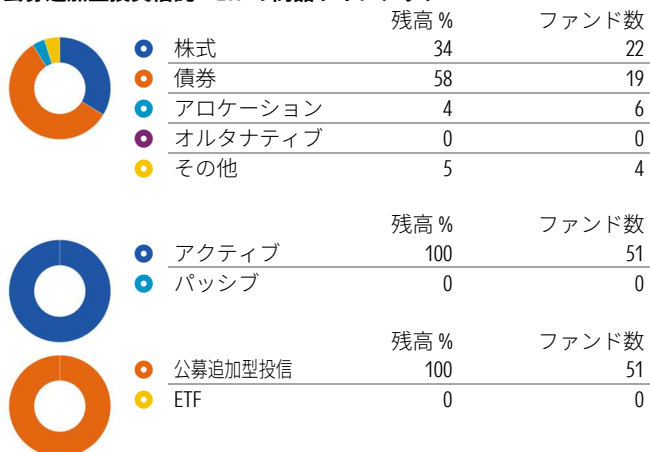
ドイチェ・アセット・マネジメントは、複数の強みを持つ一方、継続的な課題も残ることから、運用会社評価を「平均」とする。

同社は株式、債券、マルチアセット、オルタナティブ投資など主要な市場分野を幅広くカバーしている。大規模ファンドの多くは、在籍年数が長く経験豊富な運用担当者が堅調な成果を上げているが、商品ラインアップには平均的な戦略も少なくない。経営体制が不安定な時期を経験したものの、運用チームの多くは安定しており、幅広い商品群の中に明確な強みを持つ分野もある。手数料も概ね競争力のある水準にある。

Xtrackers を通じて強固なパッシブ運用事業を築いており、2025 年 6 月時点で運用資産の 34% を占める。同分野では、コスト競争だけでなく、市場動向や投資テーマへの迅速な対応による差別化を図っている。このため、新商品の多くは ETF に集中しており、アクティブ ETF の拡充も計画する一方、アクティブファンドの商品ラインアップは一定程度整理された。特に株式で低調なアクティブ戦略の連携と運用成果を改善する取り組みも進めている。報酬制度を見直し、同業他社比の運用成果をより重視するとともに、成果に応じた変動報酬の差を明確にした。運用成果の評価は 1 年および 3 年の実績を中心とするが、同業他社を上回る成果や、モーニングスターから高い評価を得ることも評価項目に含まれるため、運用歴の長いファンドでは最長 10 年の視点も取り入れている。

近年はグリーンウォッシング疑惑により規制当局の調査を受け、CEO の退任にもつながった。米国では 2023 年、ドイツでは 2025 年に比較的小額の制裁金で調査が終結したものの、同問題は DWS に重大な評判・規制上の課題をもたらした。同社はこれを受け、ESG 関連の文書、ガバナンス、情報発信を見直し、強化している。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

	残高 %	順位
残高上位 5 ファンド	53	45 /60

残高 (10 億円)

DWS グローバル公益債券 F(毎月分配型)B(H 無)	46
DWS グローバル公益債券 F(毎月分配型)A(H 有)	22
ドイチェ・インド株式ファンド	14
DWS 欧州ハイ・イールド債券 F(B レアル)(毎月)	14
日興・DWS・ニュー・リソース・ファンド	13

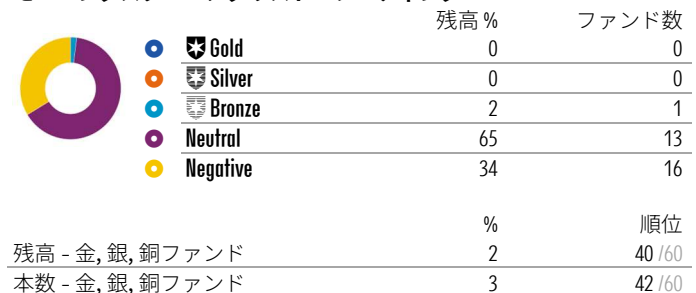
商品ラインアップの変化

		順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	2	18 /60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	0	1 /60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	0	7 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	6	39 /60
投信: 平均運用期間 (年)	16.8	
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0	

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	16	38 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



パフォーマンス

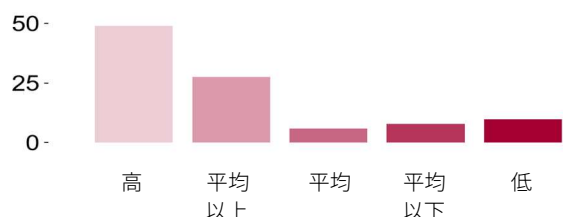
		順位
モーニングスター・レーティング平均	3.0	24 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	49	19 /60
成功率 (5 年)	39	24 /60
成功率 (10 年)	29	22 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	69	順位 56 /60
------------------	----	--------------



シュローダー

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均以上	評価日	アナリスト	Lena Tsymbaluk	日本	運用資産残高		純資金流入額		純資金流出率	
						運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位
		4/16/2026				182	45 /60	-15.7	44 /60	-10.6	52 /60

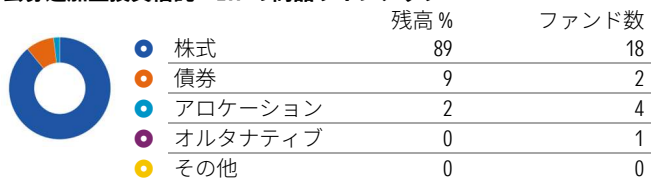
モーニングスター運用会社分析コメント

シュローダーは、Nuveen による買収に伴う変化が見込まれるものの、同社の強みはなお維持されていることから、運用会社評価は引き続き「平均以上」とする。

2026 年 2 月、Nuveen はシュローダーを買収する意向を発表した。約 99 億ポンドの全額現金取引で、成立すればシュローダーは非公開化され、ロンドン証券取引所への上場も廃止される。これにより、創業家の影響を残す独立系英国運用会社としての長い歴史に区切りがつくことになる。株主には、取引の戦略的重要性を反映した大幅なプレミアムが提示されている。創業家を含む主要株主はすでに賛成票を投じることを確約しており、追加の承認は必要だが、取引は 2026 年第 4 四半期に完了する見込みである。買収後のグループは約 2.5 兆米ドルを運用し、グローバルでの規模を大きく高めることになる。Nuveen の米国での強固な基盤と、シュローダーの英国、欧州、アジアでの確立された事業基盤が組み合わせることで、販売網、リサーチ能力、商品提供の多様性が強化される見通しである。特に債券やプライベート市場での運用力が広がり、米国、アジア太平洋、中東など主要地域での展開力も高まるとみられる。

買収後も、シュローダーのブランド、日々のポートフォリオ運用、投資哲学、顧客重視の文化は維持される方針であり、英国およびロンドンを重要な事業拠点とする姿勢も継続される。Richard Oldfield 氏は CEO にとどまり、Nuveen の経営陣にも加わる予定である。ブランドと経営陣の継続性は顧客の安心感につながり、統合に伴う混乱の抑制にも寄与するとみられるが、統合が進む中でこれらの方針がどこまで維持されるかが今後の焦点となる。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	59	43 /60

残高 (10 億円)

シュローダー日本ファンド(確定拠出年金向け)	31
シュローダー・エマージング株式ファンド(1 年決算)	29
シュローダー年金運用ファンド日本株式	20
シュローダーDC アクティブ外国株式	14
シュローダー日本ファンド(野村 SMA・EW 向け)	14

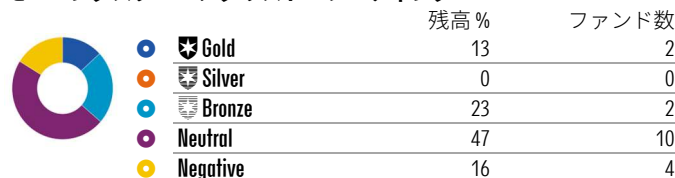
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	0 /1 /60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	0 /1 /60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	1 /8 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	5 /35 /60
投信: 平均運用期間 (年)	15.6
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	12	40 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



残高 - 金, 銀, 銅ファンド	%	順位
	36	23 /60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	22	21 /60

パフォーマンス

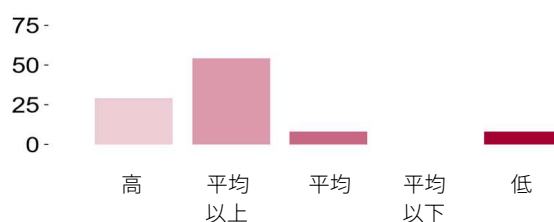
モーニングスター・レーティング平均	順位
2.9	32 /60



成功率 (3 年)	%	順位
	45	25 /60
成功率 (5 年)	31	35 /60
成功率 (10 年)	29	21 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	順位
67	54 /60



メットライフ・インベストメント・マネジメント

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均	純資金流入額				純資金流入率		
評価日	5/12/2026	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	
アナリスト	Alyssa Stankiewicz	日本	159	46 /60	-51.7	54 /60	-26.5	60 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

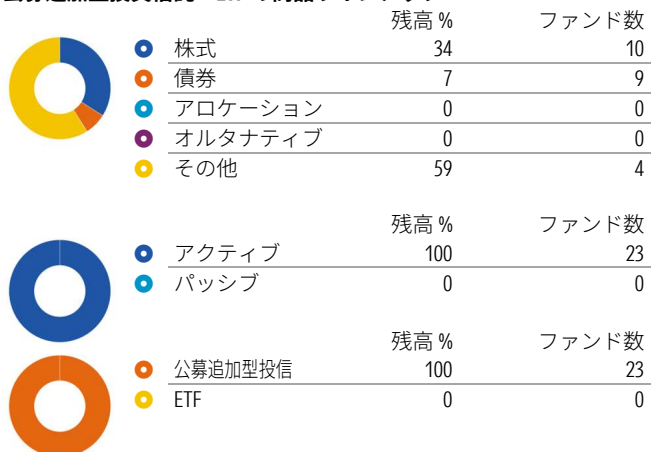
メットライフ・インベストメント・マネジメント (MIM) は、2025 年末に PineBridge Investments の買収を完了したが、統合作業は初期段階にあり、運用会社評価は「平均」とする。

MetLife Inc.の完全子会社である MIM は、今回の買収で約 1,000 億米ドルの運用資産を加え、統合後の運用資産は 7,000 億米ドル超となった。両社はいずれも保険会社を母体とし、企業文化面での親和性が見込まれる。また、親会社である MetLife Inc.が保険事業に関連して自社勘定で運用する資産は、統合後の運用資産の過半を占める。顧客基盤や運用能力の重複は限定的で、PineBridge は欧州・アジアの個人投資家向けアジア債券・株式戦略に強みを持つ一方、MIM は主に米国の機関投資家向けに、パブリックおよびプライベート債券、不動産運用に強みを持つ。

買収後のリーダーシップの入れ替わりは限定的である。PineBridge の前 CEO である Gregory Ehret 氏は買収完了後に退任したが、2026 年初時点では主要幹部と運用チームの大半は残っている。一方、運営、コンプライアンス、投資プロセスでは、なお重要な統合作業が残っている。

MIM は買収を活用してきたが、PineBridge は近年で最大規模である。2017 年の Logan Circle Partners 買収は、パブリック債券運用の強化と人材層の拡充につながり、現在の MIM 社長やパブリック債券運用責任者など、主要メンバーも同買収を機に加わった。近年の買収は、より小規模かつ対象を絞っている。MIM は 2025 年初に Mesirov からハイイールド債券と小型株の運用力を加え、2022 年には Affirmative Investment Management のサステナブル投資能力を取り込んだ。一方で、2023 年 3 月に買収したプライベートクレジット運用会社 Raven Capital Management は統合に至らず、2024 年 4 月に Raven の社員による買い戻しが行われた。親会社である MetLife Inc.はオーガニック成長と買収を通じた成長の双方を重視しており、MIM の規模拡大と多様化を後押しする一方、同社の移行期を長引かせる要因にもなっている。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	90	15 /60

残高 (10 億円)

パインブリッジ・キャピタル証券ファンド(H 無)	56
パインブリッジ・キャピタル証券ファンド(H 有)	35
パインブリッジ・グローバル・テクノロジー・インフラ	24
パインブリッジ厳選インド株式ファンド	17
パインブリッジ・ワールド株式・オープン	11

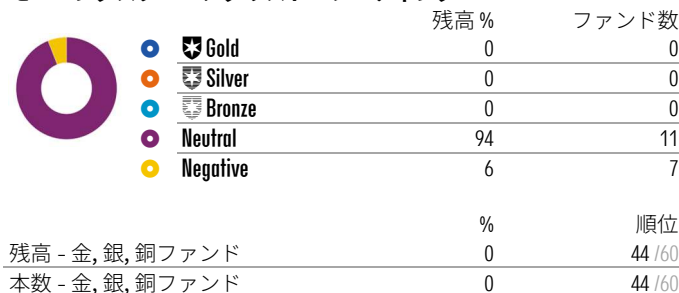
商品ラインアップの変化

		順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	15	48 /60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	0	1 /60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	5	25 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	8	52 /60
投信: 平均運用期間 (年)	12.5	
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0	

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	29	16 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



パフォーマンス

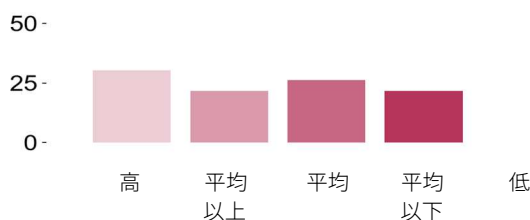
モーニングスター・レーティング平均	2.9	順位
		32 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	46	24 /60
成功率 (5 年)	32	33 /60
成功率 (10 年)	15	41 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	64	順位
		49 /60



マニユライフ

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均以上	純資金流出入額			純資金流出入率			
評価日	1/15/2025	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	
アナリスト	Morningstar Manager Research	日本	157	47 /60	-36.0	52 /60	-19.1	58 /60

モーニングスター運用会社分析コメント

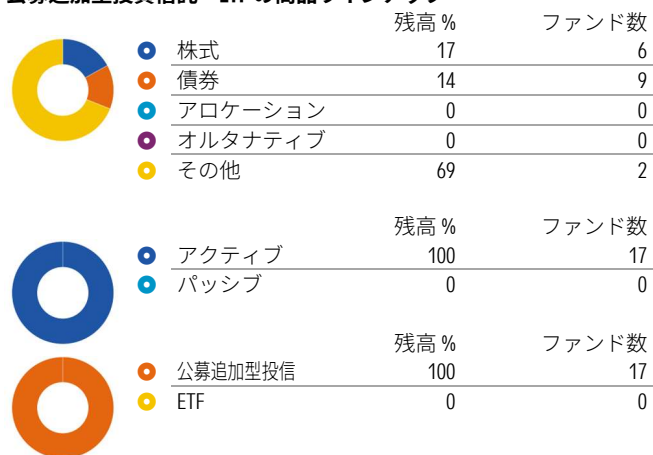
マニユライフ・インベストメント・マネジメントは、世界各地域においてベストプラクティスを浸透させており、運用会社評価を引き続き「平均以上」とする。

カナダ拠点の保険会社マニユライフ・ファイナンシャルの資産運用部門である同社は、4大陸にわたる世界的なネットワークを確立しており、2024 年 9 月時点で 1 兆カナダドルを超える運用資産残高を有する。同社は、運用部門およびウエルス・マネジメント部門を単一のグローバルな部門に統合し、市場をまたいだ部門間の連携を強化した。個人向け、年金・リタイアメント向け、機関投資家向けの 3 つのチャネルを横断するグローバルチームが各地域のビジネス責任者をサポートし、地域の特定のニーズを考慮しながら、それぞれの市場でベストプラクティスが実行されるようにしている。

再編に伴い、2023~24 年には業務の重複を解消するための人員削減が行われた。運用部門も例外ではなく、弱点の補強やチーム間のコミュニケーション改善を目的とした施策が実施された。2023 年 12 月には、長年勤務したベテランである Chris Conkey 氏の退職に伴い、パブリック・マーケットの CIO に Colin Purdie 氏が就任し、ポートフォリオ構築やリスク管理への注力が一層強化され、チーム間の協力体制もさらに向上した。

マネジャーリサーチは依然として同社の強みであり、企業の系列に関わらず優秀な運用者を優先する姿勢を長年維持している。米国ではジョン・ハンコック・ファンドのラインアップにおいてはサブアドバイザーを積極的に活用しており、カナダ拠点では長年にわたるマーワーとの提携がラインアップの補完に寄与している。アジアでは主に社内チームを活用しており、一部で人員の入れ替わりはあったものの、運用チームは全体として堅実である。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	88	16 /60

残高 (10 億円)

マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム(年 1 回)	67
マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム(3 ヶ月)	42
好利回り円債・短期戦略ファンド(年 1 回決算型)	13
マニユライフ・米国銀行株式ファンド	11
マニユライフ・新グローバル配当株 F(毎月分配)	7

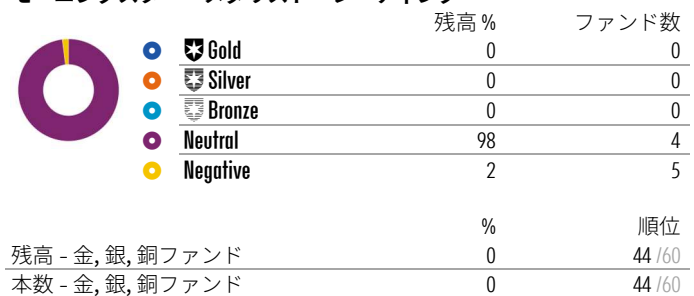
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	13 44 /60
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	0 1 /60
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	4 17 /60
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	13 58 /60
投信: 平均運用期間 (年)	8.9
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	33	8 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング

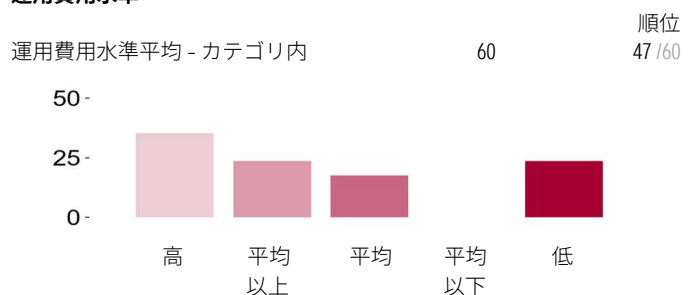


パフォーマンス



	%	順位
成功率 (3 年)	25	52 /60
成功率 (5 年)	24	43 /60
成功率 (10 年)	8	47 /60

運用費用水準



コモンズ投信

ファンド運用資産残高 (単位: 10 億円)

運用会社評価	平均以上			純資金流入額		純資金流出率		
評価日	6/25/2026	運用資産残高	順位	直近 1 年	順位	直近 1 年	順位	
アナリスト	柳 珠里	日本	117	52 /60	2.9	34 /60	3.4	31 /60

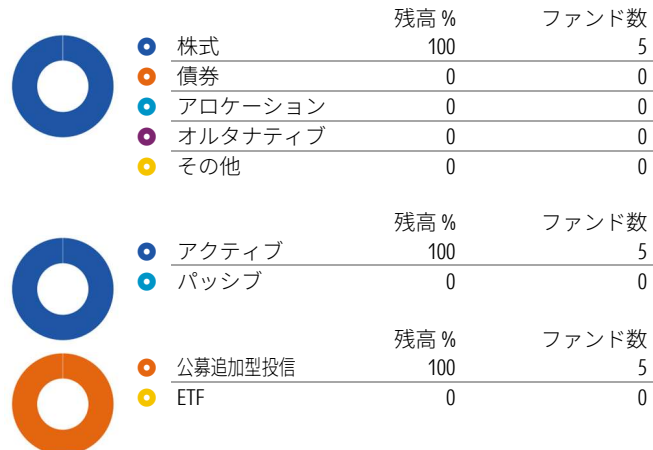
モーニングスター運用会社分析コメント

長期投資と投資家第一主義を貫く姿勢、および規律のある商品設定は、コモンズ投信の「平均以上」の運用会社評価を維持。

コモンズ投信は、株式の長期アクティブ運用を専門とする独立系資産運用会社である。同社は販売チャネルを厳選し、資産規模の拡大を目的とした商品設定を一貫して避けてきた。このような姿勢が、揺るぎない投資文化と強固な投資家基盤の形成につながっている。運用資産残高は、継続的な資金流入と良好な市場環境を追い風に、2025 年 12 月末時点で 1,432 億円に達した。同社初の本格的なグローバル株式ファンドである「コモンズ・グローバル 30」は、2025 年 12 月に設定された。同ファンドのサブアドバイザーにはウォルター・スコット社が選定されているが、この選定に至るまでに複数年をかけてグローバル株式の運用会社の評価を重ねてきた。選定の決め手となったのは、長期投資哲学における高い親和性であった。このような慎重な商品ラインアップの拡充は、短期的な商業上の利益よりも投資の一貫性と誠実性を重視する同社の姿勢と整合的である。

もっとも、いくつかの点については引き続き注視が必要である。同社の収益および運用資産の成長は、旗艦ファンドである日本株運用の「コモンズ 30」を中心に、一部の戦略に集中している状況にある。また、後継者計画も課題である。運用チームの拡充や役割分担の明確化など一定の進展は見られるものの、正式な後継者計画の枠組みはいまだ確立されていない。代表取締役社長（CEO）、最高投資責任者（CIO）、そしてリード・ポートフォリオ・マネジャーを兼務する伊井哲朗氏は、運用、業務運営および経営戦略にわたる広範な責務を引き続き担っている。共同創業者として長年にわたり同社を牽引してきた同氏は、企業文化の醸成と経営方針の形成において中心的な役割を果たしてきた。協働的な運用プロセスの構築や近年のチーム人員拡充により、リスクはある程度低減されている。しかし、特定個人への責任集中に起因するキーパーソンリスクは依然として解消されておらず、総合的な評価における確信度を制約する要因となっている。

公募追加型投資信託・ETF の商品ラインアップ



残高上位ファンド

残高上位 5 ファンド	残高 %	順位
	100	1 /60

	残高 (10 億円)
コモンズ 30 ファンド	97
ザ・2020 ビジョン	13
まあい未来共創ファンド cotocoto	4
コモンズ 30+しずぎんファンド	2
コモンズ・グローバル 30 ファンド	1

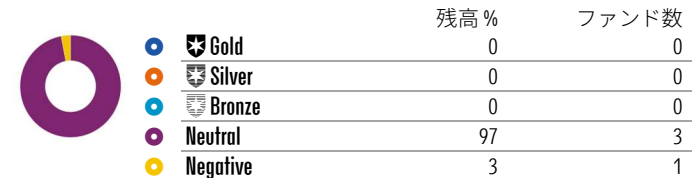
商品ラインアップの変化

	順位
投信・ETF 新規設定率 (%、1 年)	33 /57
投信・ETF 償還率 (%、1 年)	0 /1
投信・ETF 新規設定率 (%、5 年)	17 /54
投信・ETF 償還率 (%、5 年)	0 /1
投信: 平均運用期間 (年)	8.7
ETF: 平均運用期間 (年)	0.0

サステナビリティ

	%	順位
ESG リスク低・平均以下のファンド	33	8 /60

モーニングスター・メダリスト・レーティング



	%	順位
残高 - 金, 銀, 銅ファンド	0	44 /60
本数 - 金, 銀, 銅ファンド	0	44 /60

パフォーマンス

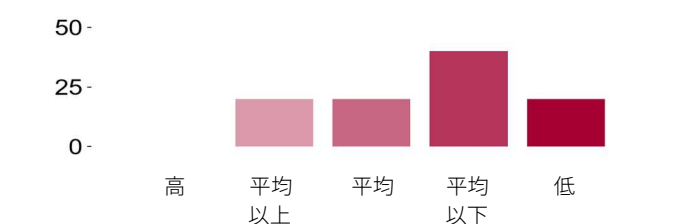
モーニングスター・レーティング平均	2.7	順位
		44 /60



	%	順位
成功率 (3 年)	33	42 /60
成功率 (5 年)	33	31 /60
成功率 (10 年)	33	15 /60

運用費用水準

運用費用水準平均 - カテゴリ内	40	順位
		9 /60



付録

付録では、運用会社ファクトシートに記載されているデータ項目と、その計算方法について詳述する。本レポートでは、各運用会社の公募追加型投資信託とETFのみを対象としている。短期金融資産のみに投資するファンドおよびその他の運用商品は除外している。

ファクトシートには残高上位 60 社中における各運用会社の順位が示されている。多くの順位は、優れているものから劣っているものへの順に示されている。ただし、運用資産残高や資金流入額のように、グループ内で最大から最小への順に示される場合もある。

すべてのデータは 2026 年 6 月 30 日時点のものである。ただし、運用会社評価については、ファクトシートに記載されている評価日時点のものである。

モーニングスターのレーティングとパフォーマンス

モーニングスターは資産運用会社の調査を実施し、**運用会社評価**および**モーニングスター・メダリスト・レーティング**を付与している。これらの評価は、各運用会社とそのファンドに対するモーニングスターのマネジャー・リサーチ部門の見解を示すものである。

- ▶ 運用会社評価は、高評価から低評価への順番で、**高 (High)**、**平均以上 (Above Average)**、**平均 (Average)**、**平均以下 (Below Average)**、**低 (Low)** の 5 段階評価で示される。
 - ▶ **モーニングスター運用会社分析コメント**は、運用会社が投資家本位の姿勢をどの程度保ち、運用を中心とした企業文化を維持しているかについてのモーニングスターの見解を記載したものである。
 - ▶ 一部の運用会社のモーニングスター運用会社分析コメントは、1 ページに収まるよう、原文を編集して掲載している。編集前の分析コメント全文は、モーニングスターのサービスまたは製品上の「モーニングスター運用商品レポート」にて確認いただける。なお、外資系運用会社の場合、コメントは英語の原文を翻訳したものであるため、英語の原文に記載の内容が優先される。
 - ▶ **評価日**は、運用会社に対する最新の運用会社評価公表日を示している。
 - ▶ 担当アナリストが異動や退職等でモーニングスターのマネジャー・リサーチ部門から離任している場合、**アナリスト欄**には「Morningstar Manager Research」と表示される。

- ▶ **モーニングスター・メダリスト・レーティング**は、高評価から順に、**金 (Gold)**、**銀 (Silver)**、**銅 (Bronze)**、**中位 (Neutral)**、**下位 (Negative)** の5段階で示される。
 - ▶ メダリスト・レーティングは、運用費用がファンドのカテゴリ平均を上回る可能性に直接影響を与えることから、シェアクラス単位で付与される。なお、日本ではシェアクラス概念がないため、実質的にファンド・レベルで付与される。
- ▶ 運用会社の総運用資産残高に占める、メダリスト・レーティング各評価段階の割合の詳細は、チャートの横に示している。
- ▶ **モーニングスター・レーティング**は、モーニングスター・カテゴリ内でファンドのリスク調整後リターンを正規分布に基づいて評価するものである。上位 10%のファンドが5つ星、下位 10%が1つ星を獲得する。付与には最低3年間の運用実績が必要である。
- ▶ 運用会社のモーニングスター・レーティング平均は、当該運用会社が提供するすべてのファンドの総合モーニングスター・レーティングの単純平均である。
- ▶ 運用会社の総運用資産残高に占める、モーニングスター・レーティング各評価段階の割合の詳細は、チャートの下に示している。
- ▶ **成功率**は、計測期間において償還や併合をせずに存続し、かつカテゴリ内で上位半分以上の運用実績を残したファンドの割合を示している。
- ▶ 計測期間の開始時点で運用されていたが、期間終了前に償還されたファンドは、不成功としてカウントされる。
- ▶ 存続したが、運用費用控除後のリターンがカテゴリ内の中央値を下回ったファンドは、不成功としてカウントされる。
- ▶ 計測期間の開始後に設定されたファンドは、計算には含まれない。

運用資産残高

運用会社ファクトシートには、日本籍ファンドの**運用資産残高**および**純資金流入額**が示されている。**純資金流入率**は、期間中の純資金流入額を期首の運用資産残高で除した成長率である。

公募追加型投資信託とETFの商品ラインアップ

日本における各運用会社の商品ラインアップは次のように示している。

- ▶ **モーニングスター・カテゴリ・ブロード・グループ**は、4つの主要資産クラスである**株式**、**債券**、**アロケーション**、**オルタナティブ**における運用会社の内訳を示している。**その他**には、転換社債、コモディティ、不動産、その他が含まれる。
- ▶ **アクティブ**と**パッシブ**は、それぞれ、アクティブ運用を行うファンド、指数に連動しその指数のリターンと一致させることを目指すファンドを示している。
- ▶ **公募追加型投信**と**ETF**は、それぞれファンドの形態を示している。
- ▶ 各運用会社の**残高上位5ファンド**は、ファンドの運用資産残高に基づき決定される。一定程度のファンドの新規設定と償還は、投資家のニーズに応えるために避けられないが、過度なファンドの新規設定と償還は、市場のトレンドに安易に乗った運用戦略や、運用に対する確信が不十分なまま設定された運用戦略が多いことを示唆する可能性がある。

- ▶ **投信・ETF 新規設定率（1年）**は、基準日時点で運用されているすべてのファンドのうち、過去12カ月以内に新規設定されたファンドの割合を示している。この割合が高いほど、比較グループ内での順位は低くなる。
- ▶ **投信・ETF 新規設定率（5年）**は、基準日時点で運用されているすべてのファンドのうち、過去5年以内に新規設定されたファンドの割合を1年あたりの平均に換算したものである。
- ▶ **投信・ETF 償還率（1年）**は、計測開始時点で運用されていたが、計測期間終了前に償還されたファンドの割合を示している。この割合が高いほど、比較グループ内での順位は低くなる。
- ▶ **投信・ETF 償還率（5年）**は、過去5年間に償還されたファンドの割合を1年あたりの平均に換算したものである。
- ▶ **公募追加型投資信託およびETFの平均運用期間**は、各ファンドの運用年数の単純平均を示している。

運用費用水準

運用費用に関するデータは、運用会社の平均運用費用水準（カテゴリ内）で示している。

- ▶ 各ファンドの運用費用水準は、目論見書や運用報告書等に記載の総経費率（入手できない場合は実質信託報酬）を用い、モーニングスター・カテゴリ内でアクティブ・パッシブ別に百分率順位で求めている。
- ▶ 運用会社毎の運用費用の水準を評価するため、当該運用会社における各ファンドの運用費用水準の百分率順位を平均し、その運用会社の**平均運用費用水準（カテゴリ内）**を算出する。
- ▶ 各ファンドには、投資家にとって望ましい（運用費用が低い）ファンドから順に、**低（Low）**、**平均以下（Below Average）**、**平均（Average）**、**平均以上（Above Average）**、**高（High）**の5段階のスコアが付与される。
 - ▶ 運用会社の全ファンドに占める、5段階の割合を、平均運用費用水準の下でチャートに示している。

サステナビリティ

ファクトシートには、ESGリスクの大きさが「平均以下」または「低」のファンドの割合を示している。これは**モーニングスターESGリスク・レーティング²**に基づいており、ESGリスクの大きさが**低（Low ESG Risk）**の場合は、ESGリスク・レーティングが高（High ESG Risk Rating）（5つの地球儀のアイコンで表示される）に相当する。また、ESGリスクの大きさが**平均以下（Below Average ESG Risk）**の場合はESGリスク・レーティングが平均以上（Above Average）（4つの地球儀）に相当する。

- ▶ モーニングスターESGリスク・レーティングは、ポートフォリオのESGリスクへのエクスポージャーを定量的に測定するものである。ファンドがサステナブル投資の運用方針を採用しているかどうかを示すものではない。
- ▶ 本レポートでは、モーニングスターESGリスク・レーティングの対象となっているファンドのみを集計対象としている。

² ESGリスク・レーティングは、ファンドのポートフォリオに含まれる環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）に関する財務的に重要なリスクを、グローバル・カテゴリ内のファンドと比較して評価する定量的指標である。サステナリティクスが提供する企業およびソブリンのESGリスク評価と、過去12カ月間のファンド・ポートフォリオのデータから算出され、1グローバルから5グローバルまでの評価が付与される。詳細は『The ESG Risk Ratings for Funds Methodology』（Morningstar Research, Sustainalytics Research, 2025年）を参照されたい。
https://www.morningstar.com/content/dam/marketing/shared/research/methodology/744156_Morningstar_Sustainability_Rating_for_Funds_Methodology.pdf

索引

運用会社	ページ番号
アセットマネジメント One	19
アムンディ	32
アモーヴァ・アセットマネジメント	18
アライアンス・バーンスタイン	25
イーストスプリング・インベストメンツ	34
インベスコ	26
HSBC アセットマネジメント	35
SBI グローバルアセットマネジメント	22
キャピタル・グループ	28
ゴールドマン・サックス・アセット	29
コモンズ投信	45
JP モルガン・アセット・マネジメント	33
シュローダー	42
ステート・ストリート・インベストメント・マネジメント	37
スパークス・アセット・マネジメント	36
大和アセットマネジメント	17
ティー・ロウ・プライス	30
ドイチェ・アセット・マネジメント	41
野村アセットマネジメント	15
BNY・インベストメンツ	40
ピクテ	27
フィデリティ・インターナショナル	23
ブラックロック	24
フランクリン・テンプルトン	38
マニユライフ	44
三井住友 DS アセットマネジメント	20
三井住友トラスト・アセットマネジメント	21
三菱 UFJ アセットマネジメント	16
ミレーアセット (Global X)	31
メットライフ・インベストメント・マネジメント	43
UBS アセット・マネジメント	39

一般的な開示事項

本レポートにおいて「Morningstar」とは、Morningstar, Inc.および/またはその関連会社を指します。特段の合意がない限り、本レポートの受領者は、Morningstarの販売拠点が所在する国においてのみ本レポートを使用することができます。別段の定めがない限り、本レポートの原提供者は、米国に籍を置く金融機関であるMorningstar Research Services LLCです。

本レポートは情報提供のみを目的としたものであり、投資判断の唯一の情報源となるべきものではなく、いかなる特定の受領者の投資目的、財務状況、または個別のニーズを考慮して作成されたものではありません。本レポートは、投資家が自ら投資判断を行うための参考情報の提供を目的としており、特定の投資家に投資助言を行うものではありません。したがって、本レポートにおける記載内容や見解は、すべての投資家に適しているとは限りません。受領者は、自らの投資目的、経験、課税状況、財務状況に照らして、自らの判断により投資の適切性を判断する必要があります。

本レポートに記載されている情報、データ、分析、および意見は、正確性、正当性、完全性、または適時性を保証するものではありません。別段の定めがない限り、Morningstar, Inc.およびリサーチ・グループのいずれも、本レポートの内容が受領者の所在する管轄区域において適用されるすべての表示基準・開示基準を満たしていることを表明するものではありません。

法律で要求される場合または別段の定めがある場合を除き、アナリスト、Morningstar, Inc.、およびリサーチ・グループならびにそれらの役職員は、本レポート内の情報、データ、分析、または意見に起因して生じるいかなる取引上の判断、損害、またはその他の損失について、責任を負いません。本レポートの受領者は、投資判断を下す前に、対象となる証券に関連するすべての関連発行書類（目論見書など）を読み、投資目的、リスク、および費用に関連する情報等を確認し、必要に応じて、法務、税務、会計の専門家の助言を求めることが推奨されます。

本レポートおよびその内容は、法令その他諸規制に基づき配布、出版、利用が禁止されている地域、国、法域に所在する者を対象としたものではなく、また当該法域においてMorningstar, Inc.またはその関連会社に登録義務またはライセンス義務が課されることを意図したものではありません。

本レポートが英語以外の言語で利用可能である場合において、英語版と翻訳版との間に相違または解釈上の不明確さが生じた場合は、英語版が優先し、英語版の内容が最終的に適用されます。アナリスト、Morningstar, Inc.、およびリサーチ・グループのいずれも、翻訳の正確性を保証するものではありません。

本レポートは、特定の地域、国または法域（以下「区域」）においては、独立した第三者、独立した仲介者、または独立した販売業者（以下総称して「販売業者」）を通じて配布される場合があります。当該販売業者は、アナリスト、Morningstar, Inc.、またはリサーチ・グループの代理人または代表者として行動しているものではありません。本レポートが販売業者によって配布される区域においては、当該販売業者が、第三者のリサーチレポートの配布に関連する法律を含め、当該国または地域の規制当局により定められたすべての適用法令規則、通達、規範およびガイドラインを遵守する責任を単独で負うものとします。

リスク警告

本レポートに記載された証券への投資は、市場リスクおよびその他のリスクを伴うものであり、意図した投資目的が達成されるという保証や確証はありません。証券の過去の運用実績は、将来にわたり維持されるとは限らず、将来の成果を示すものではありません。証券投資の収益および投資の元本価値は変動するため、償還時に投資元本を上回る場合も下回る場合もあります。

証券の現在の投資パフォーマンスは、本レポートに記載されている投資パフォーマンスを下回る場合も上回る場合もあります。モーニングスターの「不確実性レーティング」は、適正価値の算定に使用される前提条件の感応度分析に関する有用なデータ項目として機能します。

- ▶ Morningstar は、リサーチの提供に対して手数料を受領せず、レーティングを付与する対価として発行体から料金を受領することはありません。
- ▶ Morningstar の従業員は、Morningstar の法務部門および必要に応じてコンプライアンス部門の承認なしに、投資業界(ファイナンシャル・プランナー、投資専門家または投資専門家代理人、ブローカー・ディーラーまたはブローカー・ディーラー代理人、金融ライター、記者、またはアナリスト等)において、Morningstar 外部で事業または雇用の機会を求めることはできません。
- ▶ 一部の運用商品は、Morningstar, Inc.が作成しライセンス供与した指数を連動対象指数として使用しています。当社は、そのような運用商品について定性的な分析を行わないこと、必要に応じて技術的および非技術的な情報障壁を設けコンプライアンス部門による監視を行うことにより、実際のまたは潜在的な利益相反を軽減します。

- ▶ Morningstar, Inc.およびリサーチ部門のいずれも、本レポート内に記載されている有価証券のマーケット・メーカーまたは流動性プロバイダーではありません。gMorningstar, Inc.およびリサーチ部門のいずれも、過去 12 カ月間において、発行体の金融商品の公募の主幹事または副幹事を務めたことはありません。
- ▶ Morningstar, Inc.の投資運用部門は、金融機関との間で、ポートフォリオ運用/投資助言を提供する取り決めをしており、その一部についてアナリストが投資調査レポートを発行することがあります。さらに、同部門は、モデル・ポートフォリオを作成し管理しています。その基礎となる保有資産には、本レポートの対象となる金融商品が含まれる場合があります。ただし、アナリストは Morningstar の投資運用部門の事業上の取り決めに対する権限を持たず、また、同部門の従業員がアナリストによって作成された分析または意見に関与または影響を及ぼすことはありません。
- ▶ Morningstar, Inc.は、上場会社（ティッカー: MORN）であるため、本レポートの対象となる運用商品を保有する金融機関が Morningstar, Inc.の発行済株式総数の 5%超を保有する場合があります。Morningstar, Inc.の直近の「委任状勧誘書類」にアクセスし <https://shareholders.morningstar.com/investor-relations/financials/sec-filings/default.aspx> にある「特定の実質所有者及び経営者の証券所有状況」の項をご参照ください。運用商品が Morningstar の株式を保有していることは、その運用商品を調査対象とするかどうかの Morningstar の判断には一切影響を与えることはなく、評価対象とする判断の要件ではありません。

Morningstar, Inc.は、商品の発行体またはその関連会社に対し、ソフトウェア製品およびライセンス、リサーチおよびコンサルティングサービス、データサービス、販促資料への当社レーティングおよびリサーチの再掲載のためのライセンス、イベントのスポンサーシップ、ウェブサイト広告を含むサービスまたは製品を、有償かつアームズ・レングスの原則に基づいて提供することがあります。

Morningstarの利益相反に関する方針の詳細については、<http://global.morningstar.com/equitydisclosures>をご参照ください。アナリストは、CFA協会の倫理規範および専門職行為基準の適用を受けることにご留意ください。

リサーチ・グループが現在カバーし、書面による分析を提供している有価証券のリスト、またはフェアバリュー推計を含むカバー対象有価証券の過去の分析については、お近くのMorningstarオフィスまでお問い合わせください。Morningstarのリサーチ手法については、Investor Relations | Morningstar, Inc.をご参照ください。

現在Morningstarのクライアントである方は、貴社においてこの調査を最大限に活用する方法の詳しい情報については担当のクライアント・サクセス・マネジャーまでお問い合わせください。その他の方は、Morningstarの各種サービスおよびこの調査を活用する方法の詳細については、当社のビジネス・デベロップメント・チーム(dtainsidesales@morningstar.com)までお問い合わせください。

オーストラリアの受領者の場合: 本レポートは、オーストラリアにおいてMorningstar Australasia Pty. Ltd.(ABN: 95 090 665 544; ASFL: 240892)によって発行され、配布されています。Morningstar Australasia Pty. Ltd.は、一般的助言（以下「本サービス」）の提供者であり、本レポートの作成に責任を負います。本サービスは、投資商品の調査を通じて提供されます。本レポートが一般的助言を含む範囲において、投資家の目的、財務状況、またはニーズを考慮することなく作成されています。投資家は、投資を決定する前に、これらの事項、および該当する場合は関連する商品開示書を考慮した上で、本助言を検討すべきです。詳細については、<http://www.morningstar.com.au/s/fsg.pdf>にあるFinancial Services Guideをご参照ください。

ニュージーランドの受領者の場合: 本レポートは、Morningstar Australasia Pty. Ltd.および/またはMorningstar Research Ltd（併せて「Morningstar」）によって発行され、配布されています。本レポートは、ニュージーランドのホールセール顧客のみへの配布を意図して作成されており、ニュージーランドのリテール顧客による使用のために作成されたものではありません（これらの用語は2013年金融市場行為法で定義されている通り）。

本レポートに含まれる情報、見解、およびいかなる推奨も、一般的な情報提供のみを目的として提供されており、本レポートで特定されている企業および投資機会のみに関連するものです。当社のレポートは、特定の投資家の財務状況、目的、またはリスク選好を考慮するものではなく、言及されたいかなる金融商品についても特定の投資家に対する適合性を示唆するものと解釈されるべきではありません。投資判断を下す前に、ファイナンシャル・アドバイザーに相談することを推奨します。

カナダの受領者の場合: 本リサーチは、カナダにおける開示要件に従って作成されたものではありません。

欧州の受領者の場合: 本レポートは、Morningstar, Inc.の完全子会社であるMorningstar Holland B.V.によって配布されています。Morningstar Holland B.V.は、投資調査データの提供について欧州証券市場監督局による規制を受ける必要はありません。本レポートの作成に関与したアナリストは、特定の投資家の財務状況、目的、またはリスク選好を考慮しておらず、言及されたいかなる金融商品についても特定の投資家に対する適合性を示唆するものと解釈されるべきではありません。登録住所: Haaksbergweg 58, 9th Floor, 1101 BZ Amsterdam, North Holland, Netherlands。

インドの受領者の場合: 本レポートは、Morningstar Investment Research India Private Limited（旧称Morningstar Investment Adviser India Private Limited）によって発行されています。Morningstar Investment Research India Private Limitedは、SEBIに投資顧問（登録番号INA000001357）、ポートフォリオ・マネジャー（登録番号INP000006156）、および調査機関（登録番号INH000008686）として登録されています。Morningstar Investment Research India Private Limitedは、SEBIまたはその他の法的/規制当局による懲戒処分を受けたことはありません。Morningstar Investment Research India Private Limitedは、Morningstar Investment Management LLCの完全子会社です。インドにおいて、Morningstar Investment Research India Private Limitedは、データ関連サービス、財務データ分析、およびソフトウェア開発を提供するMorningstar India Private Limitedという1つの関連会社を有しています。リサーチ・アナリストは、過去12カ月間、ファンド会社の役員、取締役、または従業員を務めたことはなく、また同社またはその関連会社がファンド会社のマーケット・メイキング活動に従事したことはありません。

香港の受領者の場合: 本レポートは、プロの投資家のみに投資調査および投資助言サービスを提供するよう香港証券先物委員会の規制を受けているMorningstar Investment Management Asia Limitedによって配布されています。Morningstar Investment Management Asia Limitedおよびその代表者は、Morningstar Investment Management Asia Limitedが明示的に合意しない限り、本情報のいかなる受領者に対しても投資助言者として行動せず、また、そのようにみなされることもありません。

日本の受領者の場合: 本レポートは、情報提供のみを目的として、モーニングスター・ジャパン株式会社が配布しています。モーニングスター・ジャパン株式会社も、その代表者も、本情報のいかなる受領者に対しても投資助言者として行動することはなく、また、そのようにみなされることもありません。

韓国の受領者の場合: 本レポートは、情報提供のみを目的として、金融監督院に届出をしているMorningstar Korea Ltd.が配布しています。Morningstar Korea Ltd.およびその代表者は、本情報のいかなる受領者に対しても投資助言者として行動せず、また、そのようにみなされることもありません。

シンガポールの受領者の場合: 本レポートは、シンガポール金融管理局によりシンガポールで金融助言サービスを提供するライセンスを受け、規制されているMorningstar Investment Adviser Singapore Pte Limitedによって配布されています。本レポートの受領者は、本レポートを踏まえた投資判断については、シンガポールのファイナンシャル・アドバイザーに連絡すべきです。Morningstar, Inc.およびその関連会社は、シンガポールの受領者に投資調査を提供するために特定の免除規定(金融アドバイザー規則、第27条(1)(e)、第32条、および第32C条)に依拠しています。

英国の受領者の場合: 本レポートは、Morningstar, Inc.の完全子会社であるMorningstar UK Ltdによって配布されています。Morningstar UK Ltdは、投資調査データの配布について金融行為監督機構への登録または認可を受ける必要はありません。本レポートの作成に関与したアナリストは、特定の投資家の財務状況、目的、またはリスク選好を考慮しておらず、言及されたいかなる金融商品についても特定の投資家に対する適合性を示唆するものと解釈されるべきではありません。Morningstar UK Ltdと英国を拠点とするMorningstar規制対象事業体との間には情報障壁が設けられています。登録住所: 1 Oliver's Yard 55-71 City Road London EC1Y 1HQ。

Morningstar Manager Research Services ディスクロージャー (日本)

モーニングスター・マネジャー・リサーチについて

モーニングスター・マネジャー・リサーチは、運用商品の戦略に対し、独立の立場からのファンダメンタル分析を提供しています。運用担当者（People）、運用プロセス（Process）、運用会社（Parent）の3つの主要な評価軸についてのアナリストのリサーチに基づく見解は、モーニングスター・メダリスト・レーティングとして公表されます。世界中のリサーチチームが、投資商品、資産クラス、および各地域にまたがる戦略について、詳細なアナリスト・レポートを発行しています。メダリスト・レーティングは、意見であり、事実の表明するものではなく、将来のパフォーマンスを示唆または保証するものではありません。

モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスについて

モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスは、モーニングスターのファンドリサーチ・レポート、レーティング、ソフトウェア、ツール、およびモーニングスター独自のデータの提供と、モーニングスターのマネジャーリサーチ・アナリストへのアクセスを同時に実現させています。銀行、ウェルスマネジャー、保険会社、政府系ファンド、年金基金、エンダウメント（寄贈基金）、財団などの機関投資家が、内部で行うデューデリジェンスを補完する機能を提供しています。モーニングスターのマネジャー・リサーチ・アナリストは、Morningstar, Inc.のさまざまな完全子会社（Morningstar Research Services LLC (USA)、Morningstar UK Ltd、および Morningstar Australasia Pty Ltd が含まれますが、これらに限定されません）に所属しています

お問い合わせ先

Morningstar Manager Research Services
ManagerResearchServices@Morningstar.com



モーニングスター・ジャパン株式会社
東京都港区新橋 1-1-1 日比谷ビルディング 6 階

©2026 Morningstar. All Rights Reserved. 別段の合意がない限り、本資料は配信者の所在する国においてのみ使用することができます。本資料に記載されている情報、データ、分析、意見は、投資助言ではなく情報提供のみを目的としたもので銘柄の売買を推奨するものではありません。また、情報の正確性や完全性を保証するものでもありません。本資料の内容は、記載された日付時点のものであり、予告なく変更されることがあります。モーニングスターは、法律により定められている場合を除き、本資料の情報、データ、分析、意見を利用して行ったいかなる投資の判断、損失、損害に責任を負いません。本資料にはモーニングスターの専有情報が含まれており、モーニングスターから事前の書面による承諾がない限り、当資料の一部あるいは全ての複製ならびに再配布等の使用はできません。過去のパフォーマンスは、必ずしも金融商品の将来のパフォーマンスを示唆するものではありません。リサーチに関するライセンス利用のお問い合わせは+1 312 696-6869までご連絡ください。